

# 令和元年度第2回 県民の幸福感に関する分析部会

日時：令和元年9月4日(水) 13:15～16:45

場所：エスポワールいわて 3階特別ホール

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 題

- (1) 「県民の幸福感に関するパネル調査（仮称）」の設計について
- (2) 県民意識調査の分析について
- (3) その他

### 3 閉 会

第2回県民の幸福感に関する分析部会 出席者名簿

(委員等)

氏名	職名等	備考
竹村 祥子 (たけむら さちこ)	国立大学法人岩手大学 人文社会科学部 教授	
谷藤 邦基 (たにふじ くにき)	株式会社イーアールアイ 取締役	(欠席)
Tee Kian Heng (ティー・キャン・ヘーン)	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 教授	
山田 佳奈 (やまだ かな)	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 准教授	
吉野 英岐 (よしの ひでき)	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 教授	
若菜 千穂 (わか な ちほ)	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 常務理事	
広井 良典 (ひろい よしのり)	京都大学 こころの未来研究センター 教授	オブザーバー

※敬称略・五十音順

(事務局)

部局	職名	氏名
政策地域部	副部長兼政策推進室長	小野 博
政策地域部 政策推進室	政策監	村上 宏治
	評価課長	北島 太郎
	主任主査	和川 央
	主任主査	佐々木 誠
	主査	鎌田 憲光
	主事	照井 柊子
政策地域部 調査統計課	主任主査	川村 道敬
	主任主査	桜田 康子

## 県民の幸福感に関する分析部会 配付資料一覧

- 資料 1-1 幸福感分析部会で議論する幸福感について
- 資料 1-2 「幸福」概念の諸相と様々なアプローチ
- 資料 2-1 「県民の幸福感に関するパネル調査（仮称）」意向確認対象者について
- 資料 2-2 「県民の幸福感に関するパネル調査（仮称）」調査項目について
- 資料 2-3 パネル調査調査票イメージ
- 資料 3-1 県民意識調査の分析結果について
- 資料 3-2 県民意識調査の時系列変化
- 参考資料 パネル調査票案に対する委員からの意見及び対応案

# 幸福感分析部会で議論 する幸福感について

## [内容]

1. 幸福感の概念
2. 分析部会の議論の対象
3. パネル調査の設計

岩手県政策推進室  
令和元年9月4日

## 1. 幸福感の概念(1) 把握方法

手法	主観的評価 (回顧評価)	客観的評価 (リアルタイム評価)
主な 内容	幸福感をどのよう に感じているのか、 アンケート調査等 で把握する。	幸福感の状態を、表 情、脳波、生理現象 等を客観的に把握 する。
主な 分野	心理学、 (古典的)経済学 など	医学(神経経済学)、 一部の行動経済学 など

部会の対象

※アンケートによる主観的評価をリアルタイムに実施する手法もある(経験標本評価)。

# 1. 幸福感の概念(2) 把握対象

手法	社会の幸福感	個人の幸福感
主な内容	地域やコミュニティの幸福感がどのような傾向にあるのかを把握する。 ※ <u>全体的・普遍的傾向</u> と <u>社会的要因</u> を重視する傾向 部会の対象	個人の幸福感の状況を掘り下げて把握する。 ※多様性・個性と主観的要因を重視する傾向
主な分野	(古典的)経済学など	心理学など

# 1. 幸福感の概念 (3) 分析アプローチ

手法	ボトムアップ・アプローチ	トップダウン・アプローチ
主な内容	幸福感は状態であり、いくつかの要素で構成されると定義し、 <u>幸福感の要因</u> を構成要素で説明する。 部会の対象	幸福感は特性、反応であると定義し、幸福感の要因を直接説明する。
主な分野	(古典的)経済学など	医学、心理学など

## 2.分析部会の議論の対象

➤これまでのまとめ

分析部会では、

① **県民意識調査で把握した幸福感を**

② **12分野実感ごとに**

③ **地域としての傾向を**

④ **社会的要因(政策)に着目しながら**

議論していただきたい。

## 3.パネル調査の設計

### (1)調査目的

政策評価に反映させるため、県民の主観的な幸福感の変動要因を把握するもの。

### (2)分析方針

県民意識調査で得られた12分野別実感ごとに、各実感が変化した社会的要因(社会環境)を把握することを主目的とする。

### (3)設問設定

主たる設問は分野別実感の要因とし、属性やイベントは補足的設問とする。

# 「幸福」概念の諸相と 様々なアプローチ

広井良典

(京都大学こころの未来研究センター)

[hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp](mailto:hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp)

## OECDの幸福度指標プロジェクト(Better Life Initiative)における枠組み

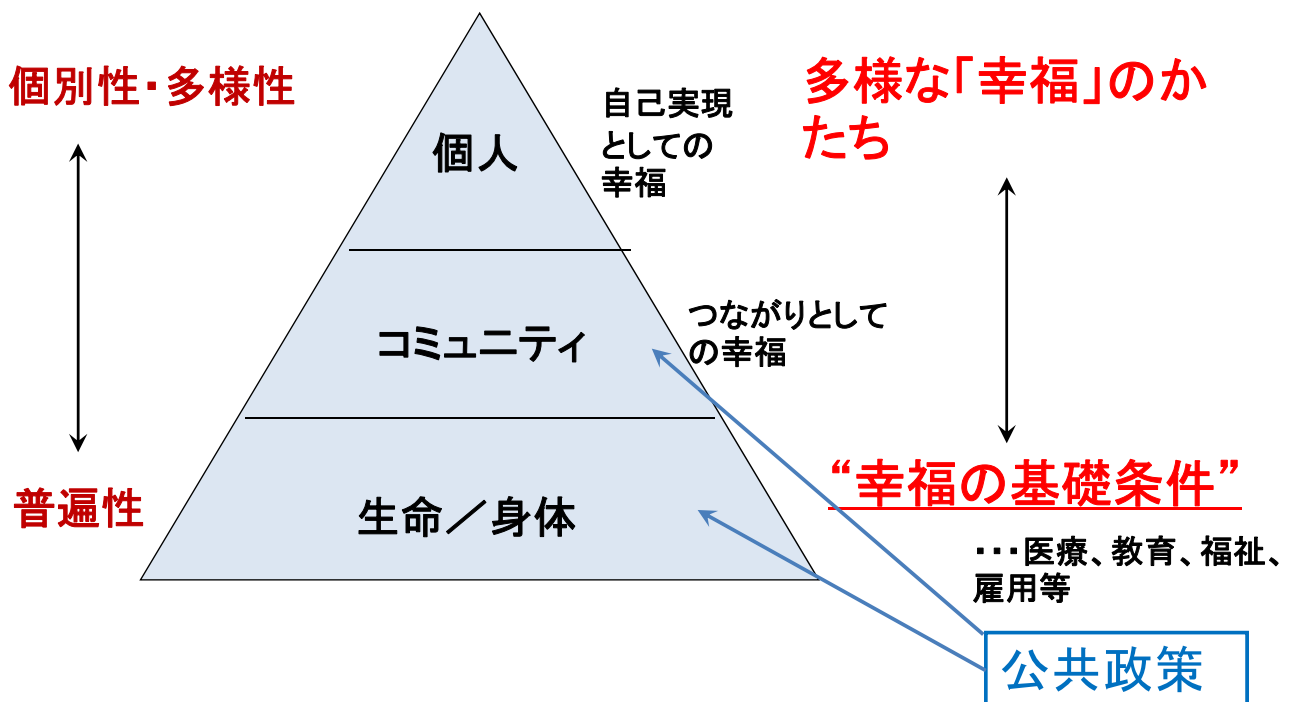
- (1) 個人の幸福 (Individual Well-being)
  - A. **生活の質** (Quality of Life)
    - …健康、ワークライフバランス、教育と技能、社会的つながり、市民的参加とガバナンス、環境の質、安全、主観的幸福度
  - B. **物質的条件**
    - …所得と富、仕事と稼ぎ、住宅
- (2) 幸福の継時的な持続可能性 (Sustainability of Well-being over time)
  - …**自然資本**、経済的資本、人的資本、**社会関係資本**

# 「幸福」とは？…二つの「幸福」概念

	リベラリズム的な幸福観	コミュニタリアニズム的な幸福観
基本的出発点	個人の自由	コミュニティ
人間観	効用(utility)の極大化	利他性や協調性
時代性との関わり	近代的価値	伝統的な価値も重視 Ex. 伝統文化 世代間継承性
性格	「権利(right)」としての幸福 cf. 幸福追求権	「善(good) = よく生きること」としての幸福
志向	拡大・成長志向	定常志向 ～持続可能性
幸福(well-being)の内容	Happiness ハピネス	Contentment(ないし Contentedness) “知足”、充足、平安

(参考) アリストテレスの「エウダイモニア」(善き人生) vs ヘドニズム(快樂主義)

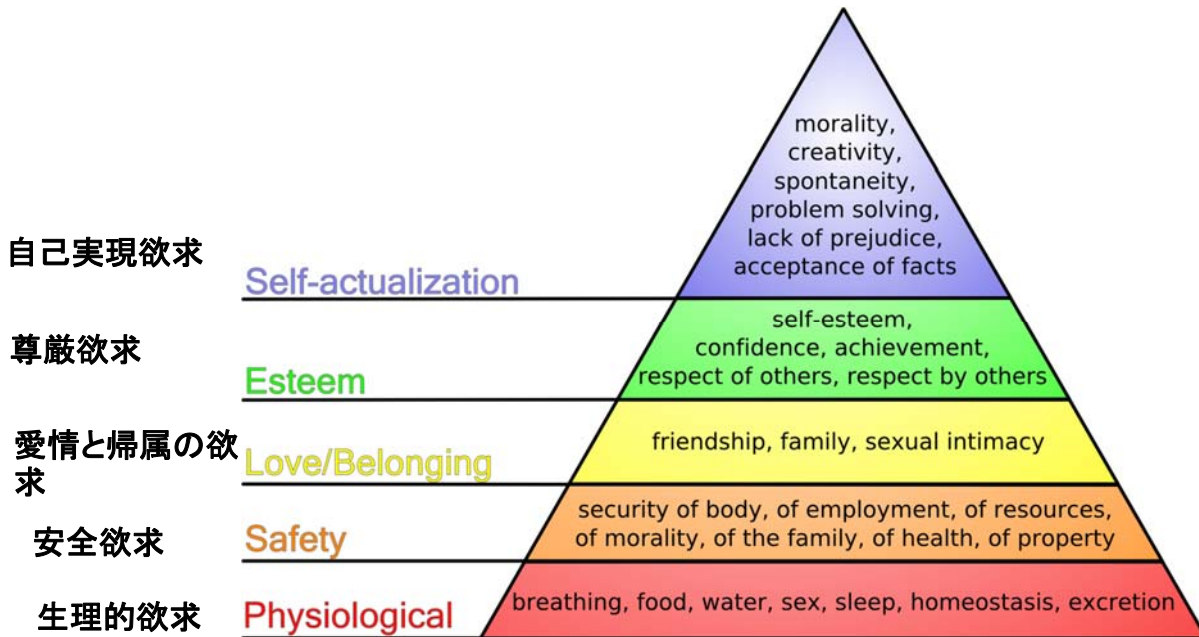
## 幸福をめぐる重層的構造と公共政策





# (参考)マズローの欲求段階説と幸福度指標

現代社会においては“高次”の欲求も重要に。



(注)マズローに代表される「人間的心理学(humanistic psychology)」は、近年注目されている「**ポジティブ心理学**」(幸福が主要なテーマ)の源流の一つとされる。

## (参考)イースタリン(アメリカの経済学者)のパラドックス(1974)

- ある国ないし社会における個人の所得と主観的幸福度との間には一定の相関あり。
- 一方、国を比較すると、平均所得が高くなってもそれに応じてその国の主観的幸福度が高くなるとは必ずしも言えない。
- ……なぜか？
- 考えられる要因
- ①人にとって重要なのは**絶対所得**より**相対所得**(**他者との比較**)。
- ②時間の経過とともに人は**環境の変化に適応**。
- ③**所得以外の要因**が主観的幸福度に影響。

# 国連・持続可能な発展ソリューション・ ネットワーク『世界幸福報告(World Happiness Report) 2018』での評価項目



1位フィンランド、日本は54位。

- 一人当たりGDP
- 社会的支援 (social support)
- 健康寿命
- 社会的自由 (freedom to make life choices)
- 寛容さ
- 汚職の無さ

## 「県民の幸福感に関するパネル調査（仮称）」意向確認対象者について

### 1 選定の手順（第1回部会です承済）

#### (1) 調査対象候補者の意向確認[10月頃]

平成31年1月に実施した県民意識調査で、当調査に協力いただける候補者を把握していることから、10月を目途に、改めて調査協力への意向を確認する。

- ・ 調査対象候補者 2,096\*人（協力しても良い619人、どちらでもよい1,477人）
- ・ 意向確認対象者 1,500人（各広域振興局 375人×4）

※ 精査の結果、第1回部会資料の数値を以下のとおり修正した。  
2,099人（どちらでもよい1,480人） → 2,096人（どちらでもよい1,477人）

#### (2) 調査対象者の決定[12月頃]

(1)で把握した候補者から、調査対象者 600人（各広域振興圏 150人×4）を決定する。

### 2 意向確認対象者の選定方針（第1回部会での協議結果を反映）

以下の選定方針に基づき、広域振興圏別に選定した。

#### (1) 広域振興圏ごとに均等に選定

- ① 候補者の少ない県北広域振興圏は361人全員を選定。
- ② 県北以外の振興圏は各380人を選定。

#### (2) 39歳以下及び「協力してもよい」との回答者は全員選定

- ① 県外への転出率及び調査への未回答率が高いと想定される若年層を優先して選定するため、39歳以下は候補者全員選定。
- ② 回収率の低下を軽減するため、「協力してもよい」と回答した方は全員選定。

#### (3) 40歳以上かつ「どちらでもよい」との回答者について、

- ① 40歳以上の各年齢層が均等になるよう人数を割り付け\*。
- ② ①で割り付けた人数に基づき無作為に選定。

※ 候補者の人数が少ない年齢層は割付が均等でない場合がある。

### 3 選定結果

#### (1) 地域別の意向確認対象者人数

地域	合計 ( a + b )	協力しても よい(a)	どちらでも よい(b)	(調査対象 候補者)
県央広域振興圏	380	175	205	605
県南広域振興圏	380	198	182	632
沿岸広域振興圏	380	140	240	498
県北広域振興圏	361	106	255	361
合計	1,501	619	882	2,096

## (2) 意向確認対象者の属性

### ① 県全体

	属性	抽出前		抽出後		(参考)H27 国勢調査	
性別	1:男性	1,073	51.2%	794	52.9%	533,930	47.6%
	2:女性	1,014	48.4%	700	46.6%	587,529	52.4%
	-:不明	9	0.4%	7	0.5%	-	-
年齢	1:18～19歳	23	1.1%	23	1.5%	*58,332	5.2%
	2:20～29歳	111	5.3%	111	7.4%	103,961	9.3%
	3:30～39歳	199	9.5%	199	13.3%	140,813	12.6%
	4:40～49歳	288	13.7%	246	16.4%	161,622	14.4%
	5:50～59歳	370	17.7%	292	19.5%	169,885	15.1%
	6:60～69歳	489	23.3%	307	20.5%	200,514	17.9%
	7:70歳以上	577	27.5%	306	20.4%	286,332	25.5%
	-:不明	39	1.9%	17	1.1%	-	-
職業	1:自営業主	215	10.3%	139	9.3%	68,199	6.1%
	2:家族従業者	66	3.1%	47	3.1%	37,579	3.4%
	3:会社役員・団体役員	141	6.7%	110	7.3%	24,520	2.2%
	4:常用雇用者	616	29.4%	507	33.8%	352,377	31.4%
	5:臨時雇用者	272	13.0%	208	13.9%	147,474	13.2%
	6:学生	34	1.6%	34	2.3%	59,839	5.3%
	7:専業主婦(主夫)	194	9.3%	118	7.9%	149,282	13.3%
	8:無職	425	20.3%	247	16.5%	257,780	23.0%
	9:その他	76	3.6%	55	3.7%	6,180	0.6%
	-:不明	57	2.7%	36	2.4%	18,229	1.6%
世帯構成	1:ひとり暮らし	238	11.4%	162	10.8%	148,561	13.2%
	2:夫婦のみ	500	23.9%	329	21.9%	183,788	16.4%
	3:2世代世帯	733	35.0%	566	37.7%	467,269	41.7%
	4:3世代世帯	318	15.2%	236	15.7%	158,955	14.2%
	5:その他	247	11.8%	178	11.9%	168,593	15.0%
	-:不明	60	2.9%	30	2.0%	1,711	0.2%
子の数	1:1人	272	13.0%	188	12.5%	180,758	16.1%
	2:2人	804	38.4%	538	35.8%	117,833	10.5%
	3:3人	416	19.8%	277	18.5%	23,707	2.1%
	4:4人	69	3.3%	53	3.5%	-	-
	5:5人以上	26	1.2%	20	1.3%	-	-
	6:子どもはいない	441	21.0%	383	25.5%	227,838	20.3%
	-:不明	68	3.2%	42	2.8%	-	-
	総計	2,096		1,501		1,121,459	

\* : 15～19歳 以下同じ。

②県央

	属性	抽出前		抽出後		(参考)H27 国勢調査	
性別	1: 男性	302	49.9%	195	51.3%	194,465	47.1%
	2: 女性	300	49.6%	183	48.2%	218,502	52.9%
	-: 不明	3	0.5%	2	0.5%	-	-
年齢	1: 18～19 歳	9	1.5%	9	2.4%	24,038	5.8%
	2: 20～29 歳	28	4.6%	28	7.4%	46,742	11.3%
	3: 30～39 歳	62	10.2%	62	16.3%	56,470	13.7%
	4: 40～49 歳	102	16.9%	70	18.4%	63,754	15.4%
	5: 50～59 歳	104	17.2%	70	18.4%	63,135	15.3%
	6: 60～69 歳	133	22.0%	70	18.4%	70,083	17.0%
	7: 70 歳以上	155	25.6%	70	18.4%	88,745	21.5%
	-: 不明	12	2.0%	1	0.3%	-	-
職業	1: 自営業主	50	8.3%	25	6.6%	21,046	5.1%
	2: 家族従業者	16	2.6%	10	2.6%	10,961	2.7%
	3: 会社役員・団体役員	36	6.0%	26	6.8%	9,539	2.3%
	4: 常用雇用者	192	31.7%	138	36.3%	132,592	32.1%
	5: 臨時雇用者	75	12.4%	52	13.7%	58,953	14.3%
	6: 学生	15	2.5%	15	3.9%	27,473	6.7%
	7: 専業主婦(主夫)	58	9.6%	39	10.3%	54,019	13.1%
	8: 無職	126	20.8%	58	15.3%	86,350	20.9%
	9: その他	22	3.6%	13	3.4%	2,804	0.7%
	-: 不明	15	2.5%	4	1.1%	9,230	2.2%
世帯構成	1: ひとり暮らし	59	9.8%	33	8.7%	65,358	15.8%
	2: 夫婦のみ	159	26.3%	105	27.6%	73,288	17.7%
	3: 2世代世帯	236	39.0%	164	43.2%	183,304	44.4%
	4: 3世代世帯	64	10.6%	38	10.0%	43,555	10.5%
	5: その他	73	12.1%	38	10.0%	51,231	12.4%
	-: 不明	14	2.3%	2	0.5%	1,234	0.3%
子の数	1: 1人	95	15.7%	59	15.5%	67,367	16.3%
	2: 2人	238	39.3%	140	36.8%	47,022	11.4%
	3: 3人	101	16.7%	60	15.8%	8,468	2.1%
	4: 4人	14	2.3%	8	2.1%	-	-
	5: 5人以上	6	1.0%	5	1.3%	-	-
	6: 子どもはいない	134	22.1%	104	27.4%	84,974	20.6%
	-: 不明	17	2.8%	4	1.1%	-	-
	総計	605		380		412,967	

### ③ 県南

	属性	抽出前		抽出後		(参考)H27 国勢調査	
性別	1: 男性	320	50.6%	198	52.1%	205,522	47.8%
	2: 女性	309	48.9%	180	47.4%	224,070	52.2%
	-: 不明	3	0.5%	2	0.5%	-	-
年齢	1: 18～19 歳	5	0.8%	5	1.3%	21,863	5.1%
	2: 20～29 歳	32	5.1%	32	8.4%	36,863	8.6%
	3: 30～39 歳	58	9.2%	58	15.3%	54,375	12.7%
	4: 40～49 歳	81	12.8%	71	18.7%	59,546	13.9%
	5: 50～59 歳	111	17.6%	71	18.7%	63,885	14.9%
	6: 60～69 歳	160	25.3%	70	18.4%	77,245	18.0%
	7: 70 歳以上	176	27.8%	70	18.4%	115,815	27.0%
	-: 不明	9	1.4%	3	0.8%	-	-
職業	1: 自営業主	76	12.0%	40	10.5%	29,198	6.8%
	2: 家族従業者	24	3.8%	14	3.7%	16,899	3.9%
	3: 会社役員・団体役員	47	7.4%	32	8.4%	9,215	2.1%
	4: 常用雇用者	186	29.4%	141	37.1%	135,540	31.6%
	5: 臨時雇用者	87	13.8%	56	14.7%	54,914	12.8%
	6: 学生	6	0.9%	6	1.6%	21,176	4.9%
	7: 専業主婦(主夫)	60	9.5%	22	5.8%	55,796	13.0%
	8: 無職	114	18.0%	49	12.9%	97,749	22.8%
	9: その他	19	3.0%	14	3.7%	2,211	0.5%
	-: 不明	13	2.1%	6	1.6%	6,894	1.6%
世帯構成	1: ひとり暮らし	68	10.8%	38	10.0%	45,475	10.6%
	2: 夫婦のみ	129	20.4%	64	16.8%	61,248	14.3%
	3: 2世代世帯	214	33.9%	141	37.1%	172,480	40.1%
	4: 3世代世帯	125	19.8%	77	20.3%	77,918	18.1%
	5: その他	79	12.5%	56	14.7%	73,538	17.1%
	-: 不明	17	2.7%	4	1.1%	375	0.1%
子の数	1: 1人	79	12.5%	52	13.7%	70,637	16.4%
	2: 2人	270	42.7%	152	40.0%	46,357	10.8%
	3: 3人	135	21.4%	64	16.8%	9,644	2.2%
	4: 4人	12	1.9%	6	1.6%	-	-
	5: 5人以上	6	0.9%	3	0.8%	-	-
	6: 子どもはいない	113	17.9%	94	24.7%	81,504	19.0%
	-: 不明	17	2.7%	9	2.4%	-	-
	総計	632		380		429,592	

#### ④沿岸

	属性	抽出前		抽出後		(参考)H27 国勢調査	
性別	1: 男性	255	51.2%	205	53.9%	86,161	48.7%
	2: 女性	243	48.8%	175	46.1%	90,738	51.3%
	-: 不明					-	-
年齢	1: 18～19 歳	4	0.8%	4	1.1%	7,656	4.3%
	2: 20～29 歳	37	7.4%	37	9.7%	12,903	7.3%
	3: 30～39 歳	37	7.4%	37	9.7%	18,803	10.6%
	4: 40～49 歳	66	13.3%	66	17.4%	24,542	13.9%
	5: 50～59 歳	83	16.7%	79	20.8%	26,758	15.1%
	6: 60～69 歳	108	21.7%	79	20.8%	33,759	19.1%
	7: 70 歳以上	158	31.7%	78	20.5%	52,478	29.7%
	-: 不明	5	1.0%			-	-
職業	1: 自営業主	46	9.2%	31	8.2%	10,378	5.9%
	2: 家族従業者	13	2.6%	10	2.6%	4,976	2.8%
	3: 会社役員・団体役員	40	8.0%	34	8.9%	3,680	2.1%
	4: 常用雇用者	133	26.7%	123	32.4%	54,363	30.7%
	5: 臨時雇用者	60	12.0%	50	13.2%	21,354	12.1%
	6: 学生	8	1.6%	8	2.1%	6,684	3.8%
	7: 専業主婦(主夫)	57	11.4%	38	10.0%	26,846	15.2%
	8: 無職	107	21.5%	62	16.3%	46,087	26.1%
	9: その他	21	4.2%	14	3.7%	831	0.5%
-: 不明	13	2.6%	10	2.6%	1,700	1.0%	
世帯構成	1: ひとり暮らし	67	13.5%	47	12.4%	25,699	14.5%
	2: 夫婦のみ	131	26.3%	79	20.8%	31,596	17.9%
	3: 2世代世帯	163	32.7%	141	37.1%	69,274	39.2%
	4: 3世代世帯	73	14.7%	65	17.1%	23,051	13.0%
	5: その他	53	10.6%	42	11.1%	27,962	15.8%
-: 不明	11	2.2%	6	1.6%	96	0.1%	
子の数	1: 1人	65	13.1%	44	11.6%	26,971	15.2%
	2: 2人	189	38.0%	139	36.6%	15,133	8.6%
	3: 3人	102	20.5%	75	19.7%	3,305	1.9%
	4: 4人	17	3.4%	13	3.4%	-	-
	5: 5人以上	5	1.0%	3	0.8%	-	-
	6: 子どもはいない	106	21.3%	97	25.5%	39,062	22.1%
	-: 不明	14	2.8%	9	2.4%	-	-
	総計	498		380		176,899	

⑤県北(※候補者全員選定)

	属性	抽出前		抽出後		(参考)H27 国勢調査	
性別	1: 男性	196	54.3%	196	54.3%	47,782	46.8%
	2: 女性	162	44.9%	162	44.9%	54,219	53.2%
	-: 不明	3	0.8%	3	0.8%	-	-
年齢	1: 18～19 歳	5	1.4%	5	1.4%	4,775	4.7%
	2: 20～29 歳	14	3.9%	14	3.9%	7,453	7.3%
	3: 30～39 歳	42	11.6%	42	11.6%	11,165	10.9%
	4: 40～49 歳	39	10.8%	39	10.8%	13,780	13.5%
	5: 50～59 歳	72	19.9%	72	19.9%	16,107	15.8%
	6: 60～69 歳	88	24.4%	88	24.4%	19,427	19.0%
	7: 70 歳以上	88	24.4%	88	24.4%	29,294	28.7%
	-: 不明	13	3.6%	13	3.6%	-	-
職業	1: 自営業主	43	11.9%	43	11.9%	7,577	7.4%
	2: 家族従業者	13	3.6%	13	3.6%	4,743	4.6%
	3: 会社役員・団体役員	18	5.0%	18	5.0%	2,086	2.0%
	4: 常用雇用者	105	29.1%	105	29.1%	29,882	29.3%
	5: 臨時雇用者	50	13.9%	50	13.9%	12,253	12.0%
	6: 学生	5	1.4%	5	1.4%	4,506	4.4%
	7: 専業主婦(主夫)	19	5.3%	19	5.3%	12,621	12.4%
	8: 無職	78	21.6%	78	21.6%	27,594	27.1%
	9: その他	14	3.9%	14	3.9%	334	0.3%
	-: 不明	16	4.4%	16	4.4%	405	0.4%
世帯構成	1: ひとり暮らし	44	12.2%	44	12.2%	12,029	11.8%
	2: 夫婦のみ	81	22.4%	81	22.4%	17,656	17.3%
	3: 2世代世帯	120	33.2%	120	33.2%	42,211	41.4%
	4: 3世代世帯	56	15.5%	56	15.5%	14,431	14.1%
	5: その他	42	11.6%	42	11.6%	15,862	15.6%
	-: 不明	18	5.0%	18	5.0%	6	0.0%
子の数	1: 1人	33	9.1%	33	9.1%	15,783	15.5%
	2: 2人	107	29.6%	107	29.6%	9,321	9.1%
	3: 3人	78	21.6%	78	21.6%	2,290	2.2%
	4: 4人	26	7.2%	26	7.2%	-	-
	5: 5人以上	9	2.5%	9	2.5%	-	-
	6: 子どもはいない	88	24.4%	88	24.4%	22,298	21.9%
	-: 不明	20	5.5%	20	5.5%	-	-
	総計	361		361		102,001	



## 「県民の幸福感に関するパネル調査（仮称）」調査項目について

### 1 基本方針（第1回部会で了承済）

#### (1) 実施初年度から成果が得られること

パネル調査で得られた領域別実感の変動要因は、毎年の政策評価に活用することから、実施初年度から成果が得られる調査設計とする。

#### (2) 分野別実感全ての変動要因を把握できること

政策評価では、全ての領域別実感の実績値を活用することから、12分野全ての変動要因を毎年把握できる調査設計とする。

#### (3) 主な設問は県民意識調査と同じ調査設計とすること

県民意識調査を補足する調査として実施するものであることから、県民意識調査の主な設問（生活満足度、施策満足度・重要度、主観的幸福感、分野別実感等）は、パネル調査でも把握する。

#### (4) 調査負担に配慮した設問数、設問項目とすること

長期間継続して調査協力いただけるよう、調査負担に配慮した設問数、設問項目とする。

### 2 調査項目の設定方針

#### (1) 分野別実感の変動要因を把握できる設問であること

主観的幸福感の変動要因は、分野別実感の分析結果から解釈することから、主観的幸福感の変動要因を把握する設問は設定していない。

#### (2) 社会全体の傾向を把握できる設問であること

当パネル調査は県民意識調査を補完する調査であり、分析結果を政策評価に反映させることを目的としていることから、個人の幸福感を掘り下げる設問ではなく、社会全体の傾向を把握できる設問を設定している。

#### (3) できるだけ社会的要因に関連した設問であること

政策評価への反映を目的としていることから、個人的な要因よりも、社会環境や制度など社会的要因に関連する設問を優先して設定している。

#### (4) メインは分野別実感の変動要因を把握する設問であること

上記(1)～(3)の方針から、分野別実感の変動要因を把握する設問をメインの設問として設定している。

本人のイベントに関する設問、属性に関する設問は、分野別実感の変動要因を把握する設問を補完するものとして設定している。

### 3 留意事項

#### ○ 分野別実感の変動要因を把握する設問は適宜見直しをしていくこと

調査結果から分野別実感の変動要因を的確に把握できるよう、分野別実感の変動要因を把握する設問については、来年度以降も、調査結果を踏まえながら必要最小限の範囲内で加除修正を検討していく。

## 県民の幸福に関するパネル調査（仮称）

（素案） R1.9.4時点

岩手県が実施する「県民の幸福に関するパネル調査（仮称）」は、県民の皆様が、身の回りの暮らしの事柄について、どの程度重要だと感じ、どの程度満足しているかなどについての御意見を伺うものです。

県では、県民の皆様の御意見を取り入れながら、次の施策を展開していきたいと考えておりますので、調査への御協力をお願いいたします。

# ※イメージ

- ◆ このアンケート調査には、調査票をお送りした封筒に書かれた あて名の御本人様 がお答えください。
  - ◆ お答えは、できる限り黒または青色の鉛筆・ペン・ボールペンでお願いします。
  - ◆ お答えは、直接この調査票にお書きいただき、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、●月●日（●）までに郵便ポストへ投函くださるようお願いいたします。
- ※ この調査について、御不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

岩手県政策地域部政策推進室 評価担当 照井

TEL 019-629-5181（直通）

FAX 019-629-5254

E-mail s-teru@pref.iwate.jp

## 1 調査の目的

この調査は、「いわて県民計画(2019~2028)」に掲げる政策を推進していくために、**県民の皆様**の幸福に関する**実感**を継続的に伺いし、その変動要因を推測することで、**次の施策**に生かしていくために行うものです。

## 2 調査結果の活用方法

県では、平成13年度から**政策評価**を本格導入し、県の仕事が目標に向かってうまく機能しているかどうかをチェックし、その結果を次の施策に反映していくことにしています。

今回の**調査結果**は、**県民の皆様**により満足していただけるサービスを提供していくための重要な情報として、**政策評価**や

**※イメージ**

## 3 調査の構成と記入

- (1) 1ページから2ページまで、2ページから3ページから2ページまで
- (2) 質問は、問1~問6まであります(問2から問6までは、さらにいくつかの小問に分かれています)。
- (3) 回答は、この調査票の所定の欄に直接御記入ください。
- (4) 回答は、**全ての項目**についてお願いいたします。

**記入例**

ここでは、問2（P4～14）の場合を例示しています。

**問2** 次に、1ページで御説明いたしました「7つの政策」に関連する次の1から46までの調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを見回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

調査項目	重要度						満足度					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
20 交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

※ 「あなたの重要度」の記入例

あなたの現在の暮らしにとって、「19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」という状態を実現することが、どれくらい重要かをお答えいただくものです。

この例では、「重要ではない」と思う場合を例示していますので、数字の「1」に○をつけます。

※ 「あなたの満足度」の記入例

あなたの現在の暮らしから見て、「19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」は、どれくらい満足できる状態にあるかをお答えいただくものです。

この例では、「やや不満な状態にある」と思う場合を例示していますので、数字の「2」に○をつけます。

このページから調査票になります。

**問1** まず最初にお伺いします。

あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。

あなたの気持ちに近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの満足度					
(1つ選び、番号に○をつけてください)					
満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
5	4	3	2	1	0

**問2** 次に、1ページで御説明いたしました「7つの政策」に関連する次の1から50の調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを見回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

(1) まず、「産業・雇用」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
1 工場や事業所の新設・増設により、県内経済が活性化していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
2 次の時代の製造業を担う人材が育ち、県内に定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
3 地域の農林水産資源や技術を生かした加工食品や工芸品が開発され、販売されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
4 魅力ある観光地づくりに、地域で取り組まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
5 身近な商店街が、住民に利用され、にぎわっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
6 中小企業が、人材や技術力、商品、サービスなどを強化して経営力の向上を図り、更に成長・発展していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
7 海外における県産品の販路の拡大が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
8 県内に職を求める人が希望どおりに就職できること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(2) 次に、「農林水産業」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
9 地域の農林水産業の担い手が確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 消費者ニーズに対応した農林水産物の産地が形成されること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
11 本県農林水産物がブランドとして確立され、販路が拡大していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
12 地域活動や都市との交流により活力ある農山漁村が形成されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
13 地球温暖化防止や生態系の維持など環境に配慮した農林水産業が営まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0



(3) 次に、「医療・子育て・福祉」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
14 必要な医療を適切に受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
15 病気の予防や健康づくりを行うために、相談、指導を受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
16 安心して子どもを生き育てられ、子育てがしやすい環境であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
17 高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(4) 次に、「安全・安心」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
18 地域の防災体制が、住民の協力により整っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
20 交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
21 悪質商法、架空請求、多重債務などの消費者トラブルについて、適切な相談や支援を受けられる社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
22 購入する食品の安全性又は信頼性に不安を感じない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
23 岩手に移り住む人や岩手を訪れる人が増え、地域に活力が生まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
24 だれもが市民活動に参加できる社会であること。〔市民活動とは、NPO、ボランティア、自治会・町内会（子供会行事への参加、清掃や美化活動等を含む）などの活動をさします。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
25 地域全体が一体となって青少年の健全育成に取り組んでいること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
26 女性も男性も社会のあらゆる分野に等しく参画し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(5) 次に、「教育・文化」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
27 学校が、学力や体力の向上などの目標に向かって、家庭や地域と一緒に取り組んでいること。[学力向上とは、小・中学校では、物事をしっかり考える力が身に付き、高等学校では、目指す進路を実現できる学力が身についていること。]	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
28 子どもたちの学力が向上する教育がされていること。[子どもは、小学生から高校生までをお考えください。]	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
29 子どもたちが、自分の良さを知り、人を思いやる心を持つなど、人間性豊かに育っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
30 子どもたちが、スポーツや運動に取り組むことによって、体力の向上や心身の健康の保持が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
31 学校が、障がいのある子どもたちを含め、全ての子どもが共に学び共に育つ環境となっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
32 学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境にあること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
33 県内の大学などが、人材の育成や地域の企業との連携などにより、地域社会に貢献していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
34 郷土の歴史遺産や伝統文化に、誇りや愛着を持てるような取組がされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
35 地域や学校などで文化芸術(芸術、祭り、行事など)の鑑賞や活動が活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
36 外国人に対する理解が進み外国人も暮らしやすい地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
37 スポーツの国際大会や国内外の各種大会において本県選手が活躍していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(6) 次に、「環境」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
38 地球温暖化防止のため、環境にやさしい再生可能エネルギーの利用や省エネルギーなど二酸化炭素等の排出量削減の取組が各地域で活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
39 ふだんの暮らしに、ごみの減量化やリサイクル(資源ごみの分別など)が定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
40 大気や水がきれいに保たれ、自然や野生動物を大切にしながら生活していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(7) 次に、「社会資本・公共交通・情報基盤」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
41 高速道路をはじめ、インターチェンジや新幹線駅、港湾、空港などの交通や物流の拠点に通じる道路が整備されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
42 防災施設の整備等が進み、地震や津波、洪水、土砂災害による被害を受けにくい、安心して暮らせる県土であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
43 道路や下水道などの生活基盤の整備や歩道の段差解消等の地域のバリアフリー化などが進み、快適に暮らせる生活環境になっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
44 道路や橋梁、河川、公園などの社会資本の維持管理が適切に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
45 鉄道、バスなどの公共交通機関が維持・確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
46 携帯電話やインターネットなどの情報通信ネットワークが暮らしや仕事に生かされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(8) 次に、以下の項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	やや不満な状態にある	不満な状態にある	わからない
47 仕事と生活を両立できる環境であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
48 ペットなど動物のいのちを大切にしている社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
49 文化芸術・スポーツを生かした地域づくりが行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
50 感染症に対する備えが整っている社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0





### **(3) -1 こころの健康**

①あなたはこころが健康だと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |  |
|--|
| 1 睡眠・休養・仕事・ <u>学業</u> ・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス) |
| 2 仕事・ <u>学業</u> におけるストレスの有無                      |
| 3 仕事・ <u>学業</u> 以外の私生活におけるストレスの有無                |
| 4 充実した余暇の有無(仕事・ <u>学業</u> 以外の趣味など)               |
| 5 相談相手の有無  |
| 6 からだが健康であるかどうか                                  |
| 7 その他 ( )  |

### **(3) -2 からだの健康**

①あなたはからだが健康だと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |  |
|--|
| 1 睡眠・休養・仕事・ <u>学業</u> ・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス) |
| 2 歩行などの行動の制限の有無                                  |
| 3 食事の制限の有無                                       |
| 4 健康診断の結果  |
| 5 持病の有無  |
| 6 こころが健康であるかどうか                                  |
| 7 その他 ( )  |

## (4) 家族関係

①あなたは家族と良い関係が取れていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 同居の有無                  | 2 会話の頻度                  |
| 3 一緒にいる時間の長さ             | 4 家事の分担                  |
| 5 ペットの存在                 |                          |
| 6 自分が家族に <u>与える精神的影響</u> | 7 自分が家族に <u>与える経済的影響</u> |
| 8 家族が自分に <u>与える精神的影響</u> | 9 家族が自分に <u>与える経済的影響</u> |
| 10 困った時に助け合えるかどうか        | 11 家族がいない                |
| 12 その他 ( )               |                          |

## (5) 子育て

①あなたは子育てがしやすいと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |   |
|---|
| 1 子どもを預けられる人の有無(親、親戚、友人など)              |
| 2 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)                 |
| 3 配偶者の家事への参加                            |
| 4 子育て支援サービスの内容(サービスの種類、利用条件、相談・支援体制など)  |
| 5 子育てにかかる費用                             |
| 6 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)                 |
| 7 配偶者の就業状況(労働時間、休業・休暇など)                |
| 8 自分の勤め先の子育てに対する理解                      |
| 9 配偶者の勤め先の子育てに対する理解                     |
| 10 子どもの遊び場(公園など)の充実                     |
| 11 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実                |
| 12 子どもの習い事の実施の幅                         |
| 13 <u>わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていない)</u> |
| 14 その他 ( )                              |

## **(6) 地域の安全**

①あなたはお住まいの地域が安全だと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1 犯罪の発生状況                            |
| 2 <u>地域における助け合いの態勢</u>               |
| 3 地域の防犯体制（防犯パトロールなど）                 |
| 4 交通事故・火災に対する予防（歩道の整備など）             |
| 5 自然災害の発生状況                          |
| 6 自然災害等に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）       |
| 7 自然災害に備えた行政の情報発信（避難箇所の周知など）         |
| 8 災害発生時の行政の情報発信（避難放送、安否確認、被害状況の把握など） |
| 9 災害発生後の行政の対応（避難所の開設、支援、復興対策など）      |
| 10 社会インフラの老朽化（橋、トンネル、下水道など）          |
| 11 その他（ ）                            |

## **(7) 地域社会とのつながり**

①あなたは地域社会とのつながりを感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |                               |
|-------------------------------|
| 1 その地域で過ごした年数                 |
| 2 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動） |
| 3 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）     |
| 4 学校・子ども会の活動への参加              |
| 5 隣近所との面識・交流                  |
| 6 その他（ ）                      |

## **(8) 子どもの教育**

①あなたは子どものためになる教育が行われていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |  |
|--|
| 1 学力を育む教育内容                            |
| 2 人間性、社会性を育むための教育内容                    |
| 3 健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容等）             |
| 4 不登校やいじめなどへの対応                        |
| 5 学校の選択の幅（高校、大学など）                     |
| 6 図書館や科学館などの充実                         |
| 7 <u>わからない（身近に子どもがいない、子育てに関わっていない）</u> |
| 8 その他（ ）                               |

## **(9) 歴史・文化への誇り**

①あなたは地域の歴史や文化に誇りを感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |                             |
|-----------------------------|
| 1 その地域で過ごした年数               |
| 2 世界遺産があること                 |
| 3 地域のお祭り・伝統芸能               |
| 4 地域の文化遺産・街並み               |
| 5 郷土の歴史的偉人                  |
| 6 地域の文化・芸術分野の著名人            |
| 7 地域の食文化                    |
| 8 地域に対する周囲の評判               |
| 9 <u>誇りを感じる歴史や文化が見当たらない</u> |
| 10 <u>地域の歴史や文化に関心がない</u>    |
| 11 その他（ ）                   |

## **(10) 自然のゆたかさ**

①あなたは自然に恵まれていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |                           |
|---------------------------|
| 1 緑の量(豊か・少ない)             |
| 2 空気の状態(綺麗・汚い)            |
| 3 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) |
| 4 海の状態(綺麗・汚い)             |
| 5 多様な動植物の生息               |
| 6 公園・緑地、水辺などの周辺環境         |
| 7 自然(山・海など)と触れ合う機会        |
| 8 <u>自然に関心がない</u>         |
| 9 その他 ( )                 |

## **(11) 住まいの快適さ**

①あなたはお住まいに快適さを感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| 5 感じる     | 4 やや感じる | 3 どちらともいえない |
| 2 あまり感じない | 1 感じない  | 0 わからない     |

②そのように回答した理由として、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 住宅の延床面積(広さ・狭さ)                    |
| 2 居住形態(持ち家か借家か)                     |
| 3 住宅の安全性(耐震、耐火、浸水対策など)              |
| 4 住宅の機能性(バリアフリーなど)                  |
| 5 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離) |
| 6 公共交通機関の利便性                        |
| 7 公園・緑地、水辺などの周辺環境                   |
| 8 周辺地域の街並み                          |
| 9 周辺地域の治安                           |
| 10 近隣の生活音                           |
| 11 近隣の生活臭                           |
| 12 周辺施設の機能性(バリアフリーなど)               |
| 13 その他 ( )                          |



**問3-2** あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

最も近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの現在の幸福感 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
感幸福だと 感じている	るとやや 感じて幸福だ い	いどちらとも えない	いだあまり ない感じ幸福 て	じ幸福だと感 じていない	わからない
5	4	3	2	1	0



**問3-3** あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に○をつけてください

- 1 家計の状況
- 2 就業状況
- 3 健康状況
- 4 自由な時間・充実した余暇
- 5 仕事のやりがい
- 6 社会貢献
- 7 家族関係
- 8 友人関係
- 9 職場の人間関係
- 10 地域コミュニティとの関係
- 11 子育て環境
- 12 治安・防災体制
- 13 教育環境
- 14 地域の歴史・文化
- 15 自然環境
- 16 居住環境
- 17 その他

（ 具体的に： ）

**問4** あなたは、普段の生活で、以下の行動をどのくらいの時間行っていますか。  
以下の行動の種類ごとに、あなた（調査対象者）の 1日当たり の行動の時間を記入  
してください（**1週間の平均時間を目安にお答えください。**）。

（口内に数字を記入してください）

行 動 の 種 類	行 動 の 時 間				
①睡眠	約		時間		分
②身の回りの用事	約		時間		分
③食事（注1）	約		時間		分
④通勤・通学	約		時間		分
⑤仕事（収入を伴う仕事）	約		時間		分
⑥学業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動）	約		時間		分
⑦食事の用意・後片付け	約		時間		分
⑧掃除・洗濯	約		時間		分
⑨介護・看護	約		時間		分
⑩育児	約		時間		分
⑪買い物	約		時間		分
⑫その他（⑦～⑪以外の家事）	約		時間		分

（注1）仕事や学業の昼休みに食事をした場合、「③食事」には食事の時間だけを記入してください。食事後に休憩した時間は「③食事」には含めないでください。

（注2）行動の種類には①～⑫のほかに移動（通勤・通学を除く）、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎ、学習・自己啓発・訓練（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ、ボランティア活動・社会参加活動、交際・付き合い、受診・療養といったものもあるので、①～⑫の行動の時間の合計が24時間より小さくても構いません。

**問5** あなたが、この1年間で経験したことについて、あてはまる番号全てに○をつけてください

- |           |            |                    |
|-----------|------------|--------------------|
| 1 結婚      | 2 離婚       | 3 子供・孫の誕生          |
| 4 家族との死別  | 5 家族との別居   | 6 就職・転職・開業         |
| 7 昇進、昇給   | 8 失業・廃業    | 9 定年退職             |
| 10 住宅取得   | 11 引越し     | 12 大きな病気、けが        |
| 13 病気の克服  | 14 進学      | 15 学校の卒業           |
| 16 ペットの取得 | 17 ペットとの死別 | 18 事故・火災・自然災害による被害 |
| 19 交際の開始  | 20 交際の終了   | 21 要介護者・障がい者としての認定 |
| 22 その他（   |            | ）                  |

アンケートに回答した方（あなた）について伺います。

**問6** 最後に、お答えいただいた「あなた」御自身のことについておたずねします。これまでお答えいただいたことを統計的に分析するために必要なものですので、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 性別（○は1つ）

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

(2) 年齢（満年齢）（○は1つ）

1 18～19 歳	2 20～29 歳	3 30～39 歳	4 40～49 歳
5 50～59 歳	6 60～69 歳	7 70 歳以上	

(3) あなたの年間の可処分所得（手取り）はおよそどのくらいですか（○は1つ）。

1 100 万円未満
2 100 万円以上 300 万円未満
3 300 万円以上 500 万円未満
4 500 万円以上 700 万円未満
5 700 万円以上 1,000 万円未満
6 1,000 万円以上 1,500 万円未満
7 1,500 万円以上

(4) あなたの主なご職業は何ですか（○は1つ）。

1 自営業主	
2 家族従業者	
3 会社役員・団体役員	
4 常用雇用者	※期間を定めずに又は1年を超える期間を定めて雇われる人
5 臨時雇用者（パート、アルバイトなど）	※日々又は1年以内の期間を定めて雇われる人
6 学生	
7 専業主婦（主夫）	
8 無職	
9 その他（具体的に：                     ）	

※ (4)で1～5に○をつけられた方のみお答えください。

その業種は何ですか（○は1つ）。

1 農業、林業	2 漁業	3 鉱業、採石業、砂利採取業
4 建設業	5 製造業	6 電気・ガス・熱供給・水道業
7 情報通信業	8 運輸業、郵便業	9 卸売・小売業
10 金融業、保険業	11 不動産業、物品賃貸業	
12 学術研究、専門・技術サービス業	13 宿泊業、飲食サービス業	
14 その他のサービス業	15 公務	
16 その他（具体的に：                     ）		

(5) あなたのお子さんは、何人いますか（同居・別居は問いません）。

1 1人	2 2人	3 3人
4 4人	5 5人以上	6 子どもはいない

※ (5)で1～5に○をつけられた方のみお答えください。

あなたのお子さんは、次のどこにあてはまりますか（該当する番号すべてに○をつけてください）。

1 小学校入学前（乳幼児を含む。）	2 小学生
3 中学生	4 高校生（高校受験浪人を含む。）
5 高校を卒業し専門学校、短大、大学、大学院に在学（大学受験浪人を含む。）	
6 学校教育終了で同居	7 学校教育終了で別居
8 その他（具体的に： _____）	

(6) あなたの世帯についてお伺いします。次のどれに当たりますか（○は1つ）。

1 <u>ひとり暮らしである</u>	2 一緒に暮らしている人がいる
3 <u>単身赴任である</u>	4 その他（ _____ ）

※ (6)で2～4に○をつけられた方のみお答えください。

あなたの世帯に含まれる方の人数をご記入ください。また、そのうち就労されている方の人数をご記入ください。（あなたとの続柄でお答えください。）

	人数	うち、就労人数
1 祖父母（配偶者の祖父母含む）	（ _____ ）人	（ _____ ）人
2 父母（配偶者の父母含む）	（ _____ ）人	（ _____ ）人
3 配偶者	（ _____ ）人	（ _____ ）人
4 兄弟・姉妹（配偶者の兄弟・姉妹含む）	（ _____ ）人	（ _____ ）人
5 子ども	（ _____ ）人	（ _____ ）人
6 子どもの配偶者	（ _____ ）人	（ _____ ）人
7 孫	（ _____ ）人	（ _____ ）人
8 その他（ _____ ）	（ _____ ）人	（ _____ ）人
（ _____ ）	（ _____ ）人	（ _____ ）人

(7) あなたのお住まいは次のどれに当たりますか（○は1つ）。

1 持家（一戸建て）	2 持家（集合住宅（マンション等））
3 借家（一戸建て）	4 借家（集合住宅（アパート等））
5 その他（社宅、寮、下宿など）	

(8) あなたは岩手県に住んで通算何年になりますか（○は1つ）。

1 1年未満	2 1～5年未満	3 5～10年未満
4 10～20年未満	5 20年以上	

御協力ありがとうございました。

お手数でも●月●日（●）までに郵便ポストへ投函くださるようお願いいたします。

## 県民意識調査の分析結果について

来年度以降の審議の参考とするため、過去に実施した県民意識調査の結果を、属性別、時系列で分析した結果は以下のとおり。

### 1 分析方針

#### (1) 分析データの概要

##### ① 単純集計を採用

当初データは、回答者数の地域差を考慮し、各回答に居住人口に応じた係数を乗じて集計している（以下「母集団拡大集計」）が、分析を適切に行うため、単純集計結果を用いた。

**(参考)** 主観的幸福感及び分野別実感の県計値では、集計方法の変更による影響は小さかった（ほとんどが同値、最大でも 0.2～0.4%程度の差）。

##### ② 「わからない」、「未回答」を除外して集計

当初データは、「わからない」、「未回答」（以下「未回答等」）を含めて集計しているが、調査年によって未回答等の回答割合が大きく変動している設問があることから、適切な時系列分析のため、未回答等を除外して集計した。

**(参考)** 未回答等の除外前後で、傾向が変化した設問は以下のとおり。

- ア 除外前は低下傾向に見えたが、除外後は横ばいと判断された設問  
主観的幸福感、仕事のやりがい、家族との良い関係、子の教育
- イ 除外前は低下傾向に見えたが、除外後は上昇と判断された設問  
子育てのしやすさ

##### ③ 回答結果に 1 点から 5 点を配点して集計（リッカート尺度）

当初データは、「感じる」と「やや感じる」の回答者の割合を集計しているが、5 段階評価の回答結果を適切に分析に反映させるため、回答結果に以下のとおり配点して集計した。

###### (配点)

・感じている（幸福である）	5 点	・やや感じない（やや不幸）	2 点
・やや感じている（やや幸福）	4 点	・感じない（不幸である）	1 点
・どちらでもない	3 点		

#### (2) 分析方法

##### 属性差の有無は一元配置分散分析、時系列変化の有無は t 検定で検証

男女差の有無など各属性差の有無は一元配置分散分析（以下「属性分析」）で検証した。なお、「18～19 歳」、「60 歳未満の無職」はサンプル数が小さいため、グラフには掲載しているが分析対象からは除外した。

時系列変化の有無は初年と最終年の 2 時点を t 検定で検証した（以下「時系列分析」）。

## 2 主観的幸福感の主な分析結果 ※詳細は別紙

### (1) 属性分析結果[平成31年調査]

#### ○ 子どもなどの家族がいる人は、主観的幸福感が高い傾向

世帯構成別では、「夫婦のみ世帯」、「3世代世帯」が高く、「ひとり暮らし」が低い。子どもの数別では、「1～3人」が高く、「子どもがいない」が低い。

このことから、子どもなどの家族がいる人は、主観的幸福感が高い傾向にあると考えることができる。

そのほか、「地域別」（県央、沿岸広域振興圏が高く、県南、県北広域振興圏が低い）、「性別」（女性が高く、男性が低い）、「職業別」（主婦（夫）、会社役員・団体役員が高く、無職、常用雇用者が低い）で有意な差が確認できた。

### (2) 時系列分析結果

#### ○ 県計では、4年前と比べても、1年前と比べても横ばい

H28年からH31年までの間、また、H30年とH31年の間では、それぞれ有意な変化は確認できなかった。

なお、当初データでは、H30年とH31年の間は低下しているように見えるが、これは、未回答等の回答割合が変化したことによるものであると考えられる。

#### ○ 広域振興圏別では、4年前と比べると全振興圏で横ばい、1年前と比べると県南広域振興圏が低下

広域振興圏別では、H28年からH31年までの間、全ての圏域で有意な変化は確認できなかった。

H30年とH31年の間では、「県南広域振興圏」で有意に低下しており、他の広域振興圏ではこの間有意な変化は確認できなかった。

詳細は、参考1を参照のこと。

## 3 分野別実感（領域別実感）の主な分析結果 ※詳細は別紙

### (1) 属性分析結果[平成31年調査]

#### ○ 多くの分野で、「70歳以上」の実感が高い傾向

「仕事のやりがい」、「こころとからだの健康」、「子育てのしやすさ」、「地域の安全」、「地域社会のつながり」、「子の教育」、「歴史・文化への誇り」、「住まいの快適さ」、「余暇の充実」の9つの分野で、他の年齢階層に比べ「70歳以上」の実感が高い傾向にあった。

#### ○ 多くの分野で、「子どもがいる」の実感が高い傾向

主観的幸福感のほか、「仕事のやりがい」、「子育てのしやすさ」、「地域社会とのつながり」、「子の教育」、「歴史・文化への誇り」、「住まいの快適さ」、「余暇の充実」の7つの分野で、子どもがいないに比べ「子どもがいる」の実感が高い傾向にあった。



## (2) 時系列分析結果

### ○ 4年前に比べ、上昇したのは6分野、低下したのは1分野

H28年からH31年までの間は、以下のとおりであった（詳細は参考2）。

推移	分野名
上昇した分野 (6分野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な収入や所得</li> <li>・ 余暇の充実</li> <li>・ 住まいの快適さ</li> <li>・ 地域の安全</li> <li>・ 地域社会とのつながり</li> <li>・ 子育てのしやすさ</li> </ul>
横ばいの分野 (5分野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事のやりがい</li> <li>・ ことろとからだの健康</li> <li>・ 家族との良い関係</li> <li>・ 歴史・文化への誇り</li> <li>・ 自然に恵まれている</li> </ul>
低下した分野 (1分野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子の教育</li> </ul>

### ○ 1年前に比べ、上昇したのは3分野、低下したのは2分野

H30年とH31年の間は、以下のとおりであった（詳細は参考2）。

なお、当初データは、H30年からH31年までの間、「仕事のやりがい」、「家族との良い関係」、「子どもの教育」、「子育てのしやすさ」が低下しているようにみえるが、これは、未回答等の回答割合が変化したことによるものと考えられる。

推移	分野名
上昇した分野 (3分野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な収入や所得</li> <li>・ 余暇の充実</li> <li>・ 子育てのしやすさ</li> </ul>
横ばいの分野 (7分野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事のやりがい</li> <li>・ ことろとからだの健康</li> <li>・ 家族との良い関係</li> <li>・ 地域の安全</li> <li>・ 地域社会とのつながり</li> <li>・ 子の教育</li> <li>・ 住まいの快適さ</li> </ul>
低下した分野 (2分野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史・文化への誇り</li> <li>・ 自然に恵まれている</li> </ul>

## 4 今後の方向性

主観的幸福感や分野別実感のさらなる変動要因等の分析については、来年度以降、パネル調査結果をもとに検討を重ねていくこととし、第3回部会では、今回の分析結果をもとに、部会の年次レポートを取りまとめていくこととしたい。

(参考1) 広域振興圏別の主観的幸福感の属性分析、時系列分析結果

地域	平均値の推移				(4年) <sup>※1</sup>	(1年) <sup>※1</sup>	有意な差がある属性 (H31 調査結果) <sup>※2</sup>	
	H28	H29	H30	H31	H28-31	H30-31		
県計 (N=3,065:H31)	3.44	3.48	3.46	3.43	— (△0.01)	— (△0.03)	地域、性別、職業、世帯構成、子の数	
県南広域振興圏 (N=935:H31)	3.40	3.47	3.46	3.31	— (△0.09)	↓ (△0.15)	性別、世帯構成、子の数	
(参考)	県央広域振興圏 (N=869:H31)	3.51	3.56	3.55	3.53	— (0.02)	— (△0.02)	性別、年齢、職業、世帯構成、子の数
	沿岸広域振興圏 (N=734:H31)	3.46	3.45	3.46	3.52	— (0.06)	— (0.06)	世帯構成、子の数
	県北広域振興圏 (N=527:H31)	3.34	3.40	3.31	3.34	— (0.00)	— (0.03)	性別、世帯構成、子の数

(参考2) 主観的幸福感及び分野別実感の属性分析、時系列分析結果

領域別実感等	平均値の推移				(4年) <sup>※1</sup>	(1年) <sup>※1</sup>	有意な差がある属性 (H31 調査結果) <sup>※2</sup>	
	H28	H29	H30	H31	H28-31	H30-31		
主観的幸福感	3.44	3.48	3.46	3.43	— (△0.01)	— (△0.03)	地域、性別、年齢、職業、世帯構成、子の数	
上昇	2. 必要な収入や所得	2.44	2.58	2.45	2.65	↑ (0.21)	↑ (0.20)	地域、職業、世帯構成、子の数
	12. 余暇の充実	2.90	3.03	2.98	3.05	↑ (0.15)	↑ (0.07)	地域、年齢、職業、世帯構成、子の数
	5. 子育てのしやすさ	2.98	3.09	3.02	3.08	↑ (0.10)	↑ (0.06)	地域、年齢、世帯構成、子の数
	11. 住まいの快適さ	3.19	3.37	3.30	3.34	↑ (0.15)	— (0.04)	地域、年齢、職業、世帯構成、子の数
	6. 地域の安全	3.70	3.83	3.79	3.82	↑ (0.12)	— (0.03)	年齢、職業
	7. 地域社会とのつながり	3.26	3.34	3.30	3.35	↑ (0.09)	— (0.05)	地域、年齢、世帯構成、子の数、居住年数
横ばい	1. 仕事のやりがい	3.50	3.56	3.51	3.54	— (0.04)	— (0.03)	年齢、職業、子の数
	3. 心とからだの健康	2.99	3.03	2.99	3.00	— (0.01)	— (0.01)	地域、年齢、職業、世帯構成、子の数、居住年数
	4. 家族との良い関係	3.84	3.84	3.88	3.84	— (0.00)	— (0.04)	地域、年齢、世帯構成、子の数
低下	8. 子の教育	3.16	3.12	3.13	3.10	↓ (△0.06)	— (△0.03)	年齢、世帯構成、子の数、居住年数
	9. 歴史・文化への誇り	3.33	3.32	3.35	3.28	— (△0.05)	↓ (△0.07)	地域、性別、年齢、職業、子の数、居住年数
	10. 自然に恵まれている	—	4.26	4.27	4.21	— (△0.05)	↓ (△0.06)	地域、年齢、職業

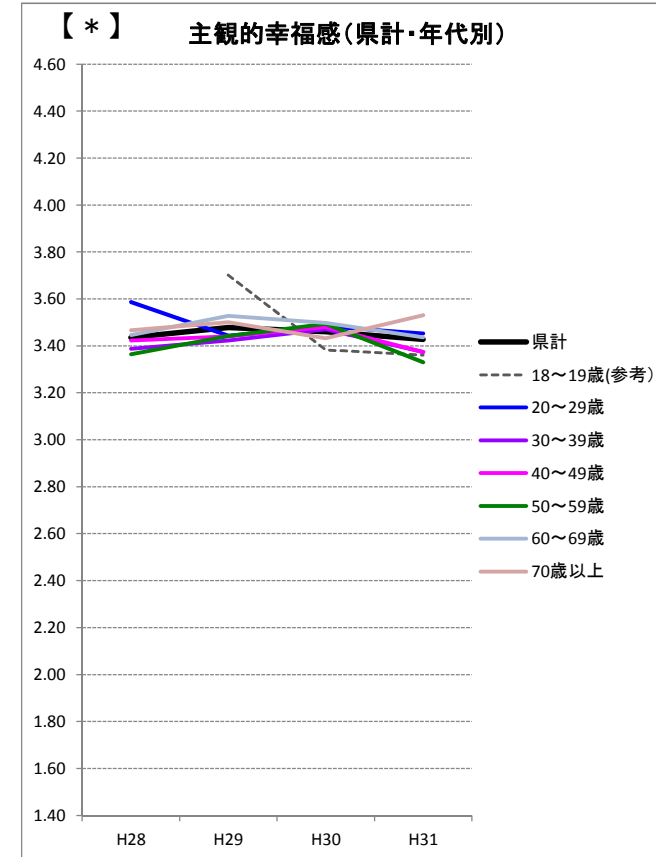
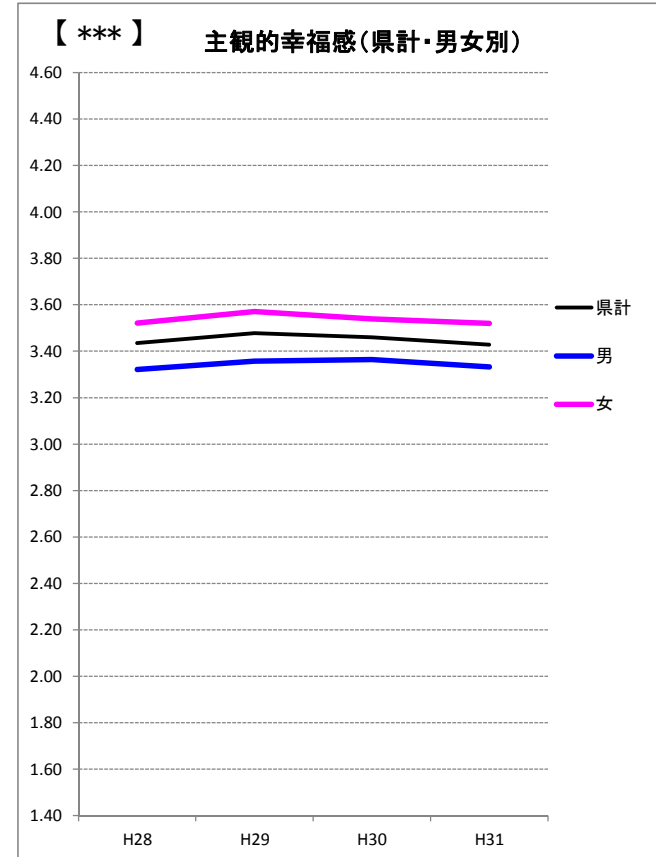
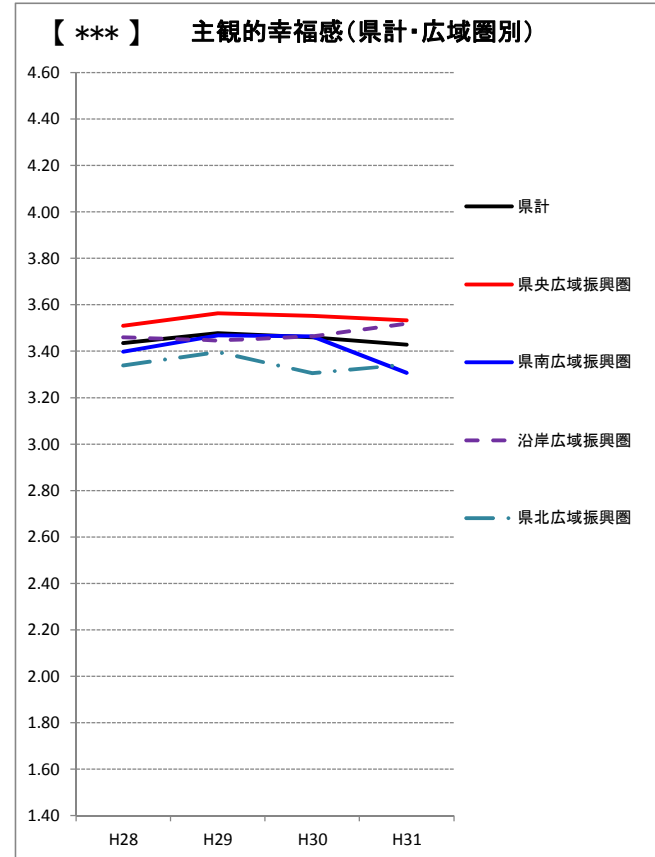
※1: t検定の結果、5%水準で有意に上昇していると認められたもの。

※2: 一元配置分散分析の結果、5%水準で有意に差があると認められた属性のうち、上位と下位のカテゴリを選定したもの。

【県計】【主観的幸福感】あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

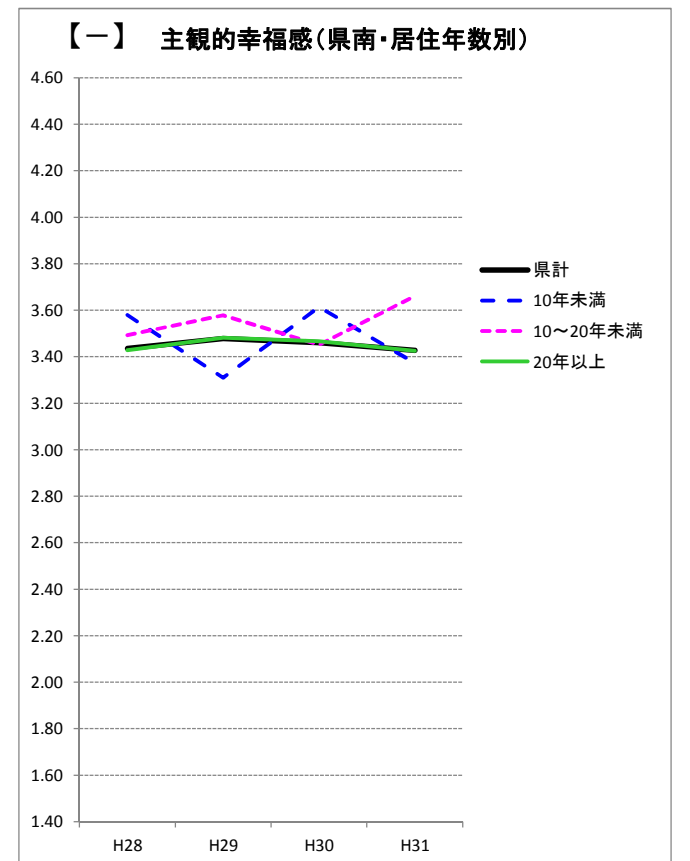
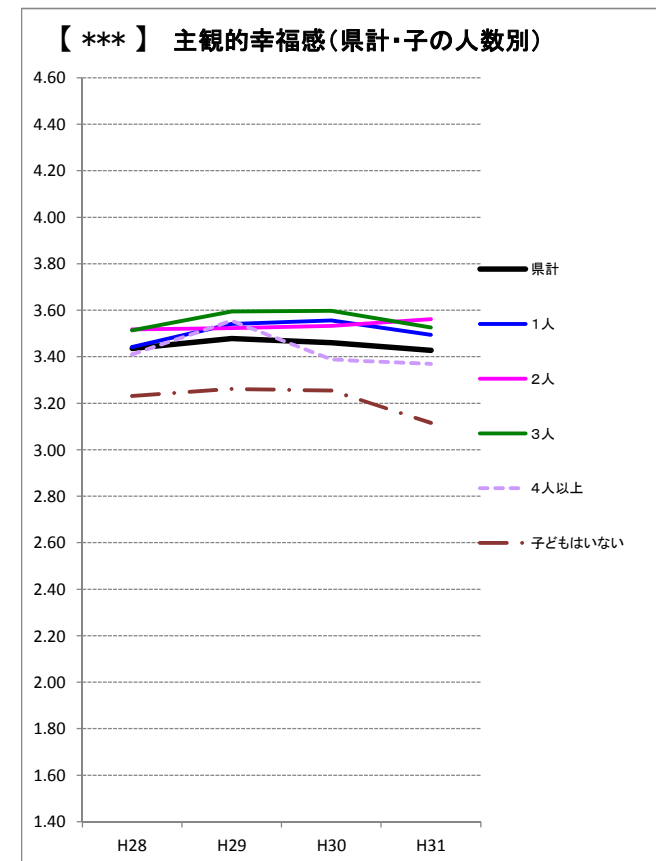
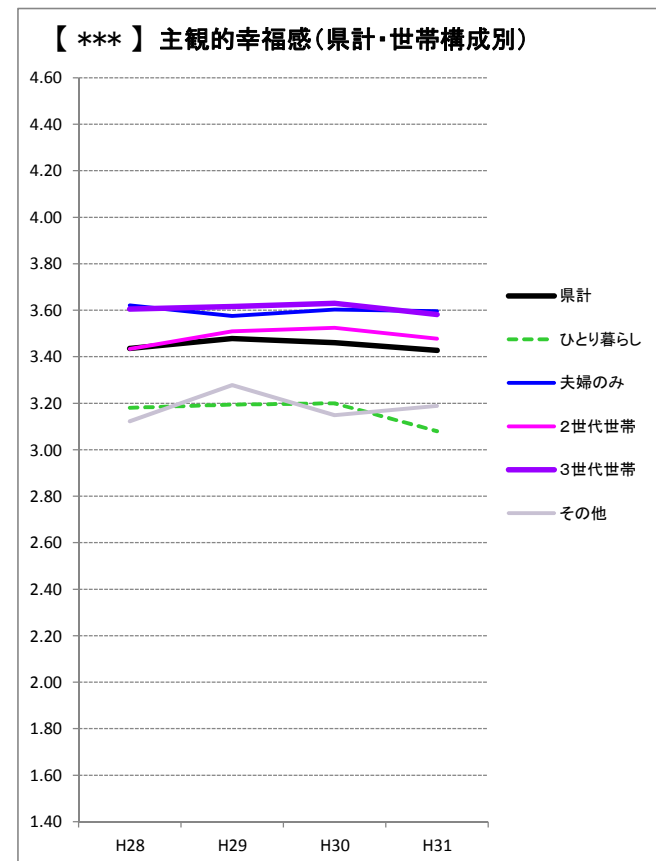
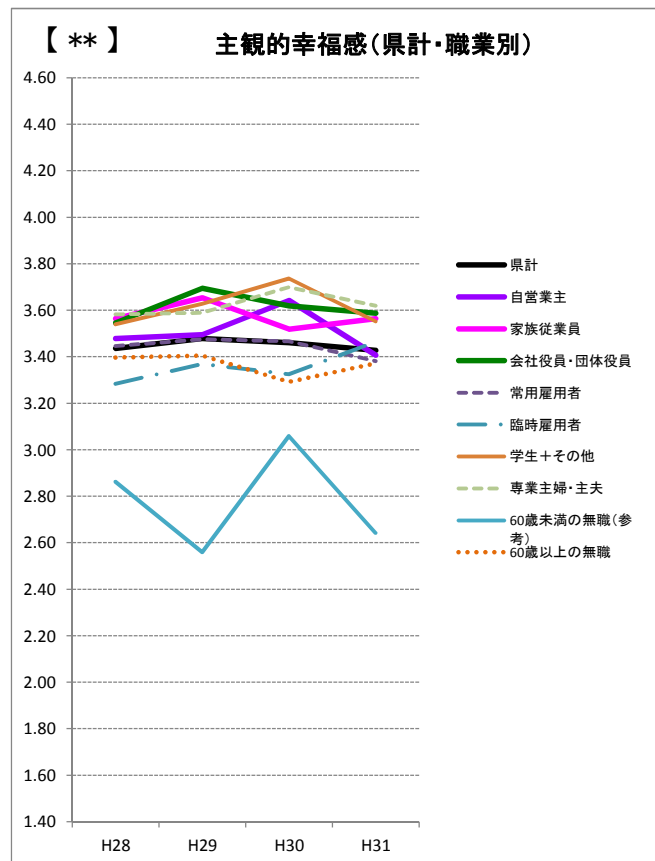
補足資料

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、男女別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央、沿岸が高く、県南が低かった。男女別では、女性が高く男性が低かった。  
 職業別では、主婦、役員が高く、常用雇用者、無職が低かった。世帯構成別では、夫婦のみ世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。



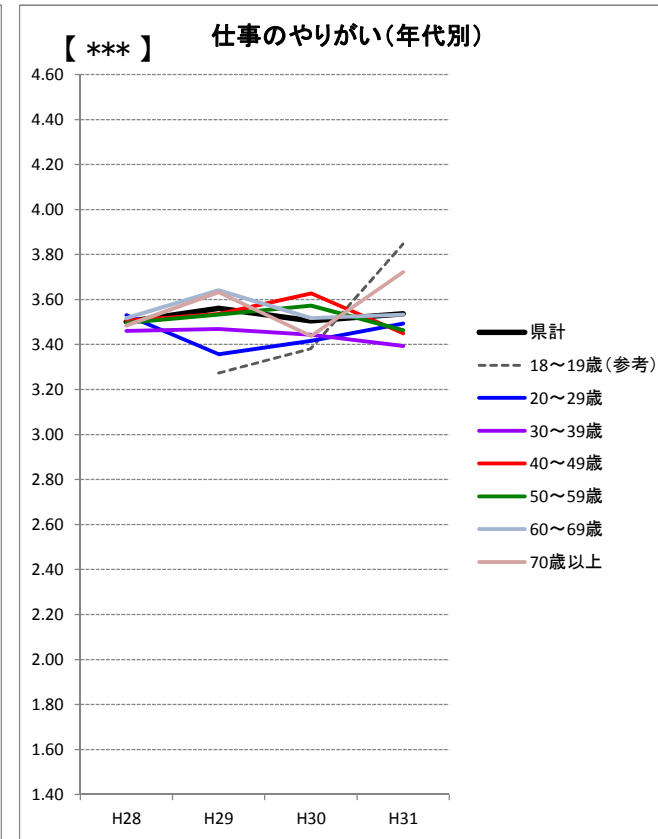
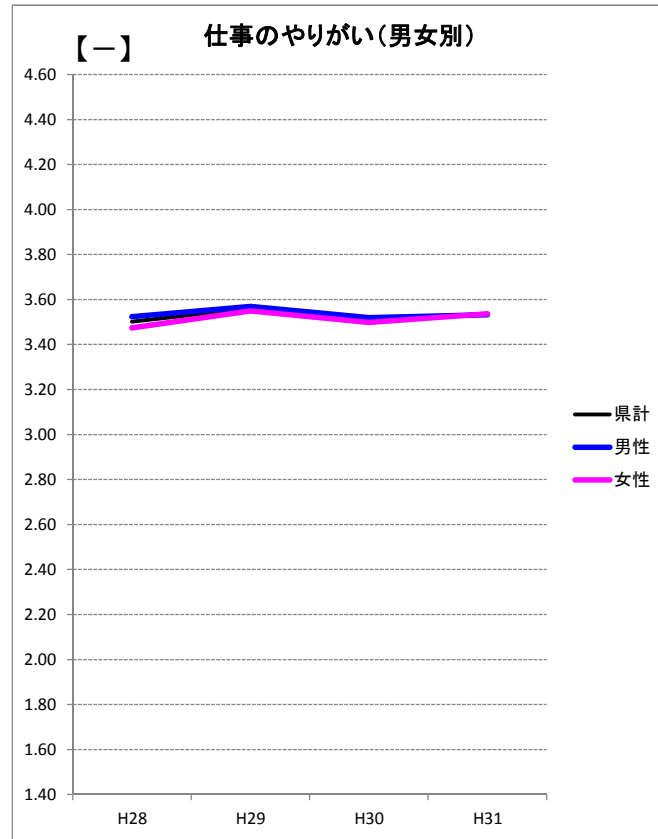
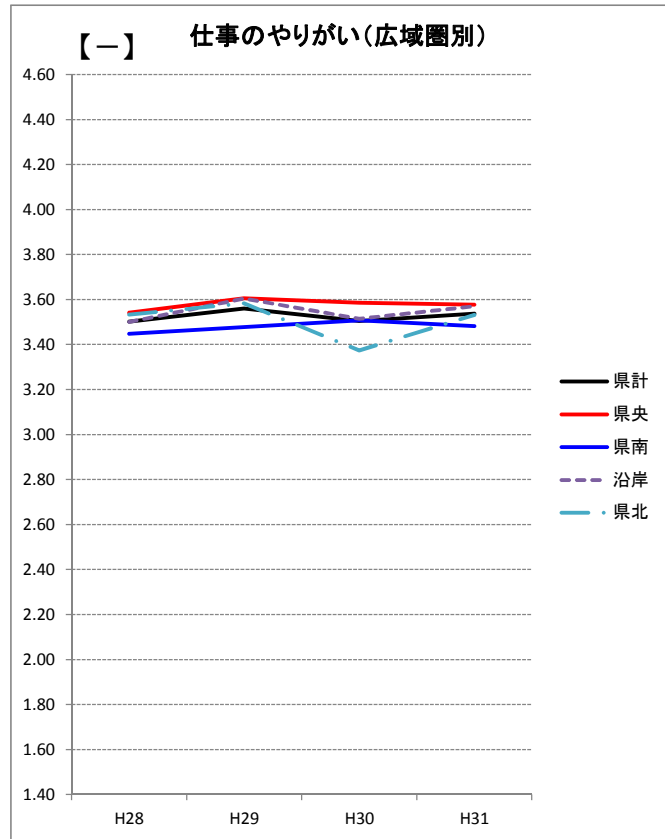
「主観的幸福感(平均)について」  
 幸福感平均の算出方法  
 「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 [-] 差が認められない



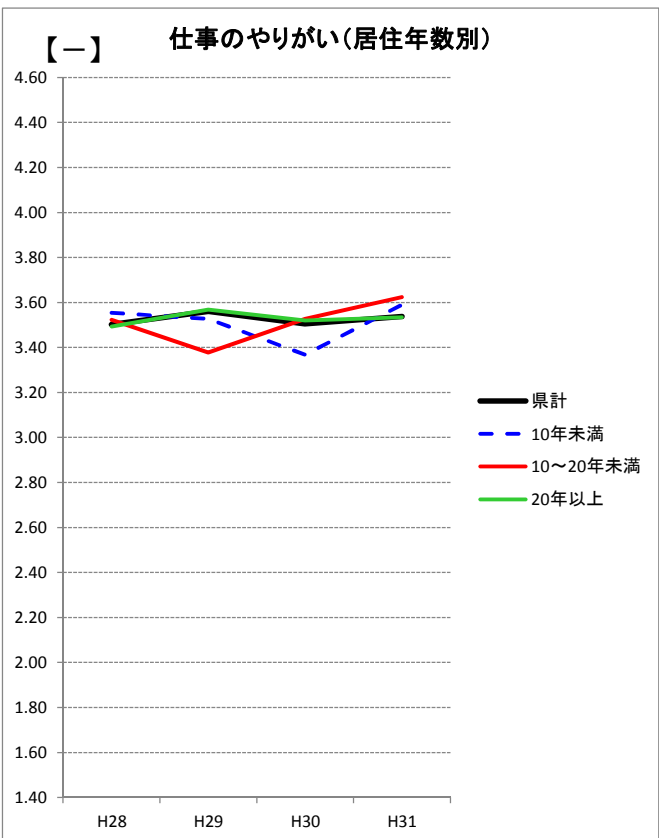
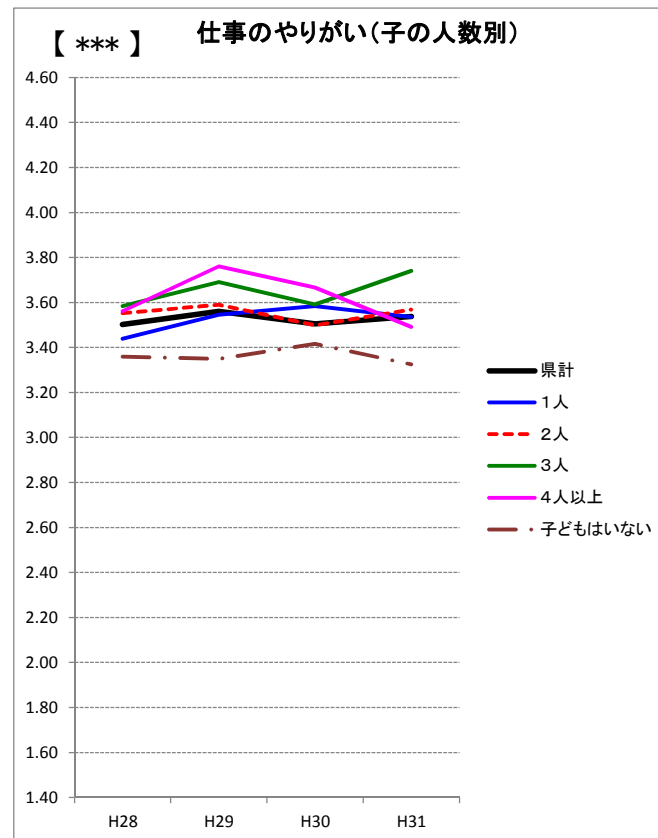
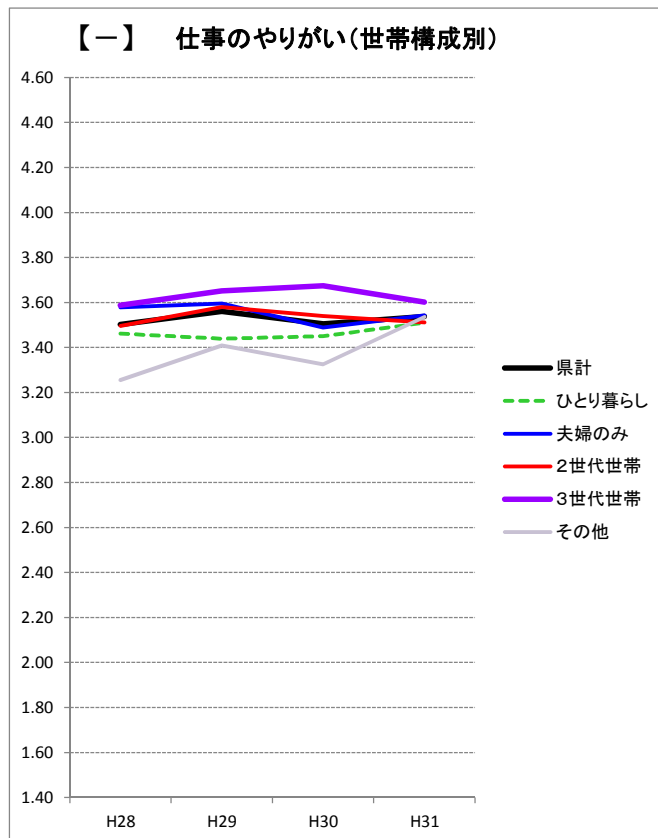
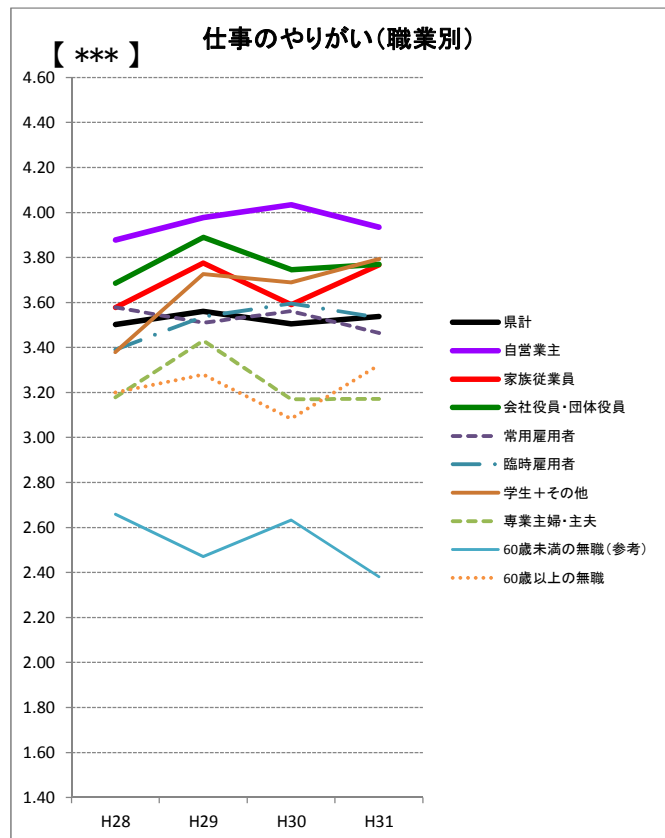
【県計】【領域別実感】① 仕事にやりがいを感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、自営業種が高く、専業主婦(主夫)、無職が低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。



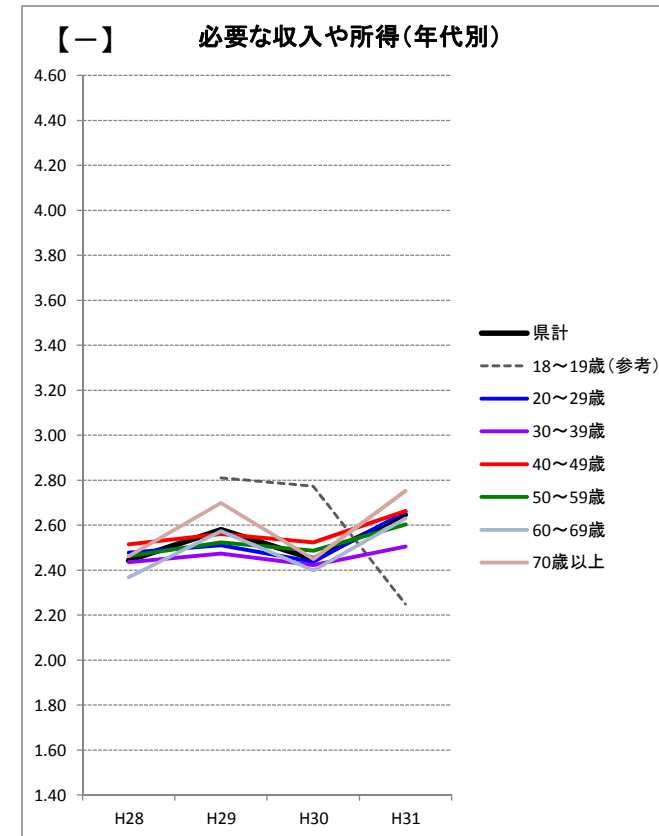
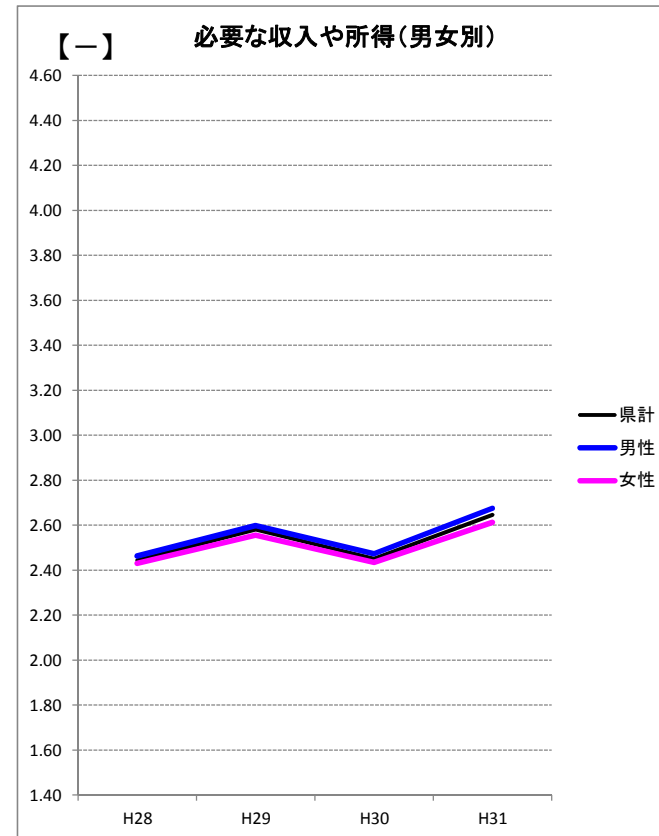
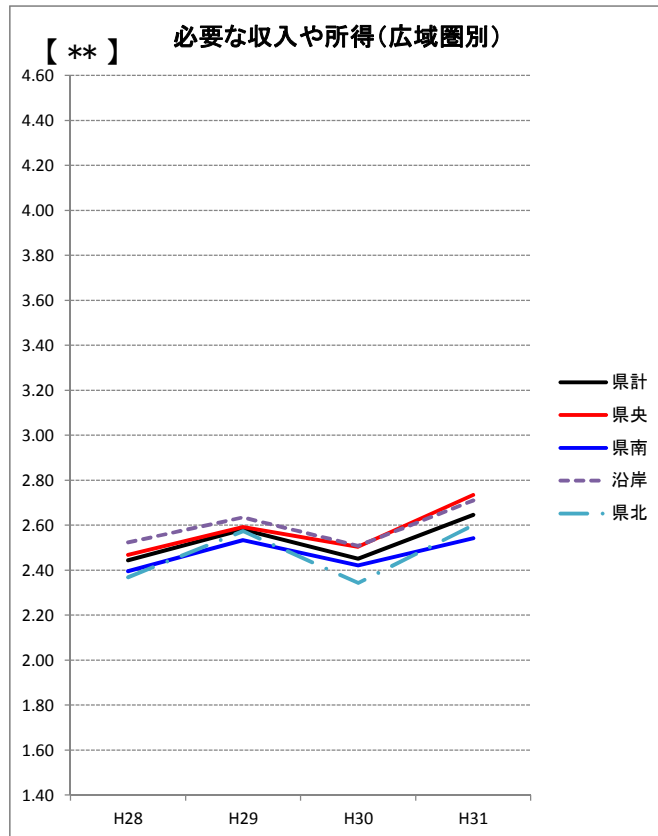
「領域別実感の属性別の実感平均について」  
**実感平均の算出方法**  
 「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

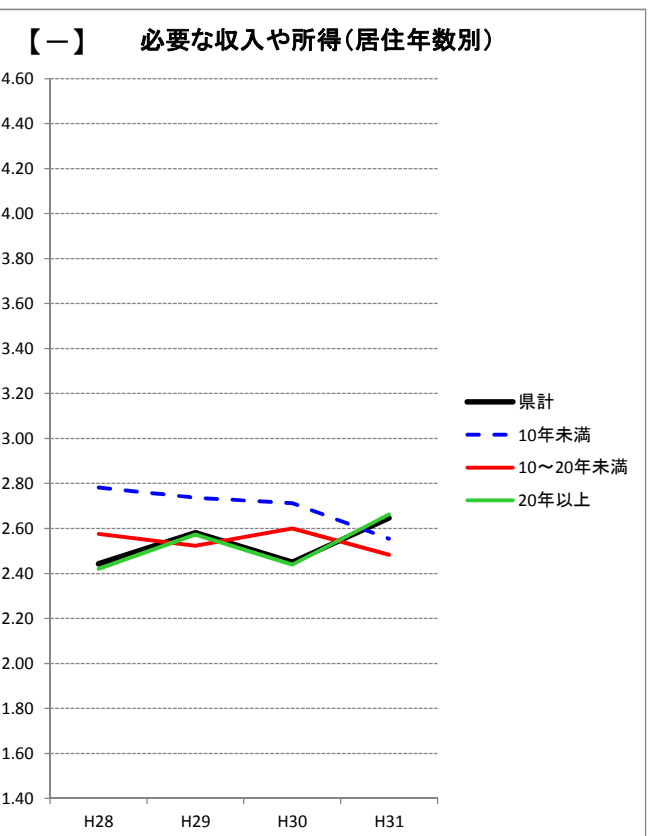
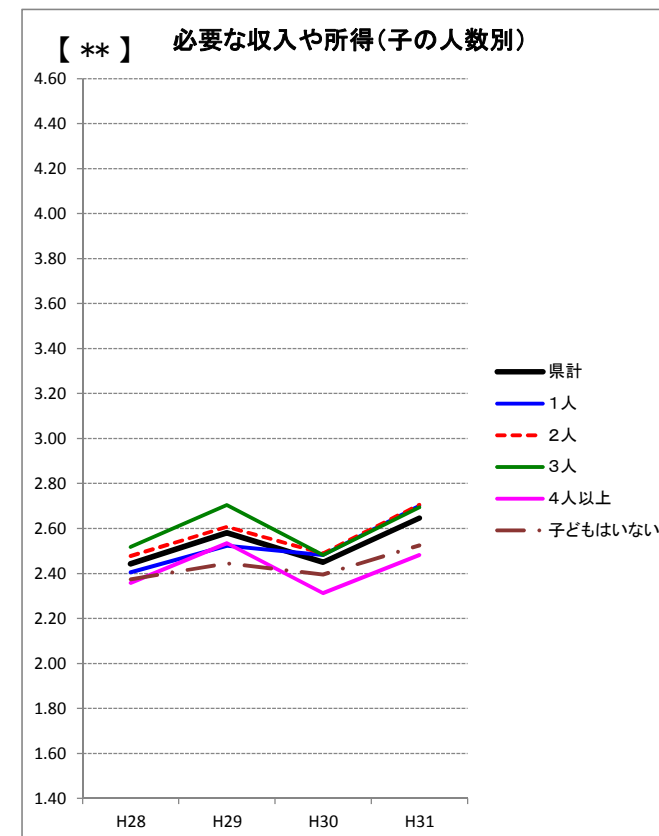
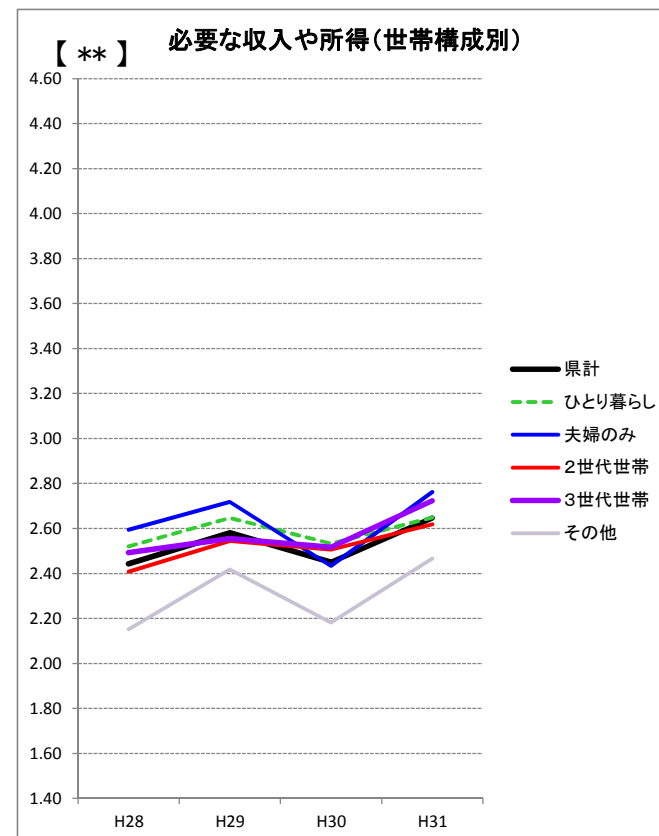
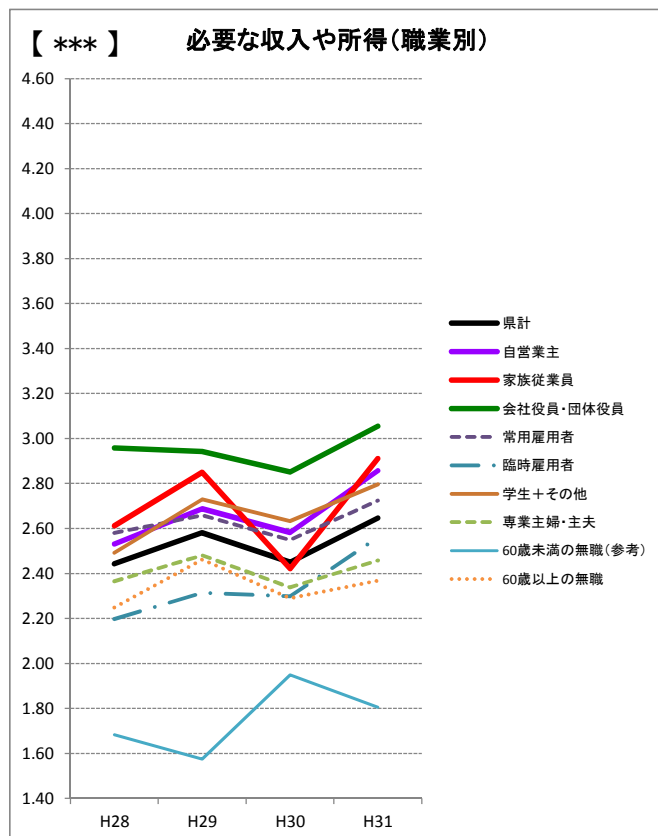


【県計】【領域別実感】②必要な収入や所得が得られていると感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県南が低かった。職業別では、役員が高く、無職、専業主婦(主夫)が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高かった。子の人数別では、子2人・3人が高く、子4人以上が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇している。

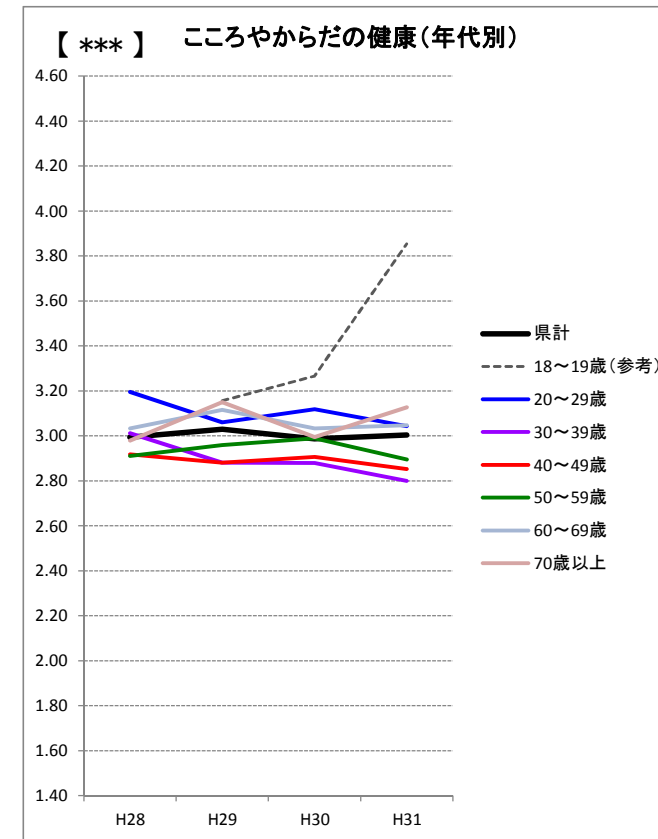
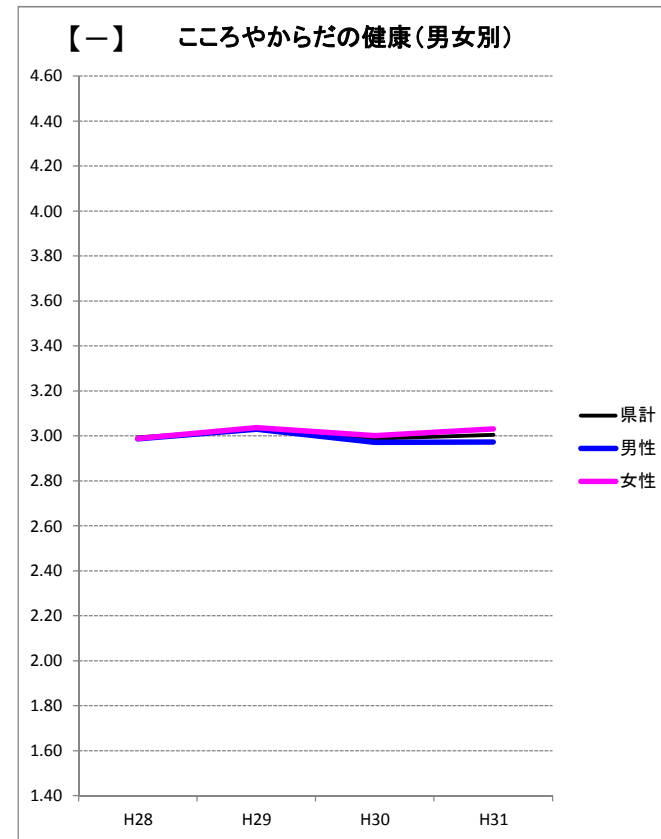
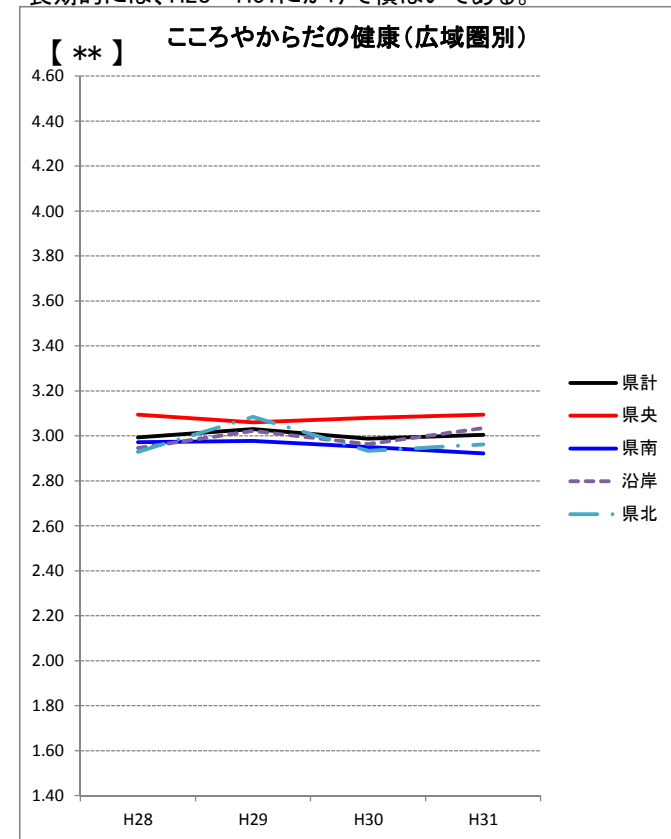


■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】 差が認められない

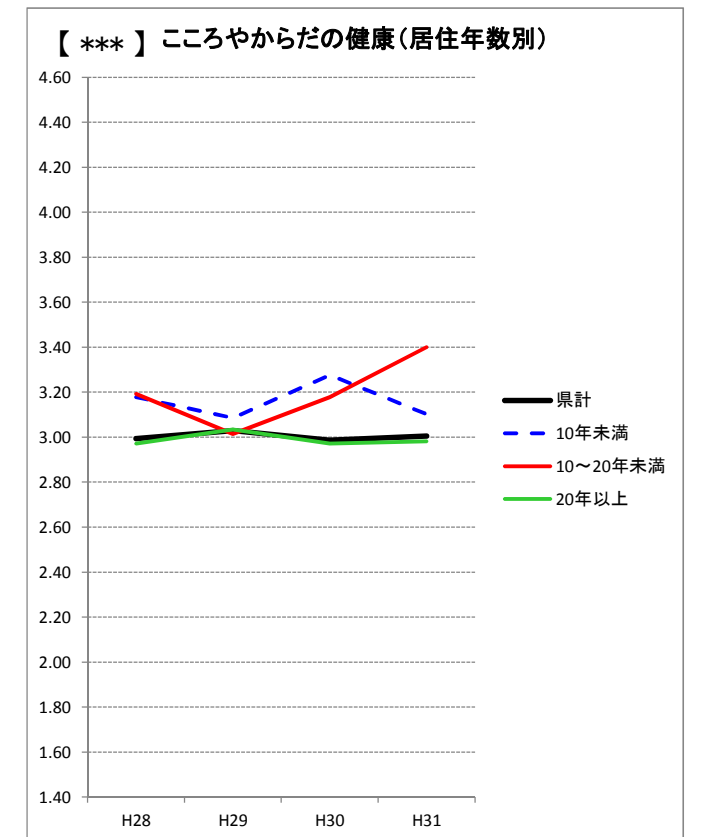
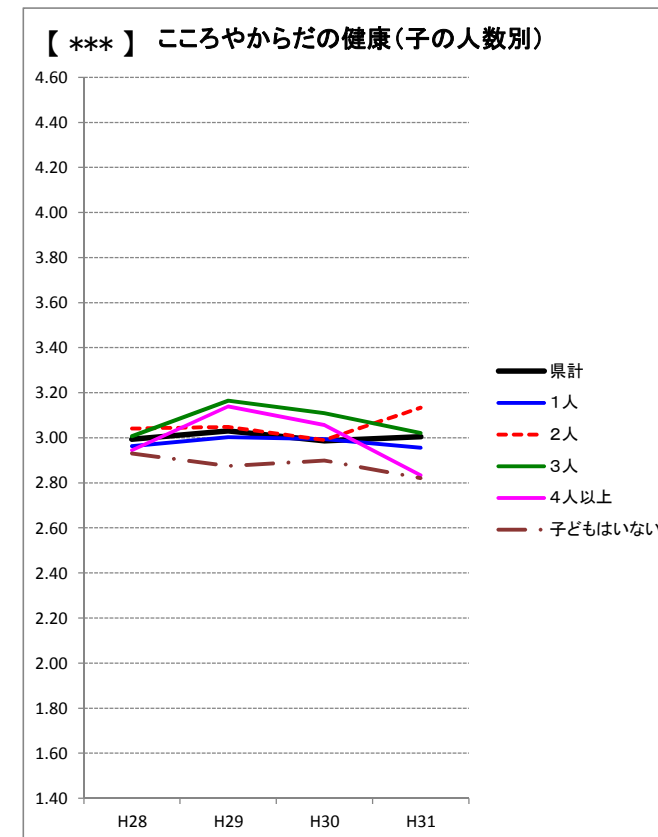
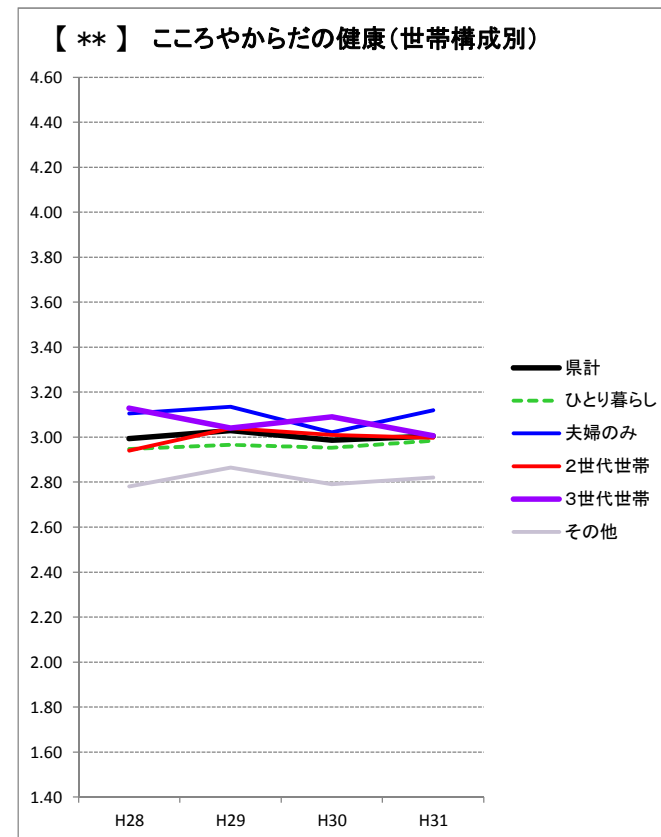
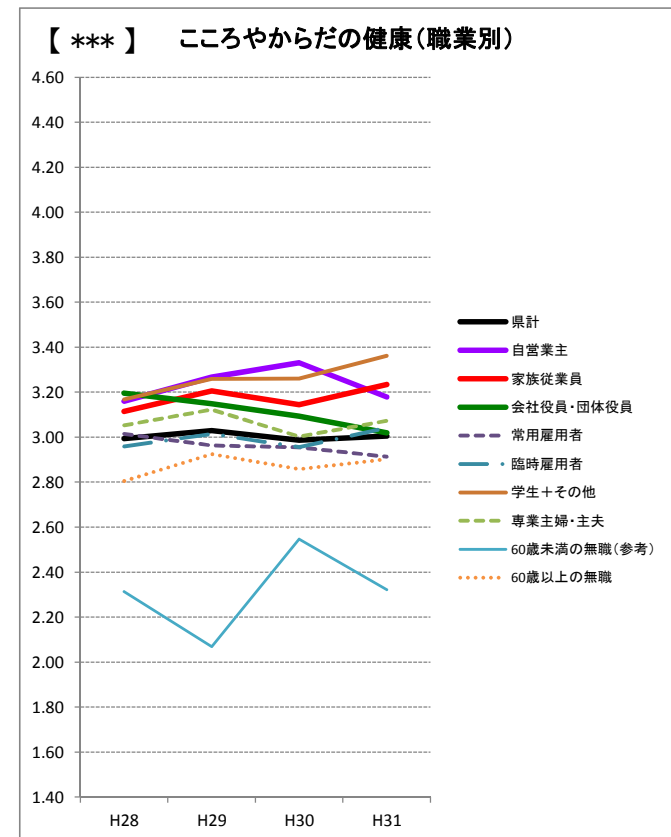


【県計】【領域別実感】③こころやからだの健康だと感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県南が低かった。年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生等が高く、無職が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。

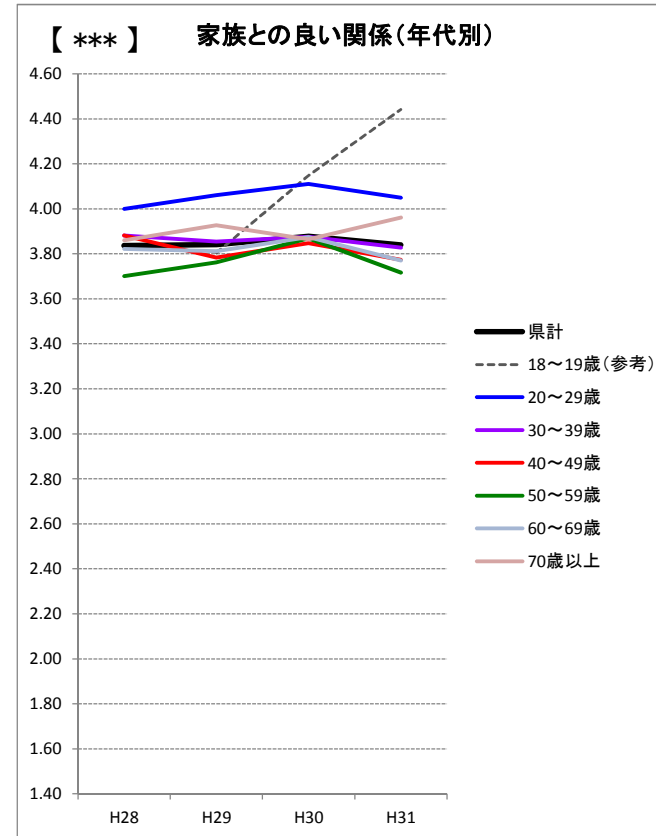
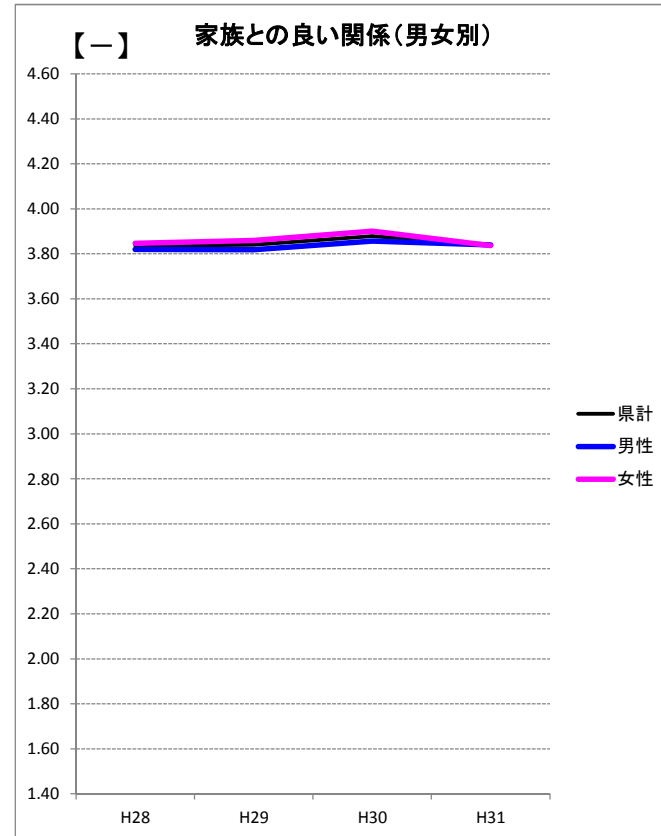
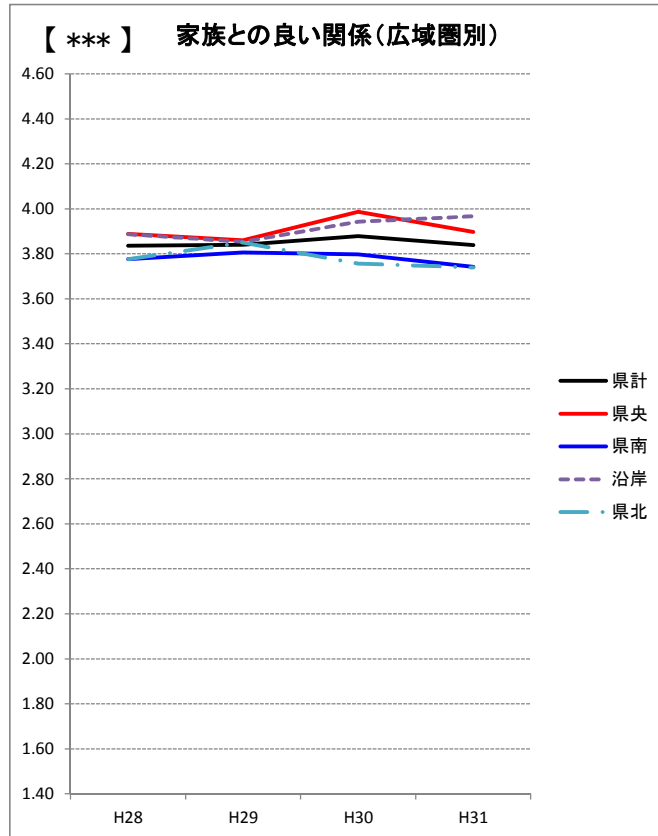


■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】 差が認められない

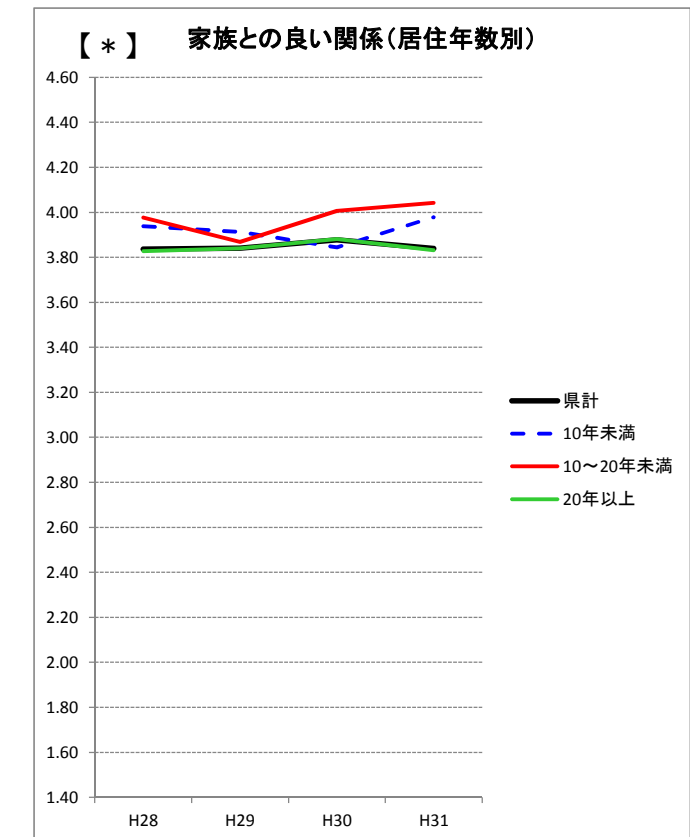
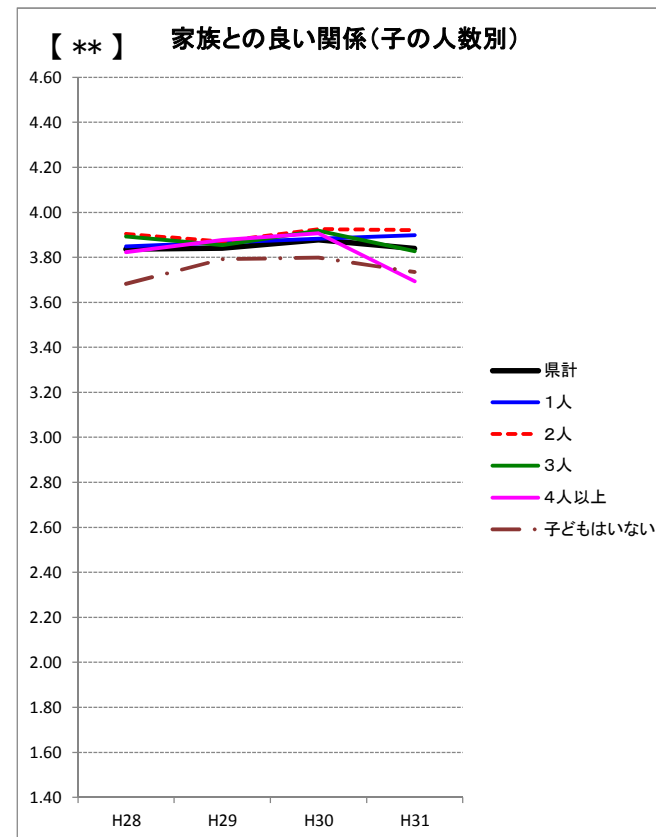
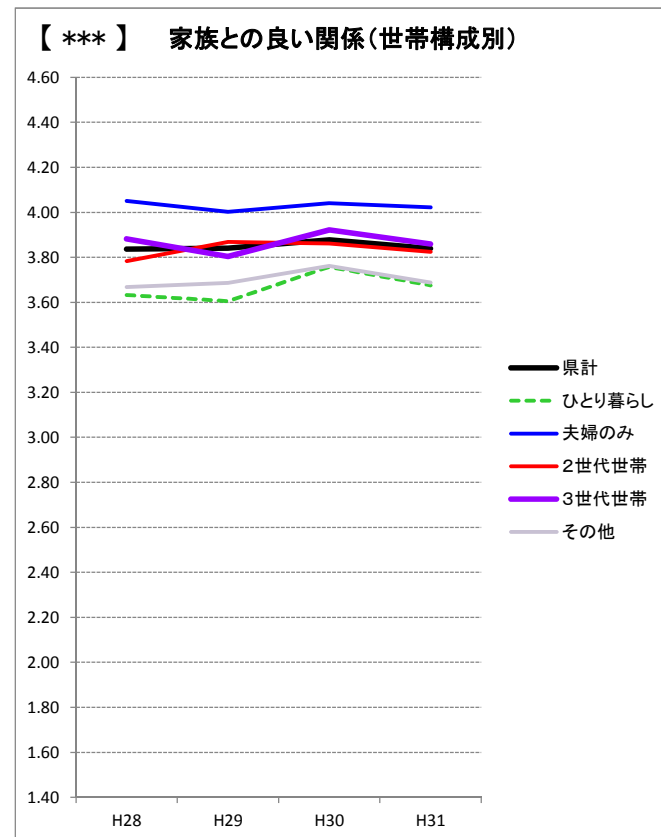
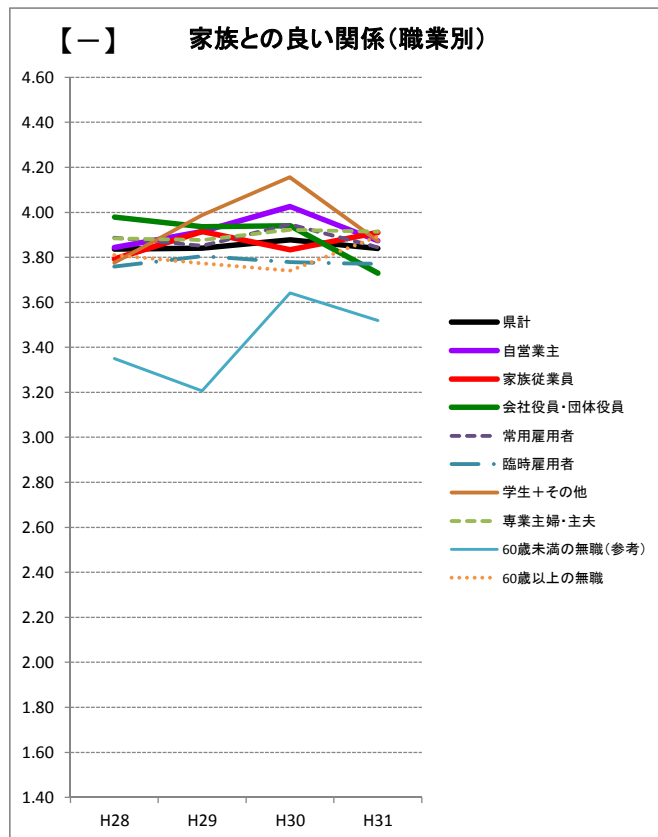


【県計】【領域別実感】④家族と良い関係がとれていると感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、沿岸が高く、県北が低かった。年代別では、20歳代が高く、50歳代が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子2人が高く、子4人以上が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。



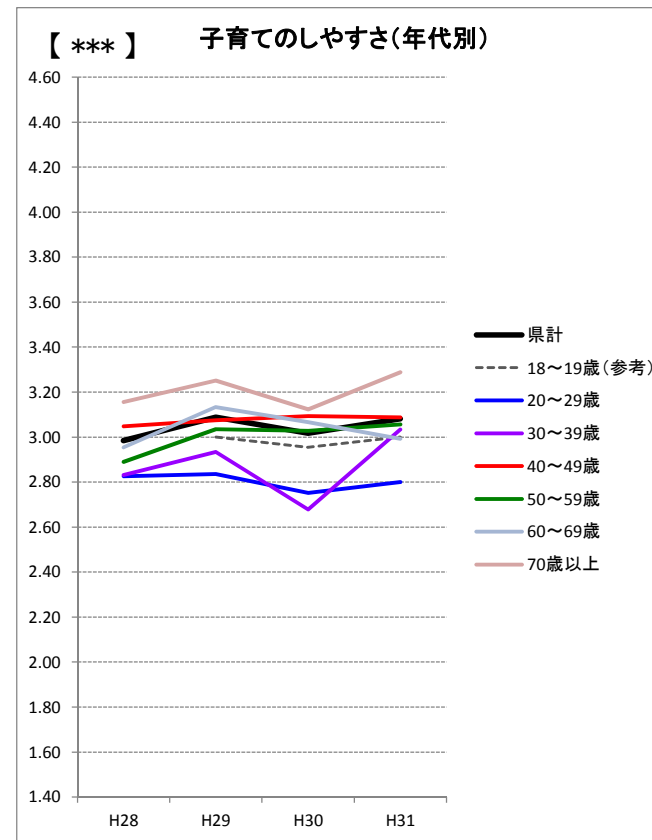
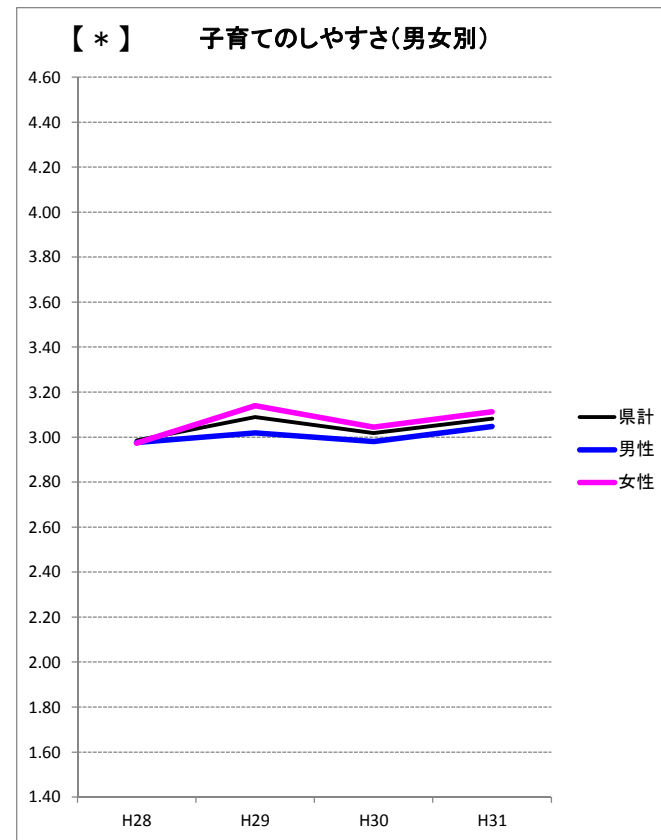
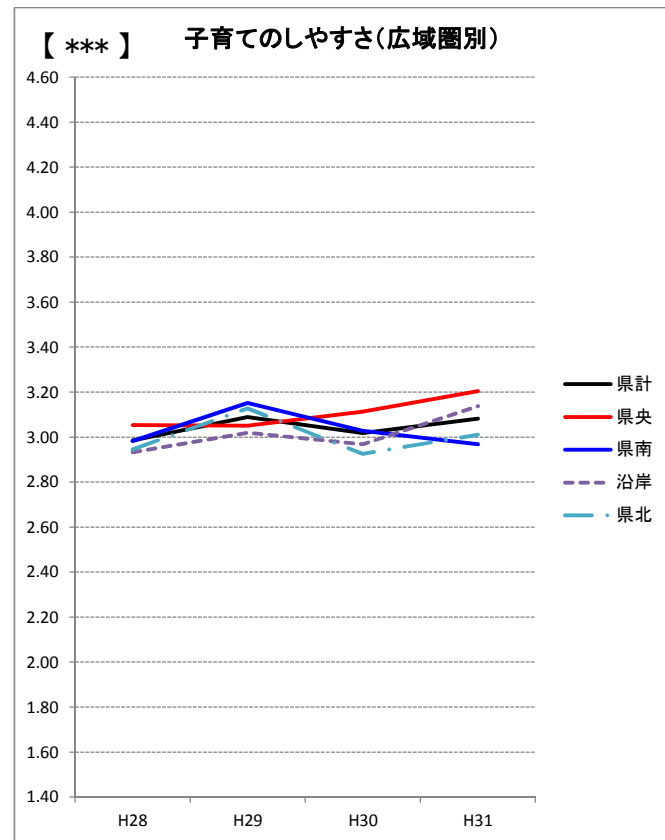
■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない



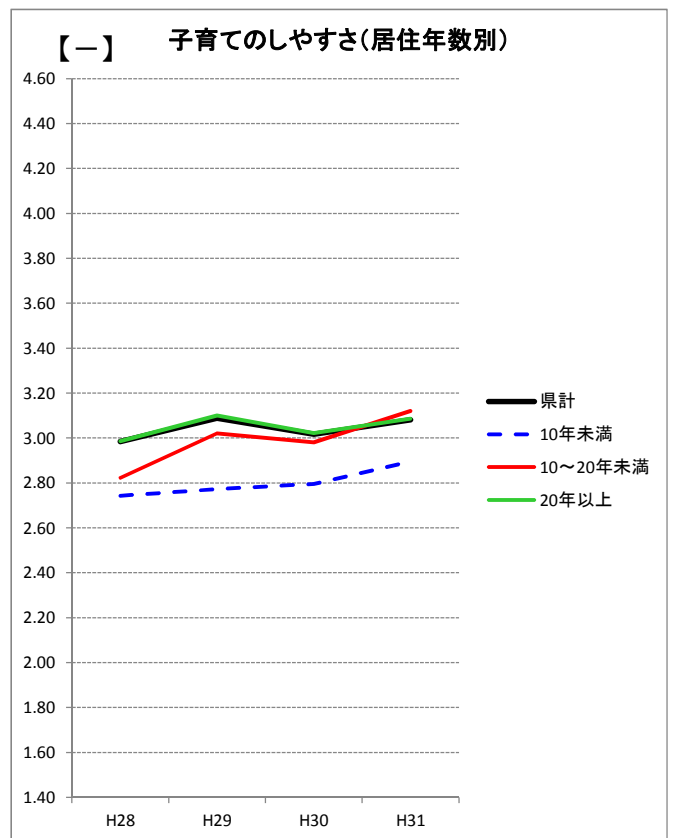
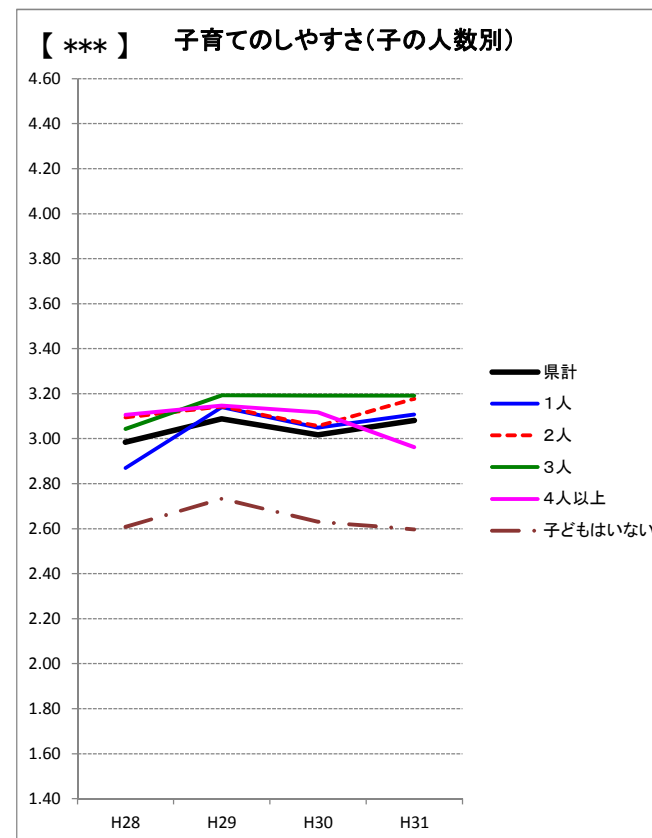
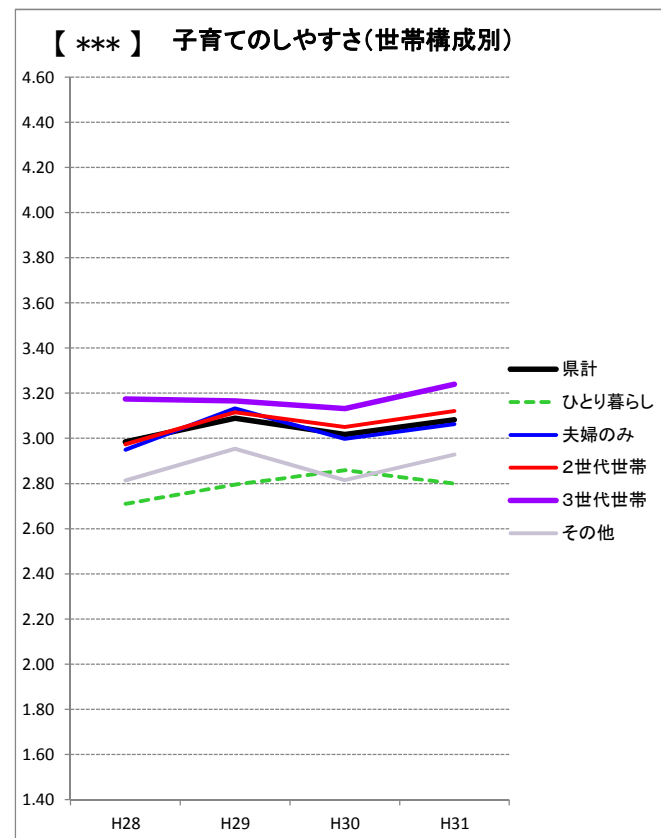
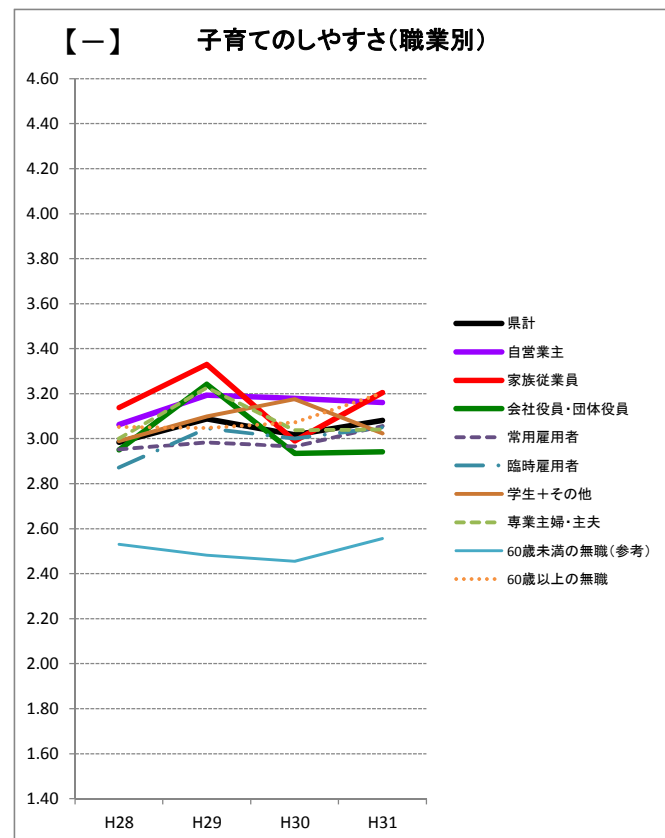


【県計】【領域別実感】⑤子育てがしやすいと感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県南が低かった。年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇している。



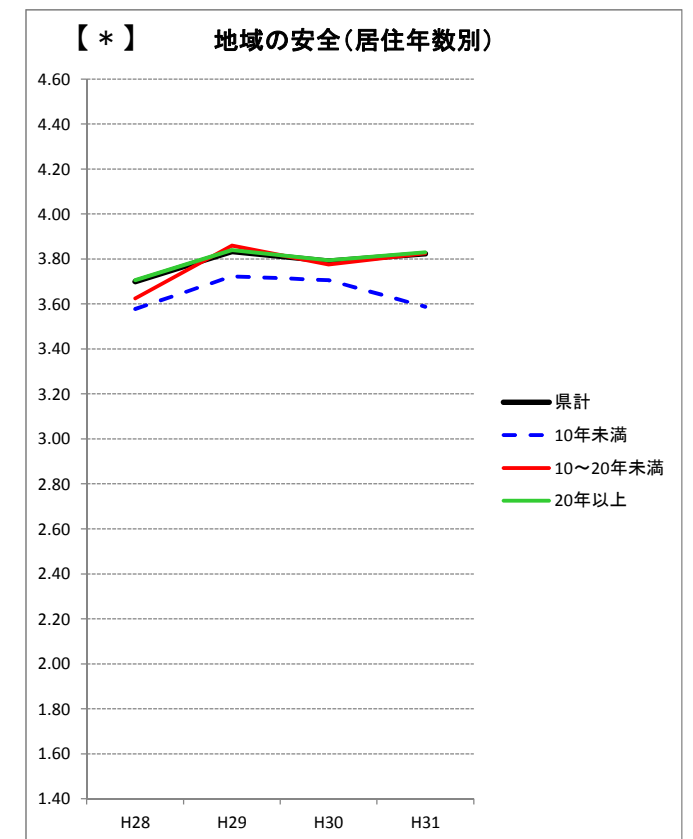
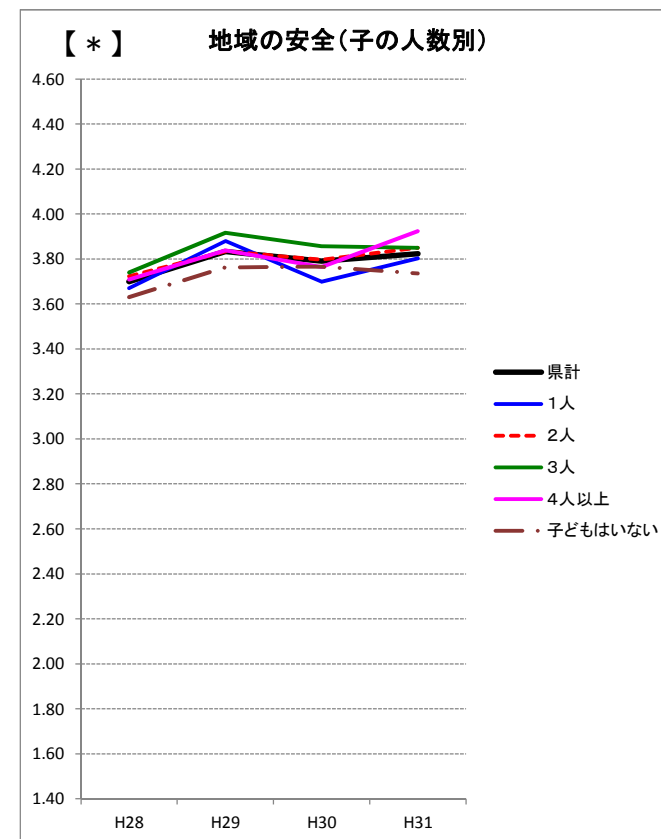
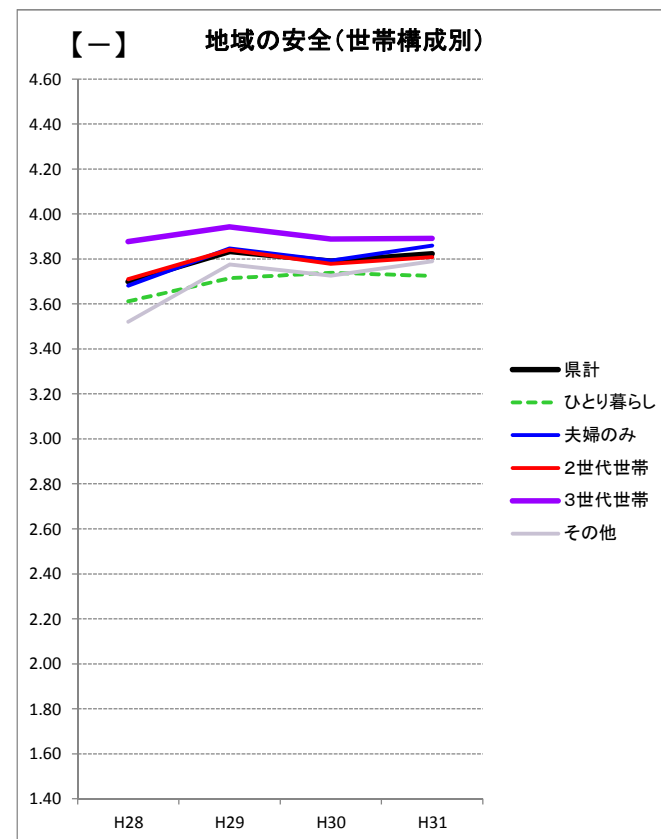
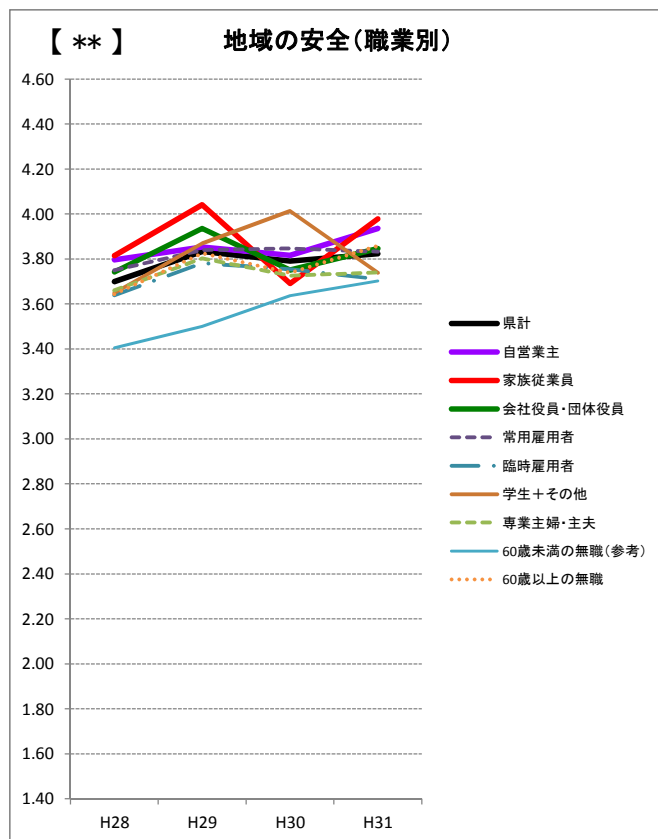
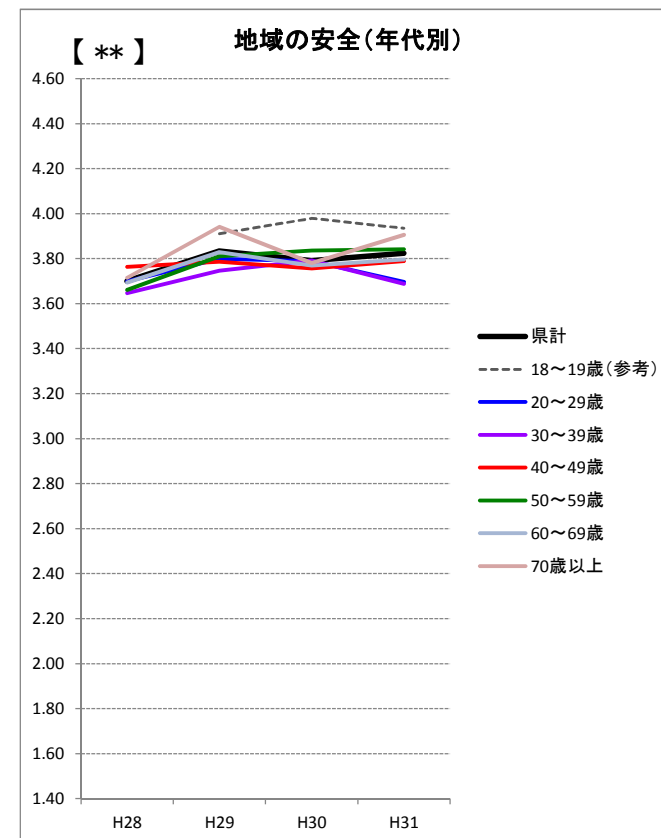
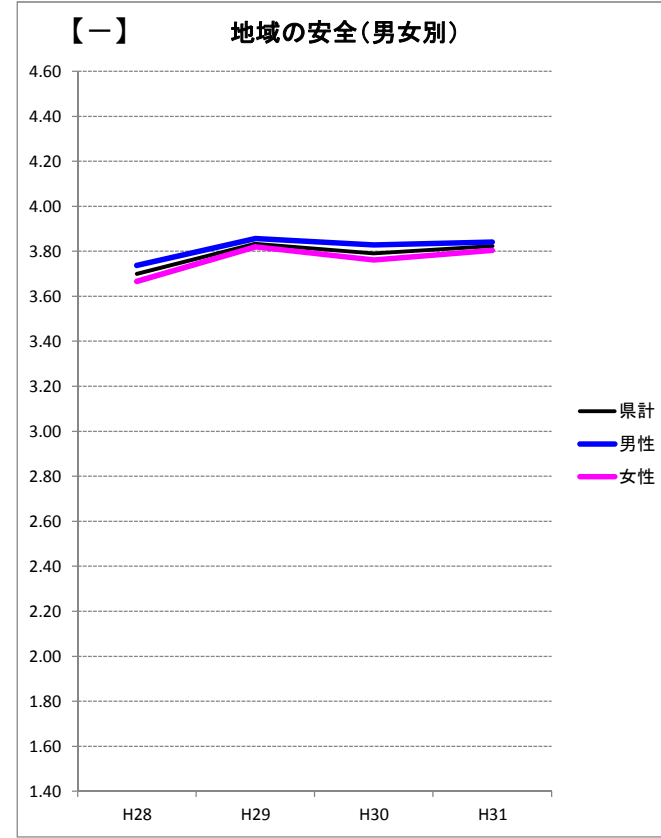
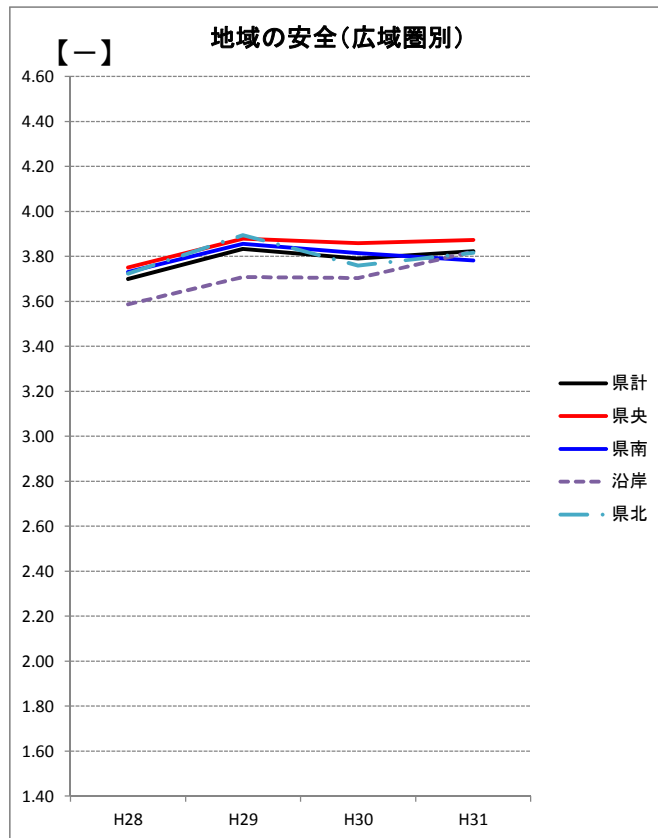
■凡例  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 [-] 差が認められない





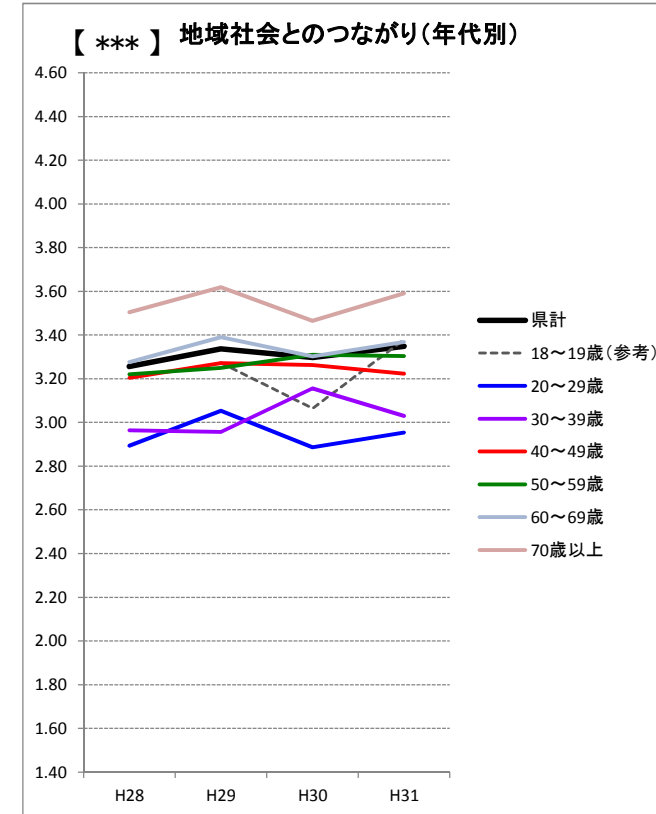
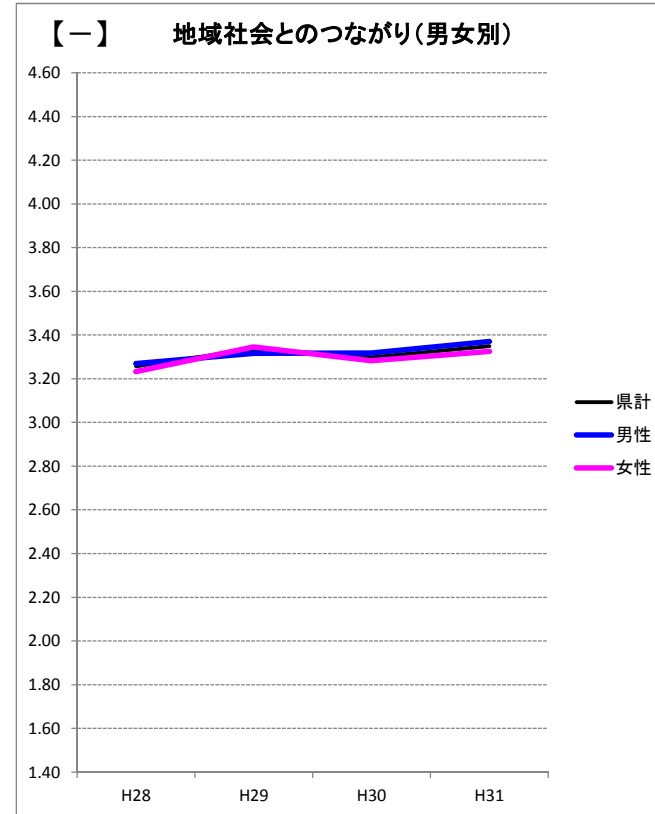
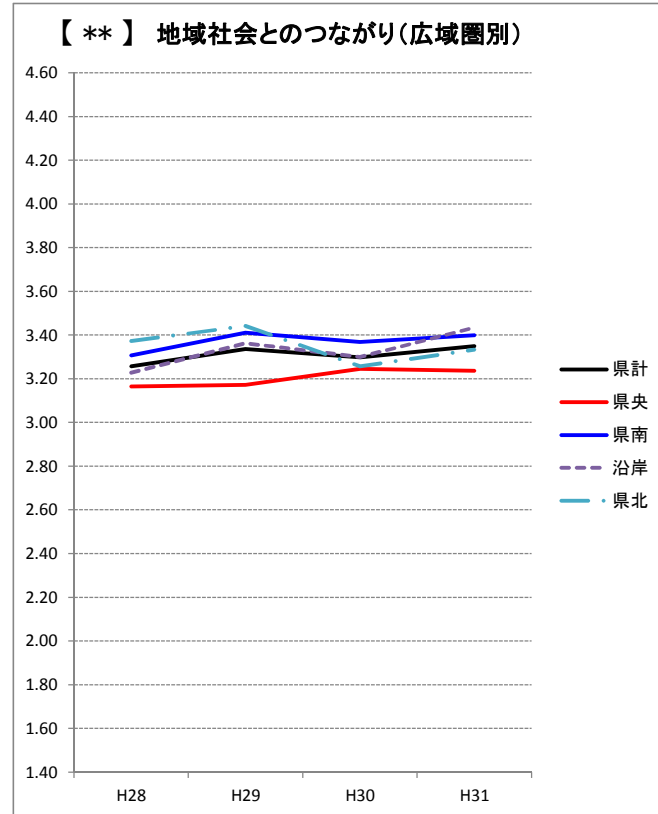
【県計】【領域別実感】⑥お住まいの地域は安全だと感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別で有意な差が認められた。  
 年代別では、70歳以上が高く、20歳代、30歳代が低かった。職業別では、家族従業員が高く、臨時雇用者が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇しているが、短期的(H30からH31)には横ばいである。

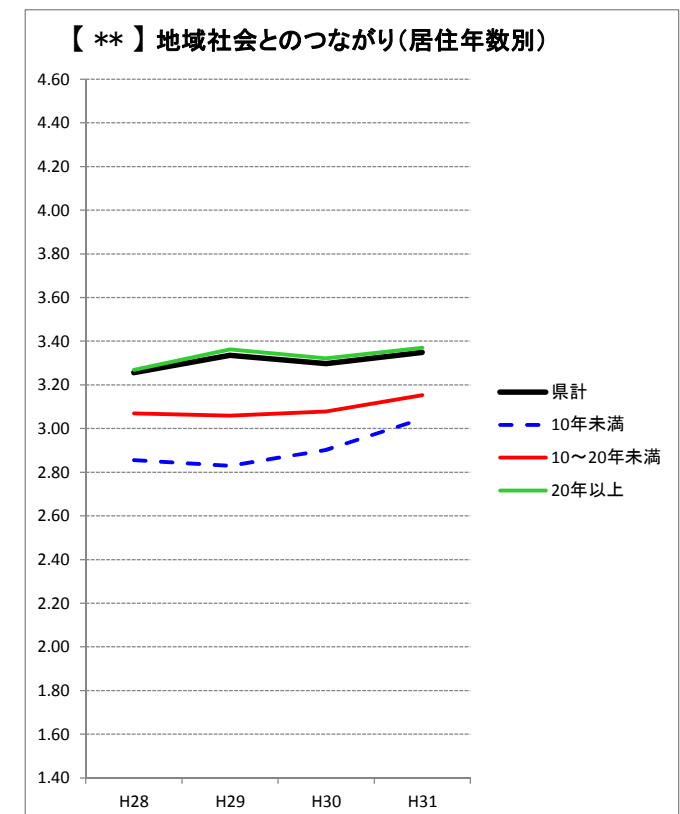
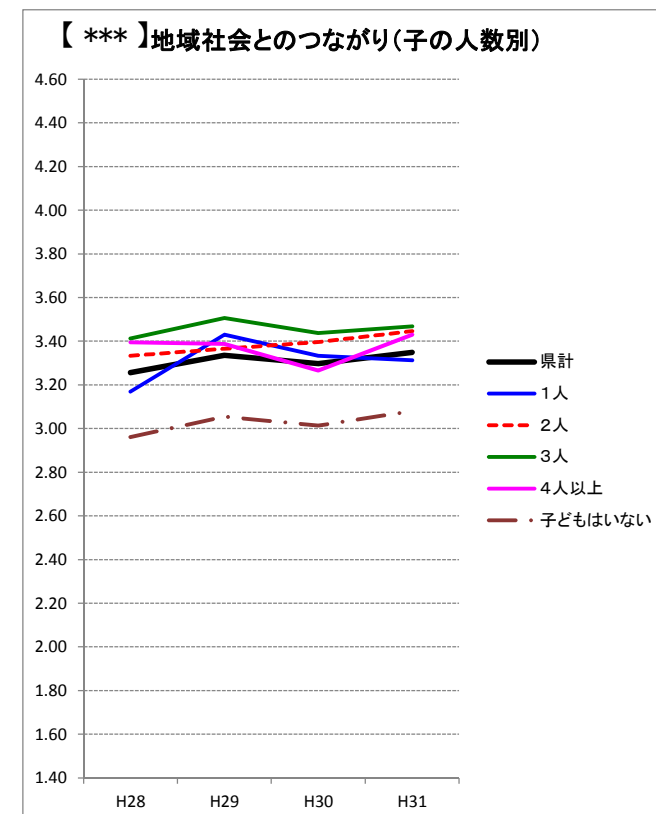
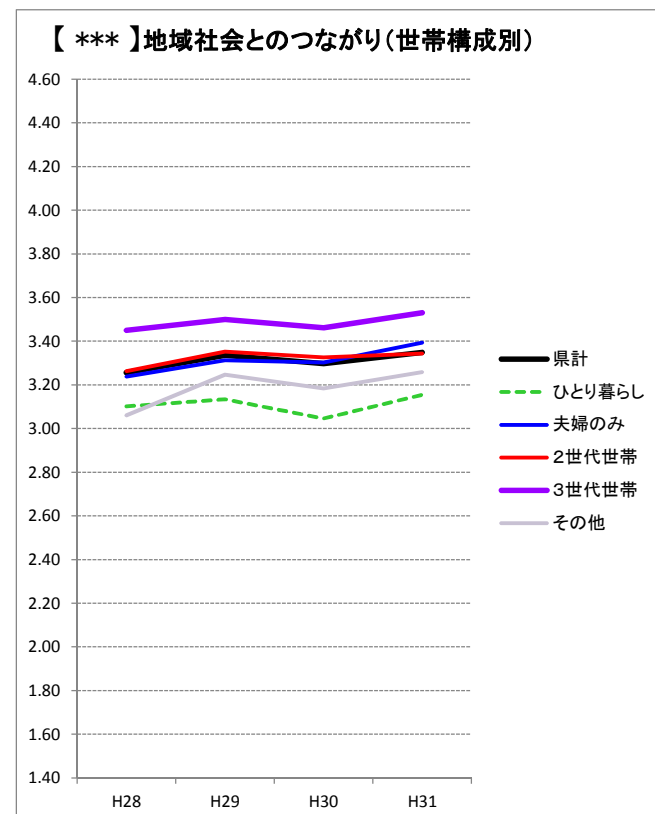
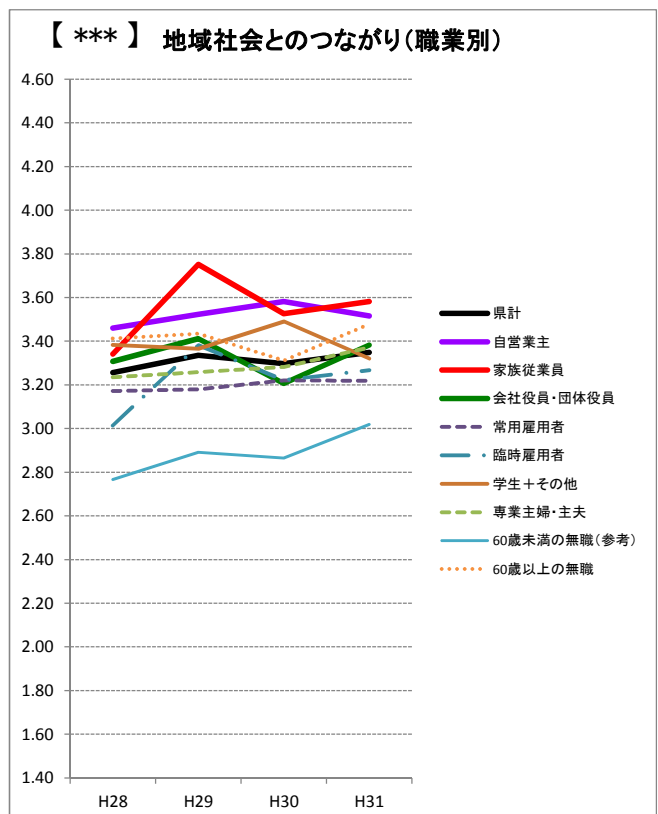


【県計】【領域別実感】⑦地域社会とのつながりを感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、沿岸が高く、県央が低かった。年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。職業別では、家族従業員が高く、常用雇用者が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、20年以上が高く、10年未満が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇しており、短期的(H30からH31)には、横ばいである。

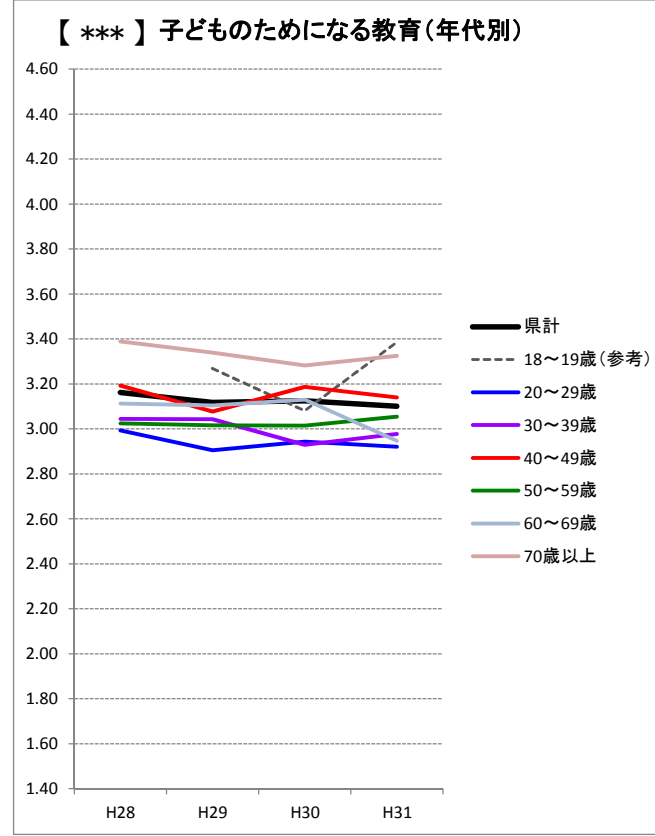
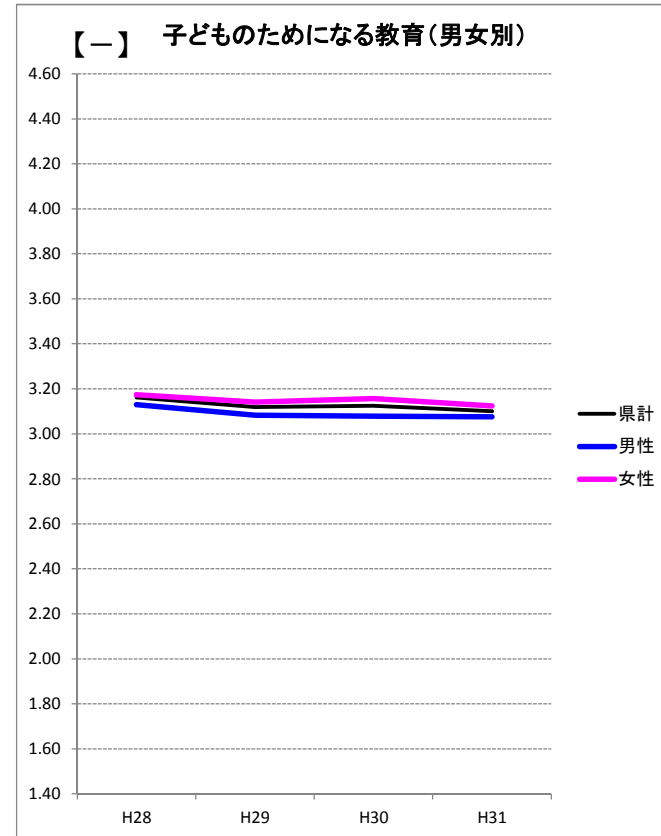
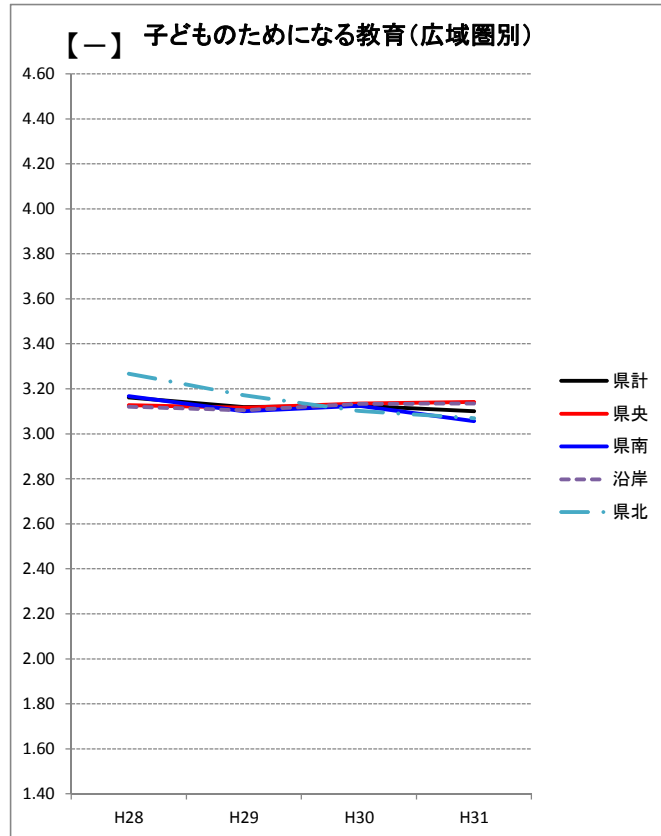


■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】 差が認められない

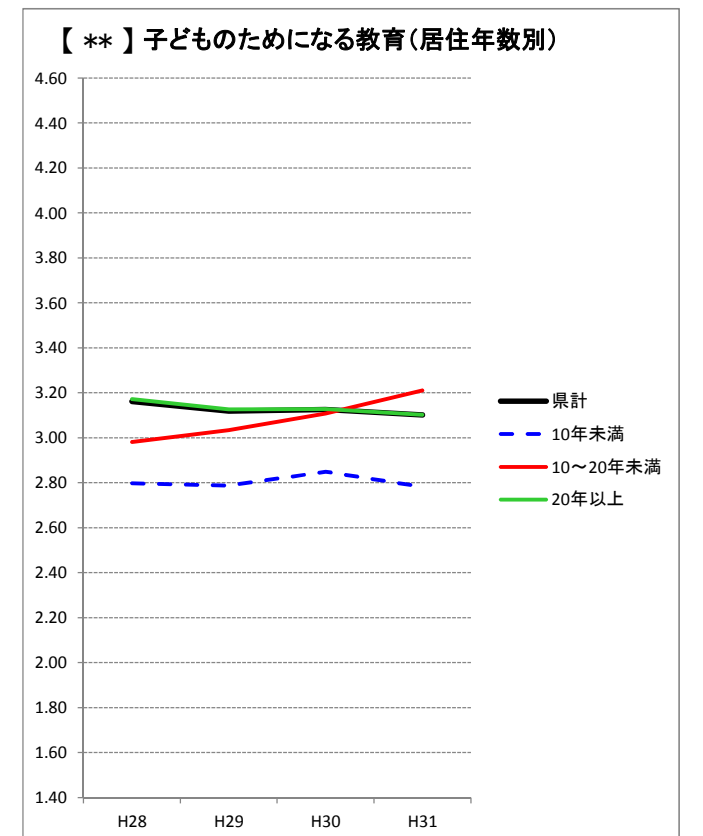
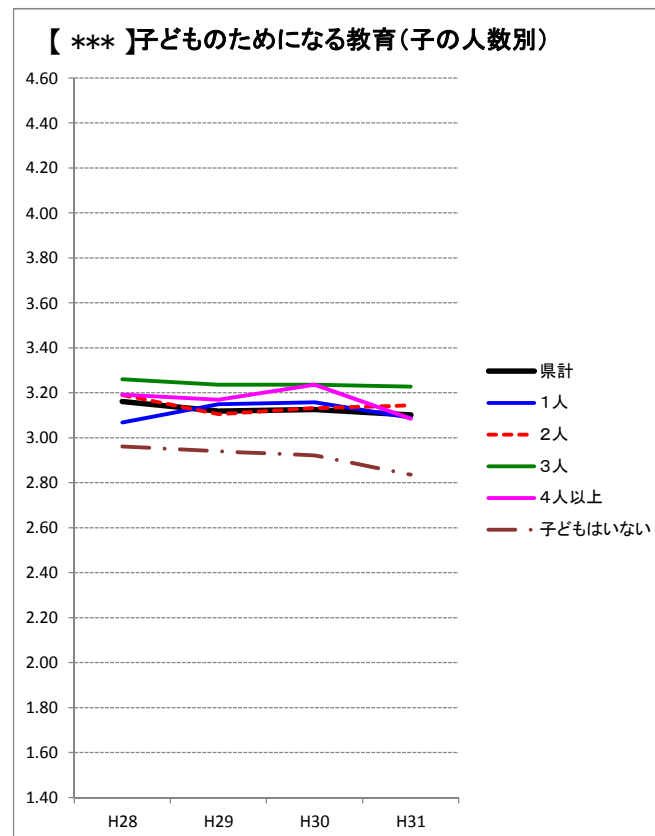
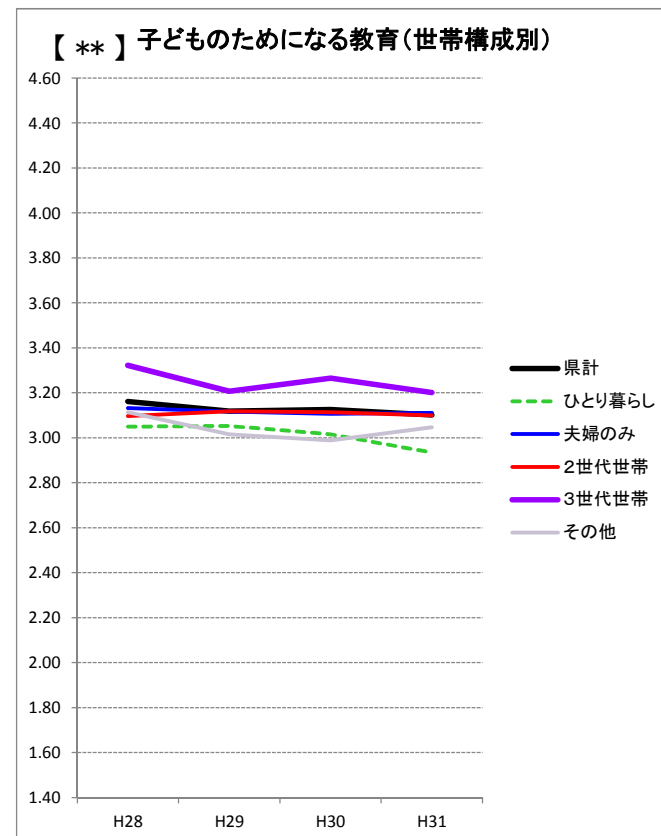
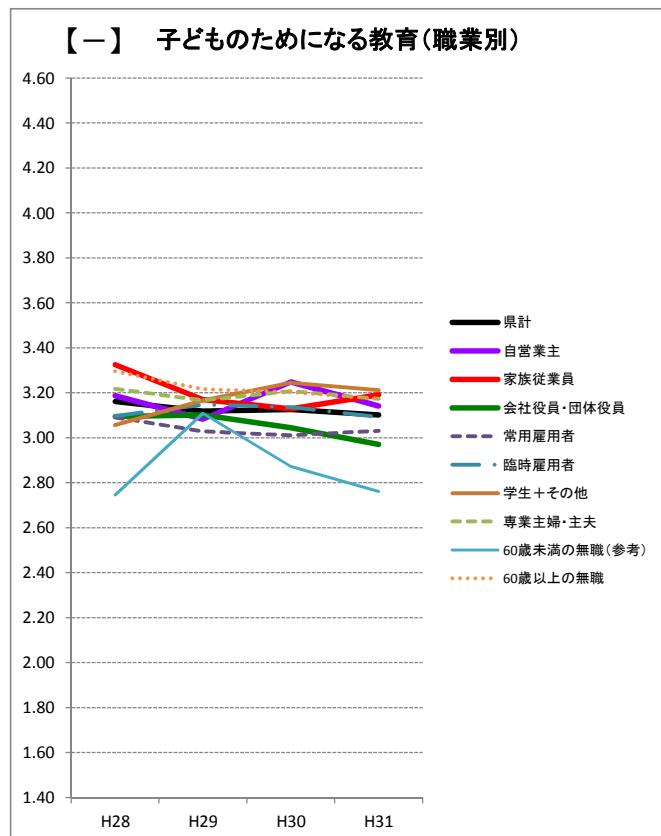


【県計】【領域別実感】⑧子どものためになる教育が行われていると感じますか。

- ・H31調査結果において、属性別に見ると、年代別、世帯構成別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。
- 年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、10年未満が低かった。
- ・長期的には、H28～H31にかけて下降しており、短期的(H30からH31)には横ばいである。

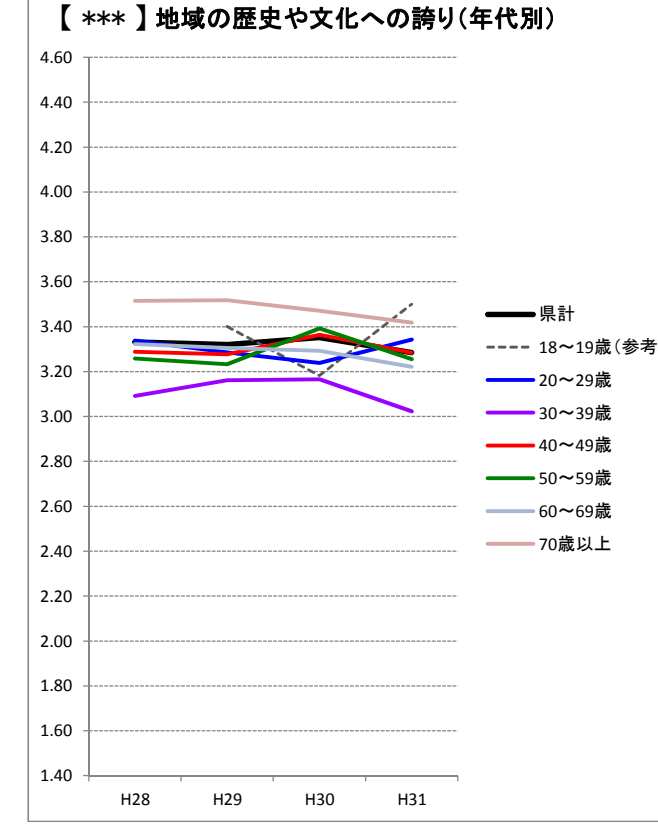
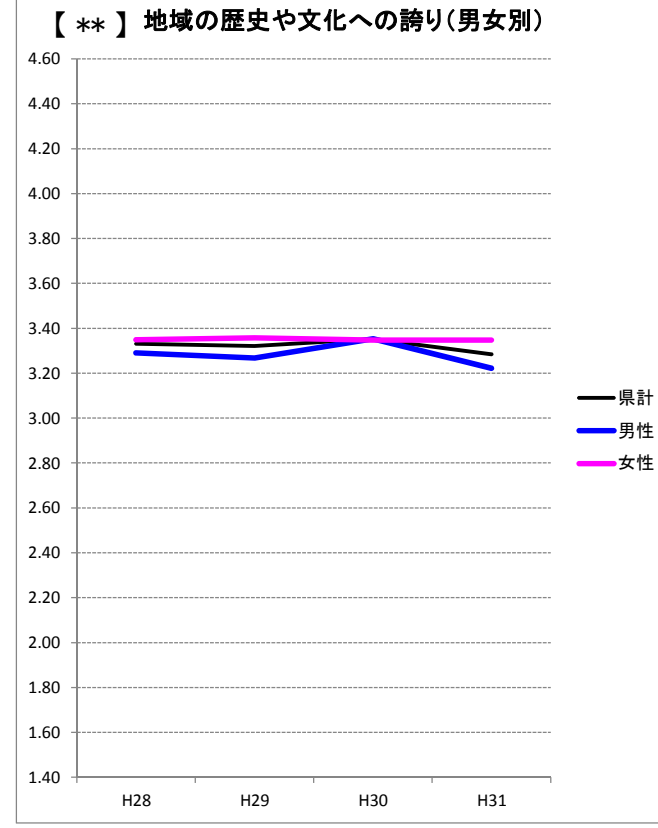
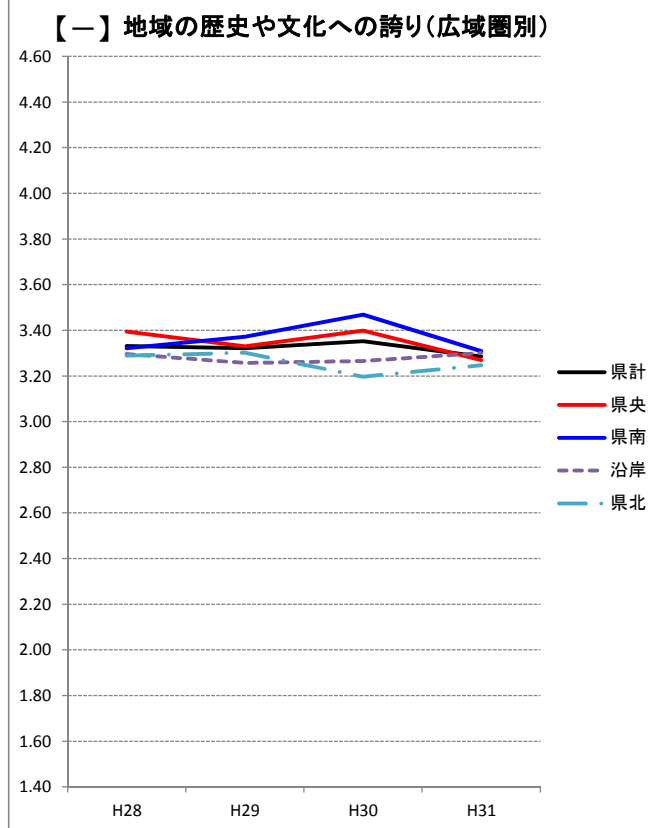


■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)  
 [-] 差が認められない

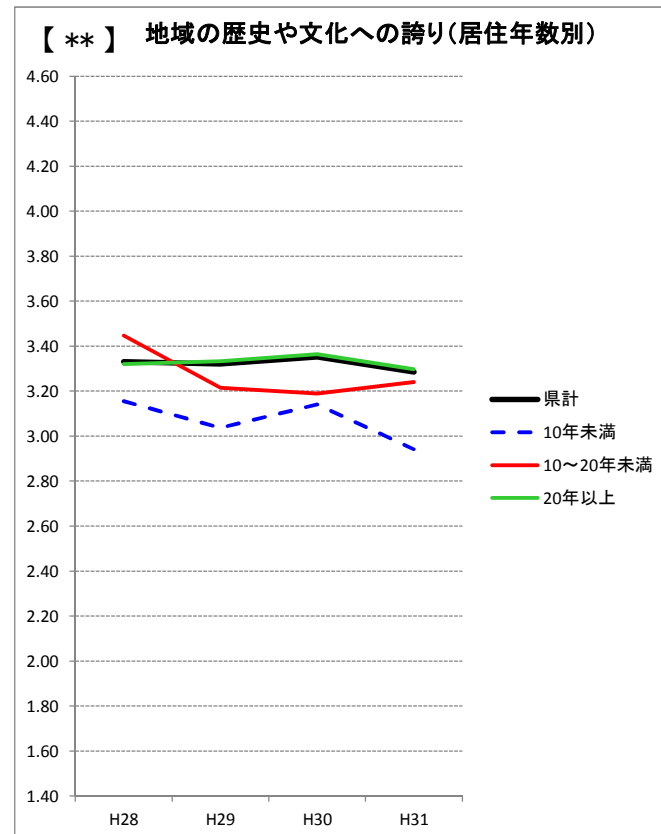
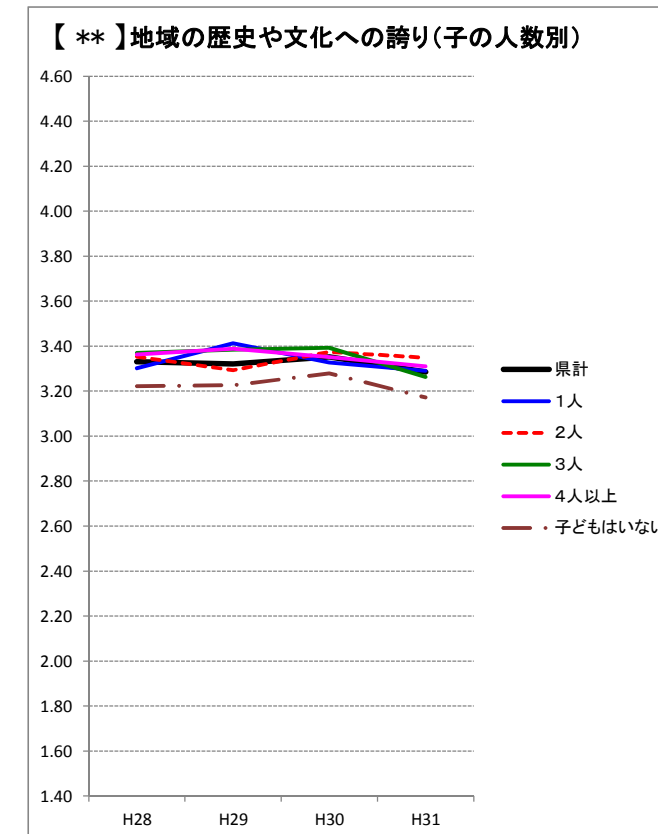
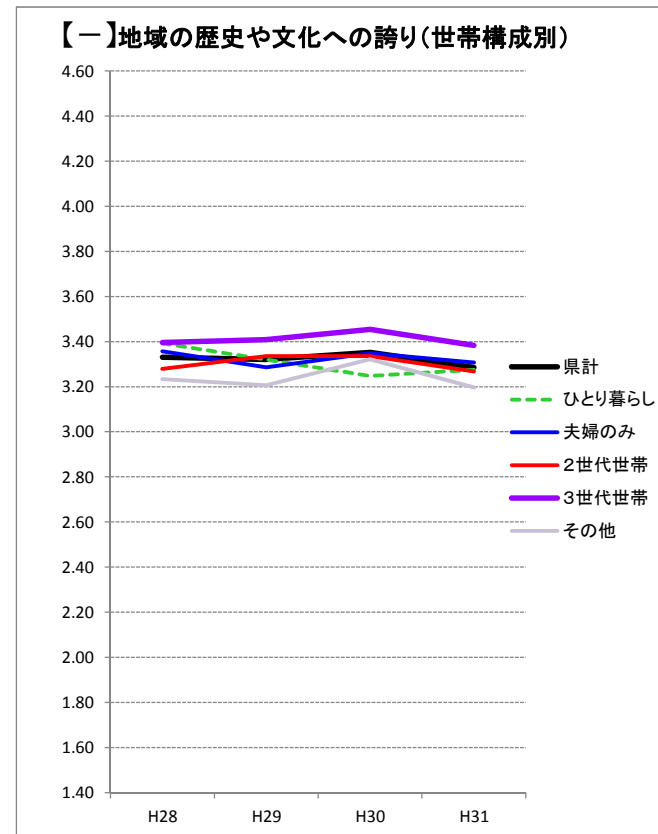
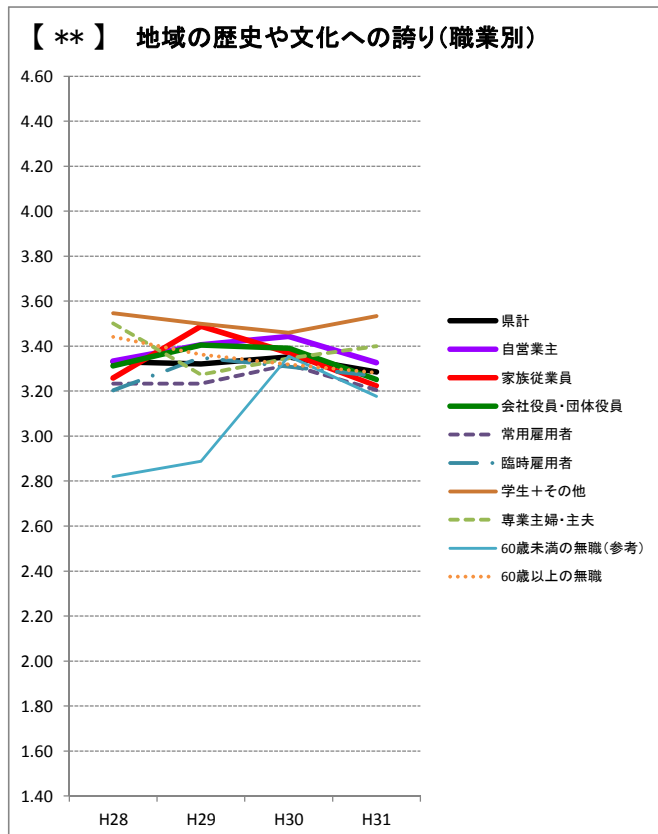


【県計】【領域別実感】⑨地域の歴史や文化に誇りを感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、男女別、年代別、職業別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。  
 男女別では、女性が高く、男性が低かった。年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生等が高く、常用雇用者が低かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、20年以上が高く、10年未満が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいであり、短期的(H30からH31)には低下している。

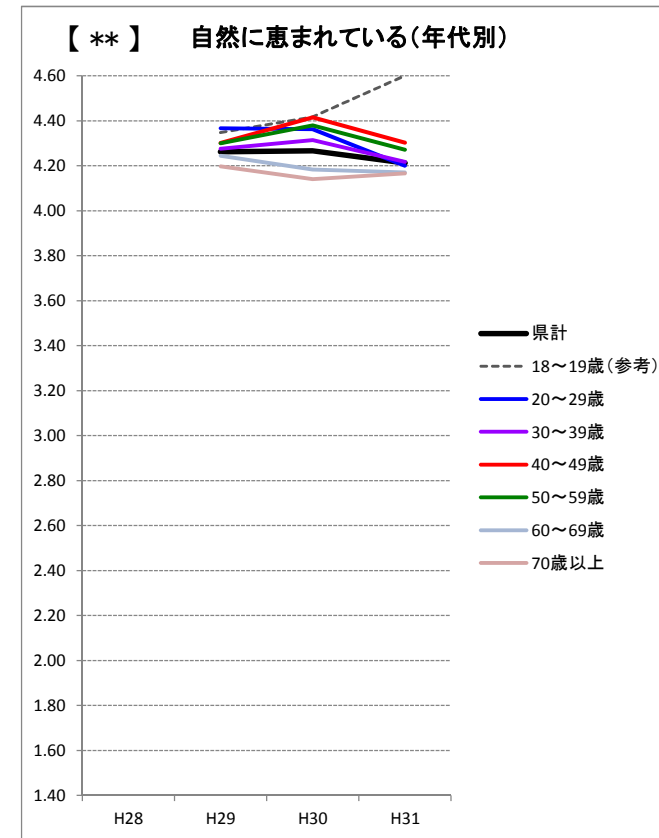
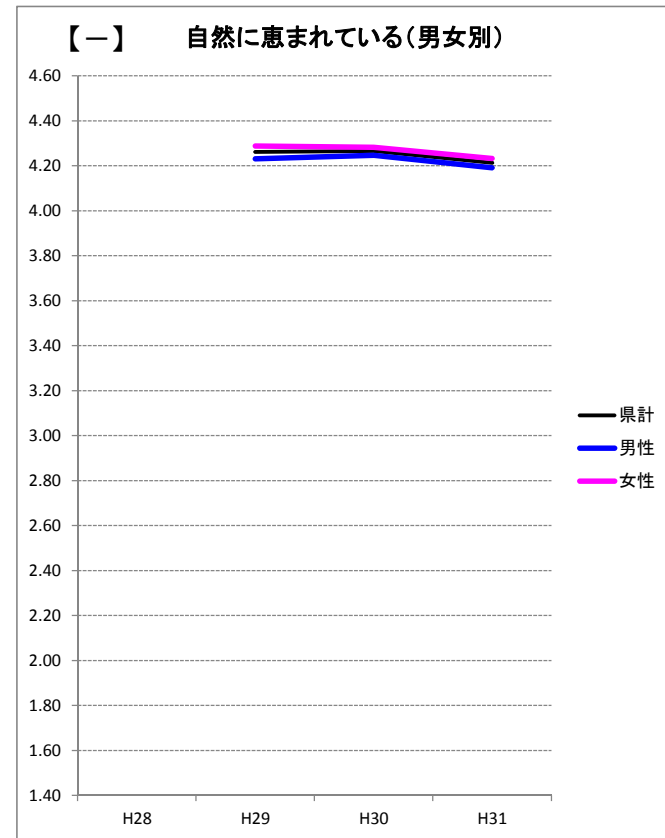
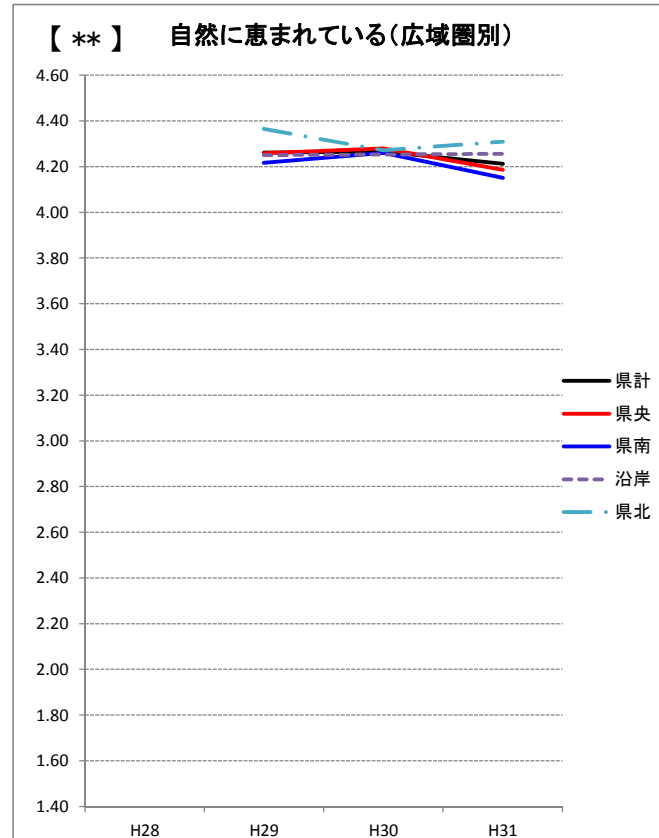


■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められない)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

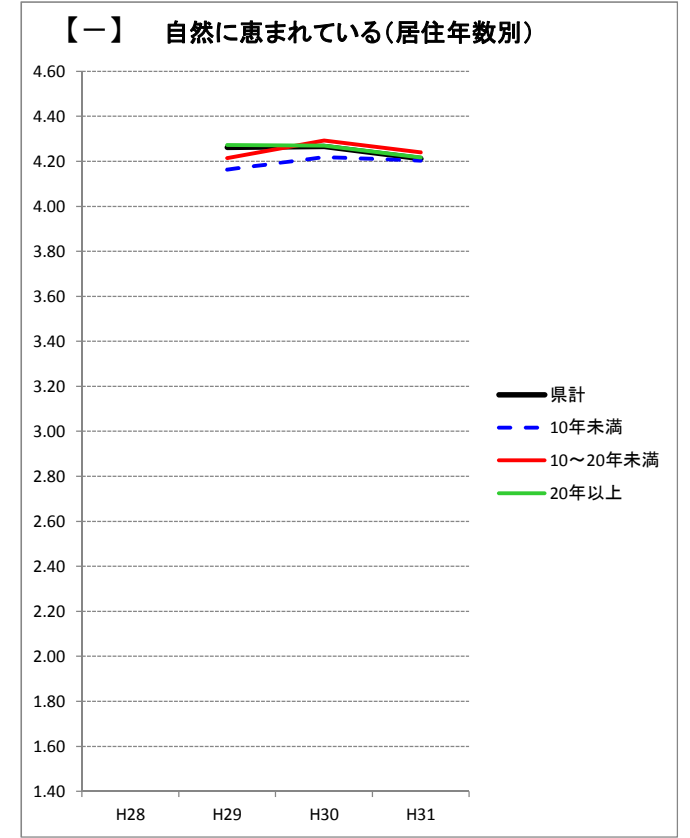
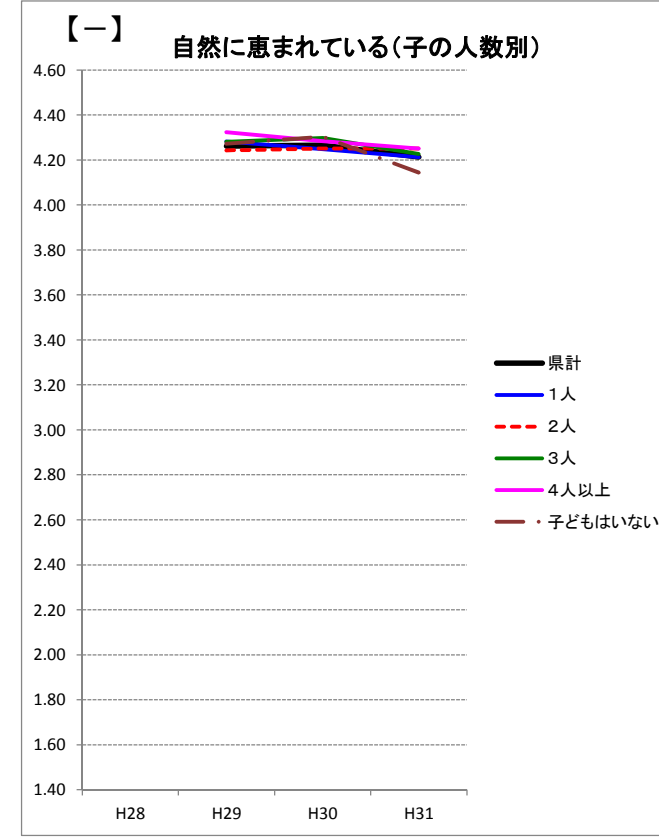
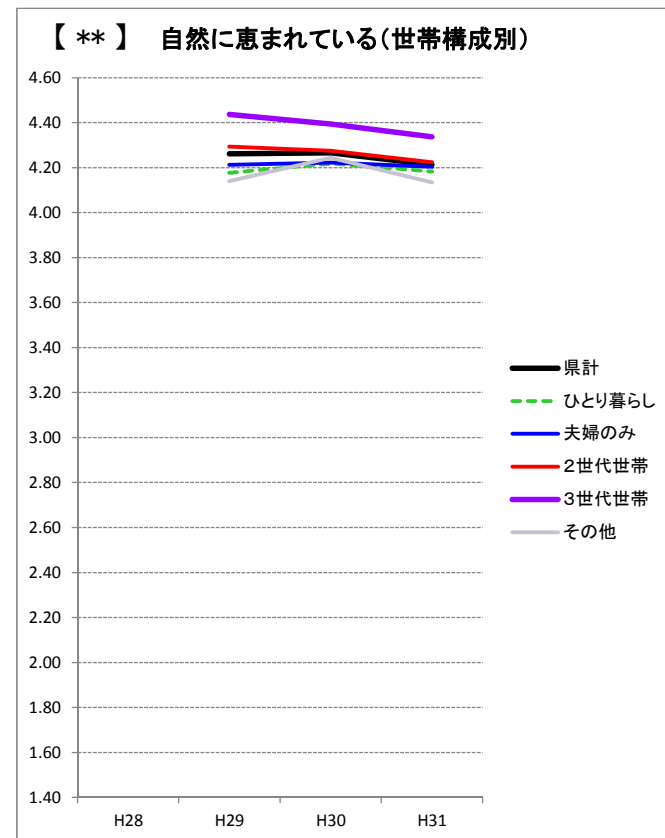
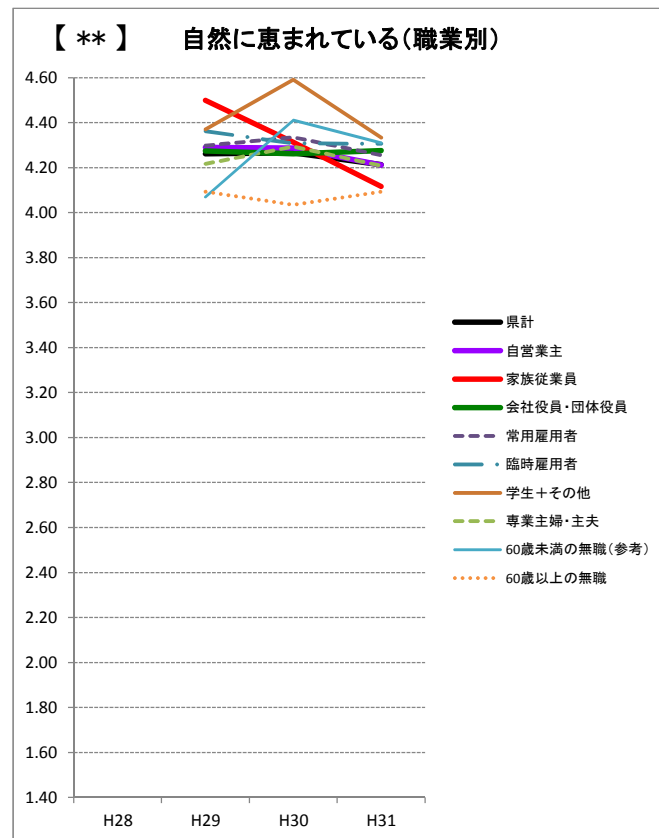


【県計】【領域別実感】⑩自然に恵まれていると感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県北が高く、県南が低かった、年代別では、40歳代が高く、60歳以上、70歳以上が低かった。職業別では、学生等が高く、無職が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高かった。  
 ・長期的には、H29～H31にかけて横ばいであり、短期的(H30からH31)には低下している。

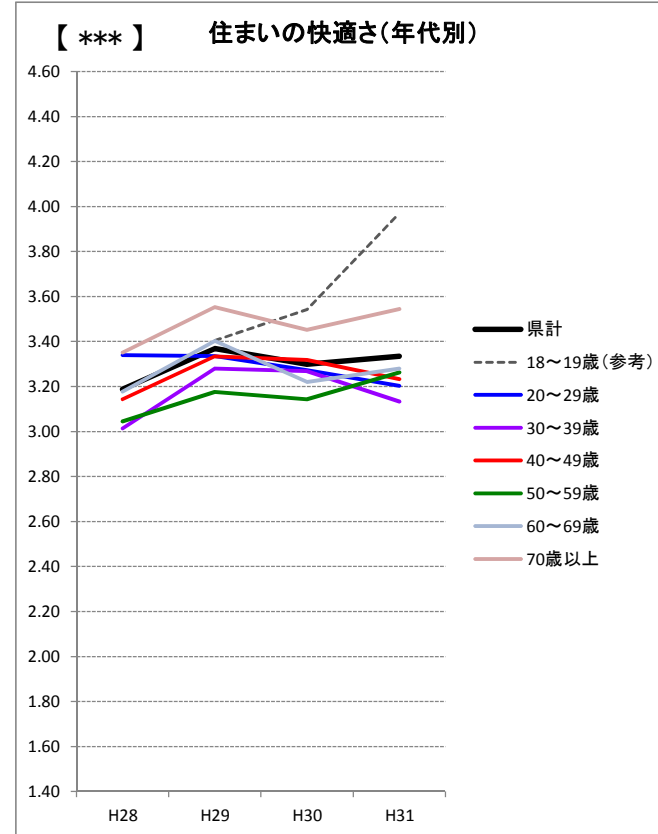
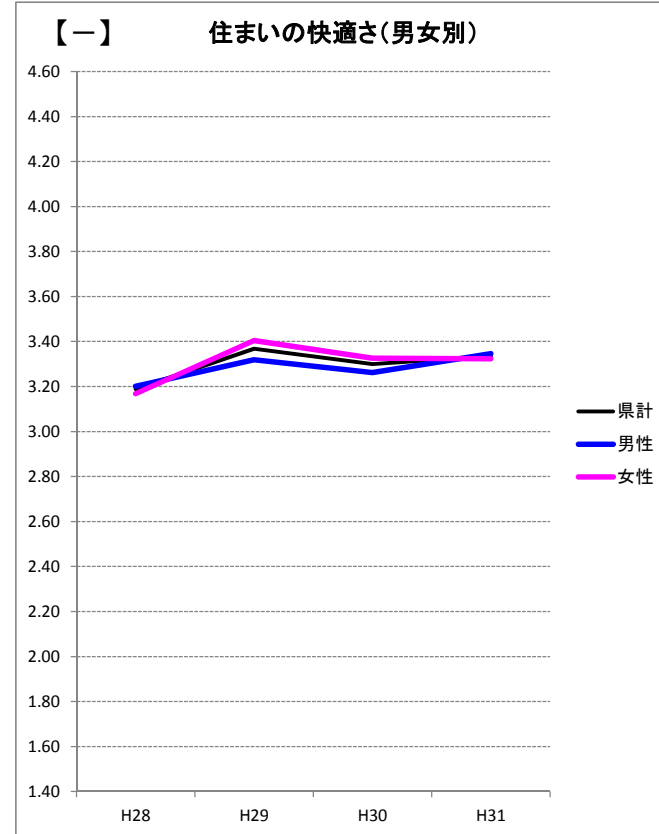
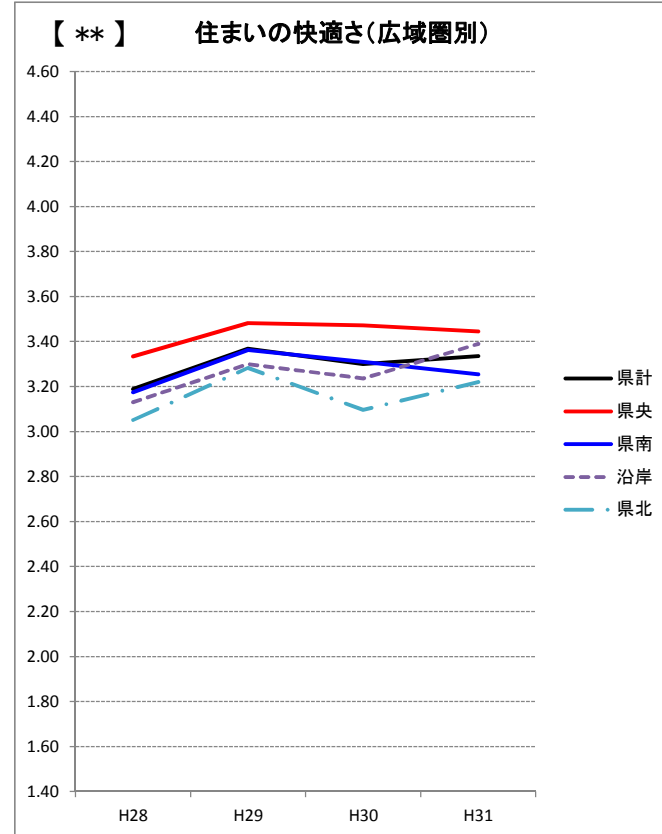


■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】 差が認められない

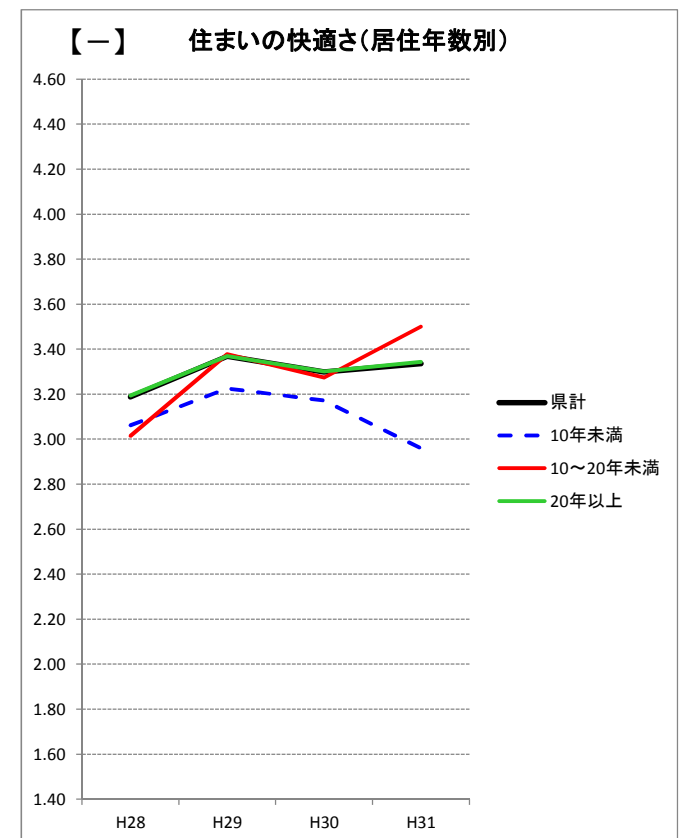
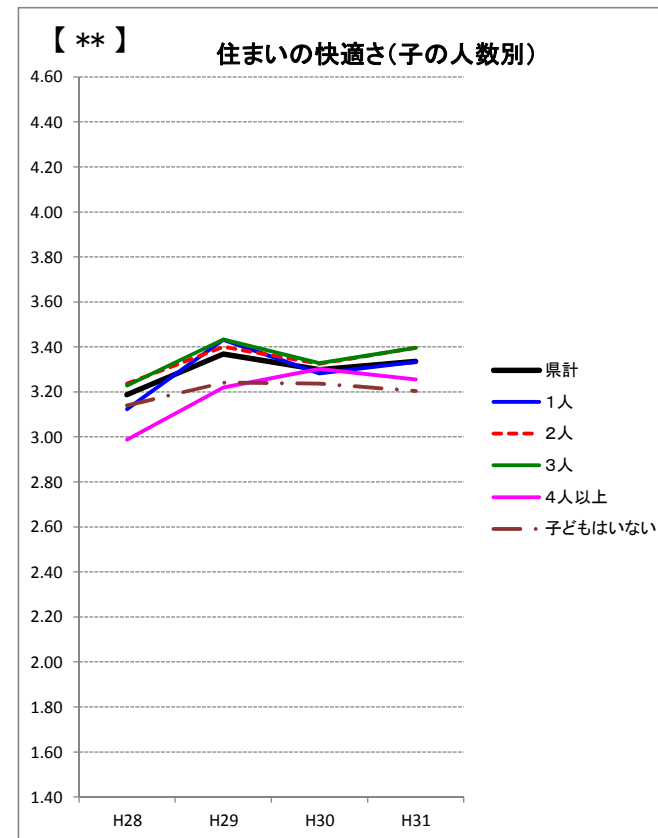
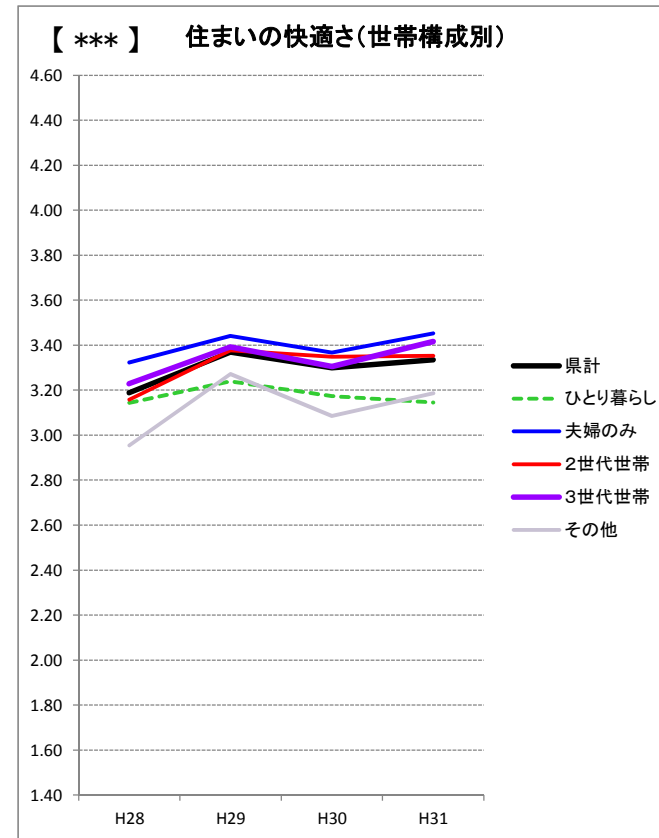
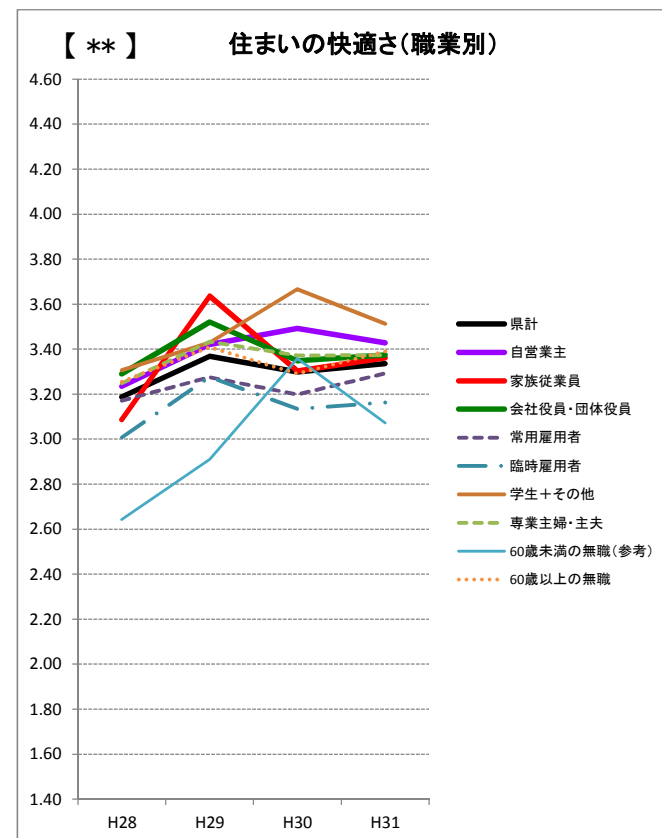


【県計】【領域別実感】①住まいに快適さを感じますか

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県北が低かった。年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生等が高く、臨時雇用者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇しており、短期的(H30からH31)には横ばいである。



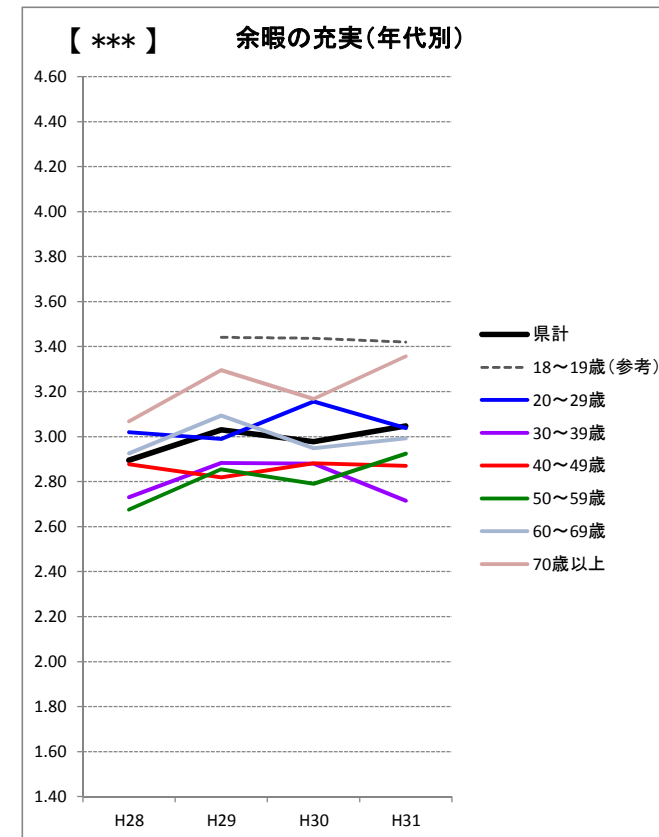
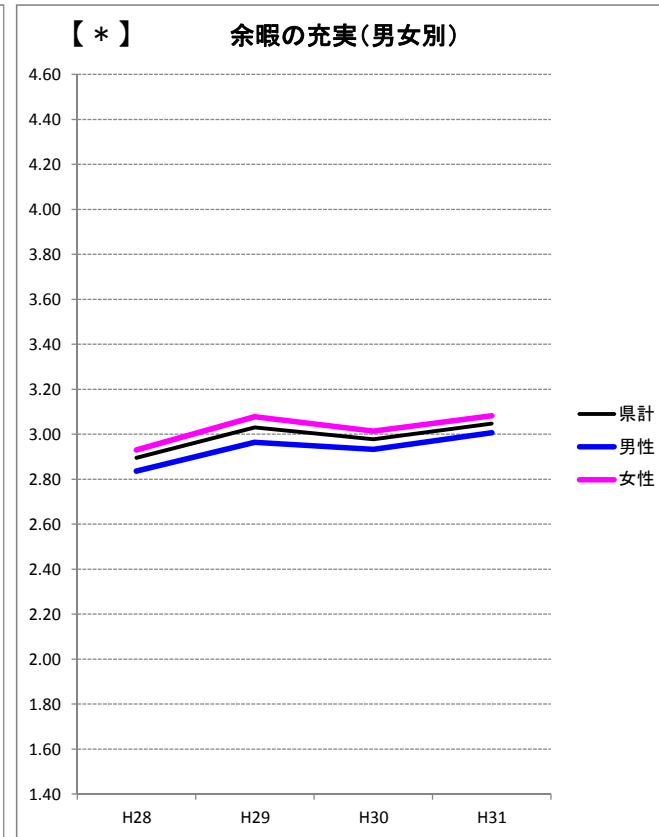
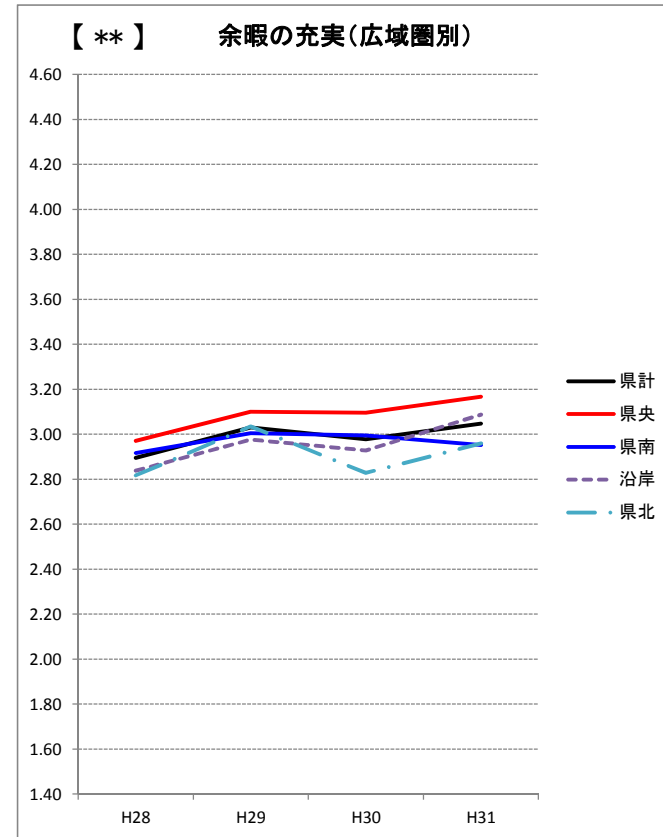
■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】 差が認められない



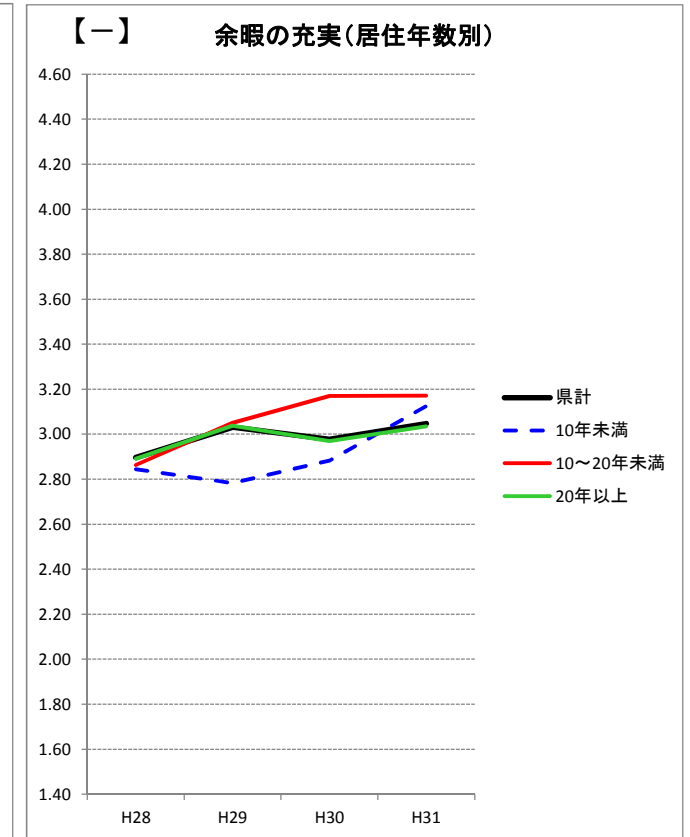
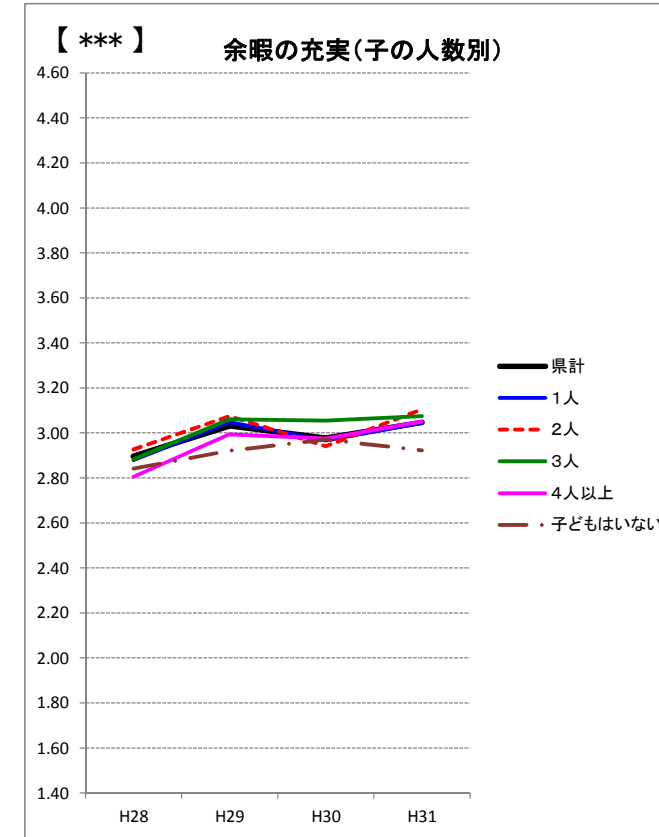
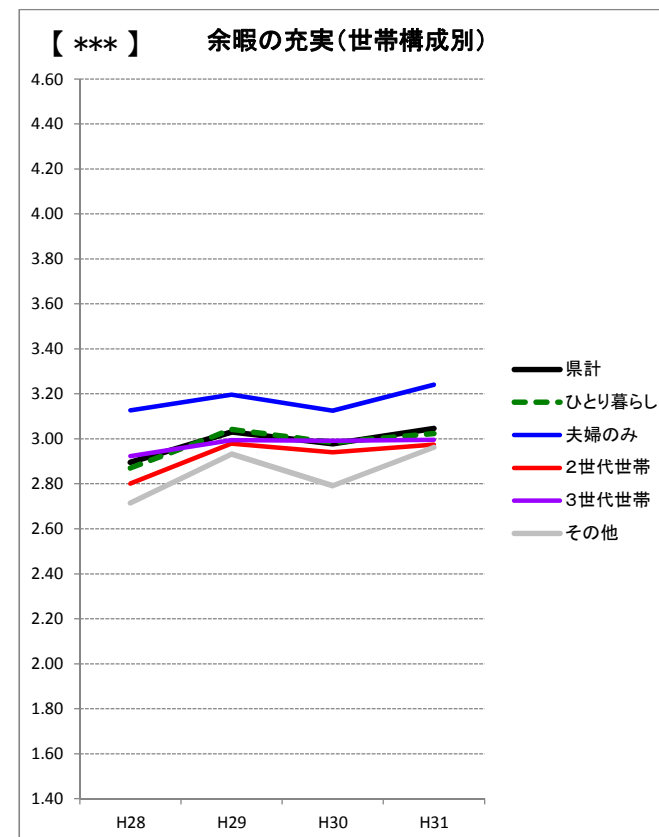
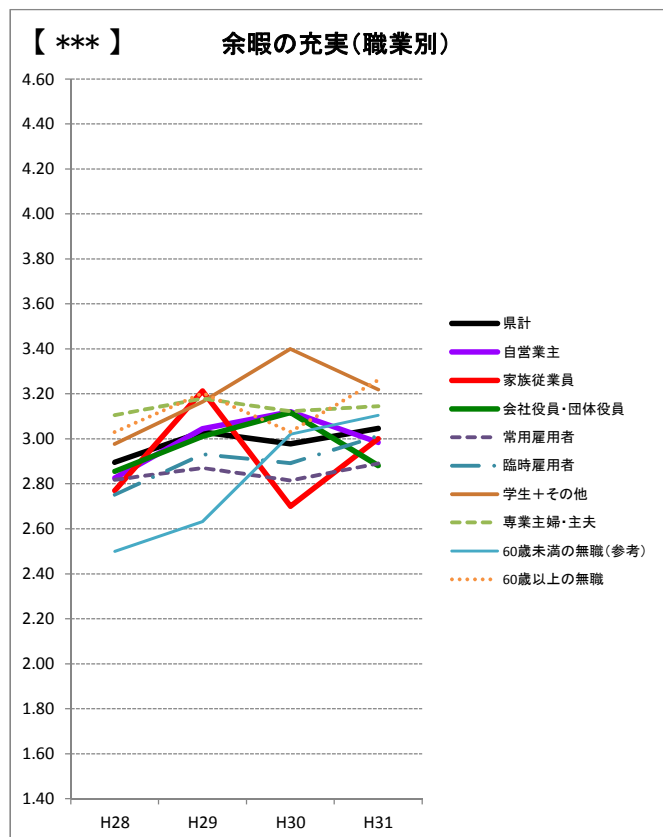


【県計】【領域別実感】⑫余暇が充実していると感じますか

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県南が低かった。年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、無職、学生等が高く、役員、常用雇用者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、その他世帯が低かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇している。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 [-] 差が認められない



標本数

広域圏

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
県央広域振興圏	1,014	976	905	938
県南広域振興圏	1,065	1,039	983	1,014
沿岸広域振興圏	890	821	788	800
県北広域振興圏	607	586	584	575

男女

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
男	1,480	1,450	1,389	1,611
女	1,929	1,907	1,832	1,693

年代

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
18～19歳		47	49	38
20～29歳	209	203	189	166
30～39歳	372	330	293	293
40～49歳	497	506	454	429
50～59歳	617	617	521	553
60～69歳	811	838	733	752
70歳以上	904	822	841	986

職業

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
自営業主	295	276	249	309
家族従業員	147	149	115	95
会社役員・団体役員	198	190	185	207
常用雇用者	938	965	917	885
臨時雇用者	403	421	346	390
学生＋その他	149	184	153	171
専業主婦(主夫)	435	449	373	340
60歳未満の無職	91	61	57	62
60歳以上の無職	723	647	661	716

世帯構成

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
ひとり暮らし	373	337	353	402
夫婦のみ	760	765	702	757
2世代世帯	1,174	1,278	1,125	1,143
3世代世帯	570	502	478	461
その他	450	452	375	410

子の数

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
1人	460	444	381	428
2人	1,297	1,251	1,158	1,232
3人	673	711	615	637
4人以上(※)	179	182	134	160
子どもはいない	747	743	745	710

居住年数

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
10年未満	104	118	107	101
10～20年未満	138	151	149	125
20年以上	3,142	3,063	2,799	2,961



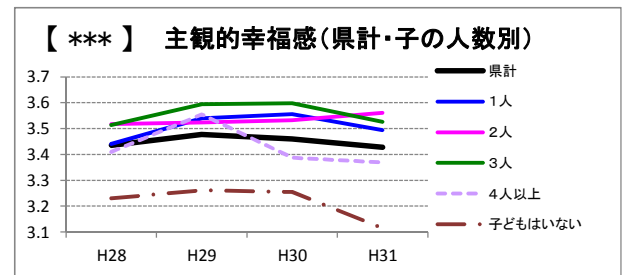
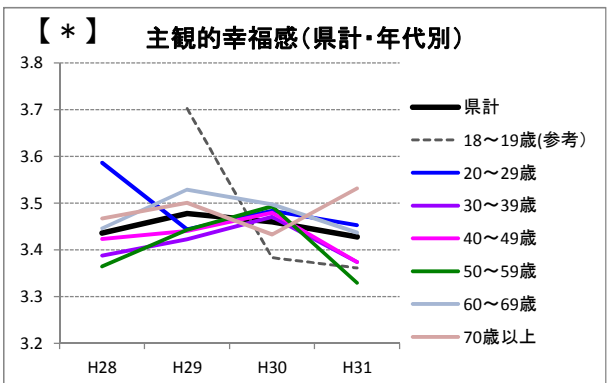
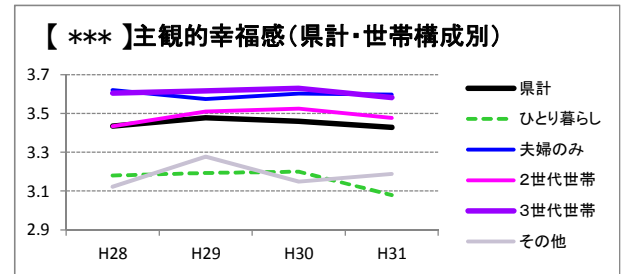
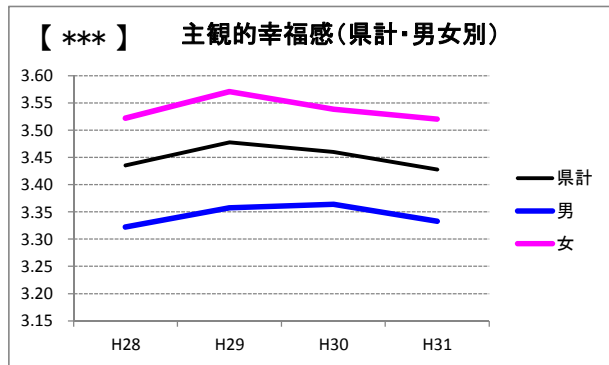
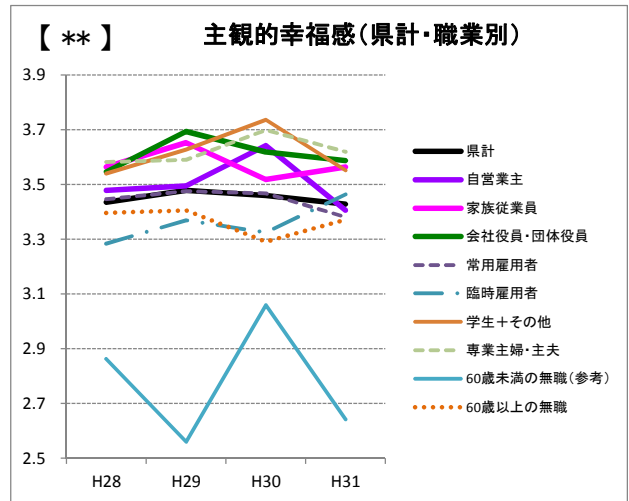
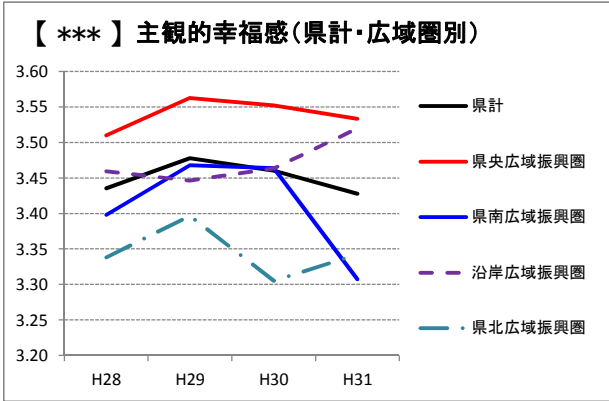
「主観的幸福感(平均)について」

幸福感平均の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

- ・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、男女別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。広域圏別では、県央、沿岸が高く、県南が低かった。男女別では、女性が高く男性が低かった。職業別では、主婦、役員が高く、常用雇用者、無職が低かった。世帯構成別では、夫婦のみ世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。
- ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 [-] 差が認められない

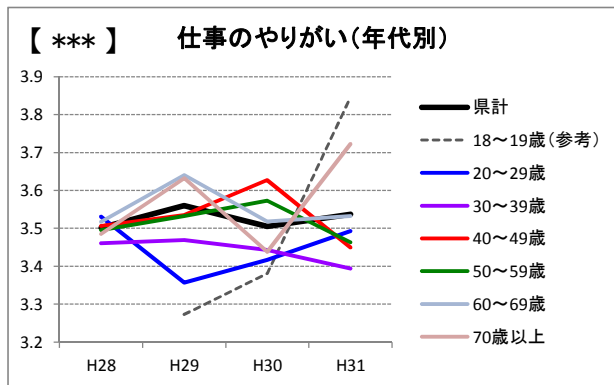
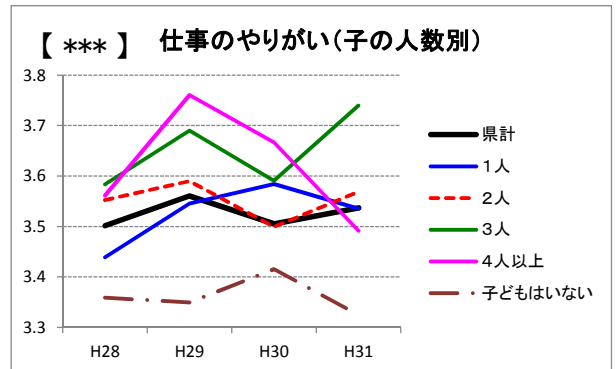
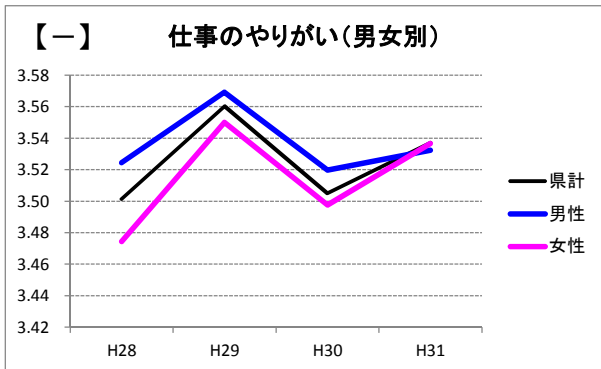
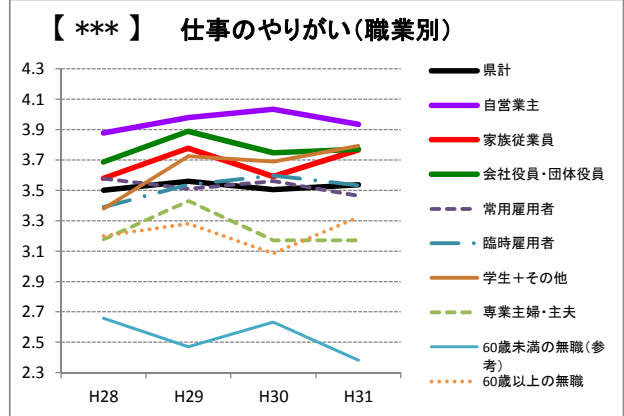
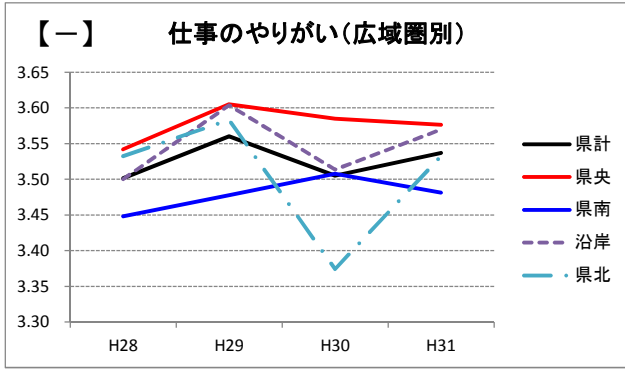
「領域別実感の属性別の実感平均について」

実感平均の算出方法

「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

① 仕事にやりがいを感じますか。

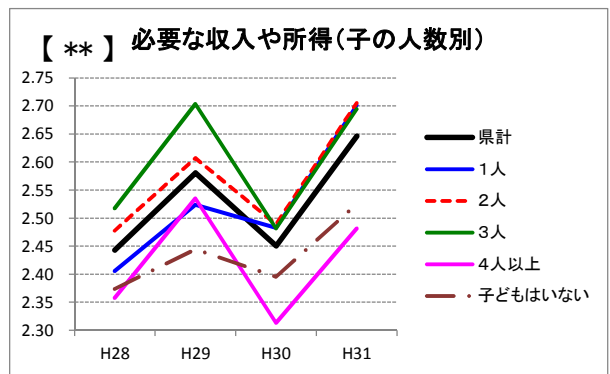
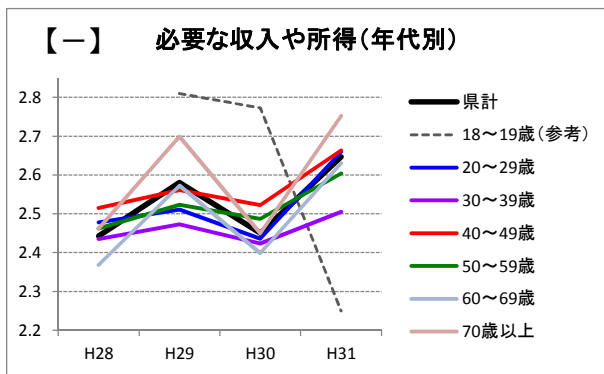
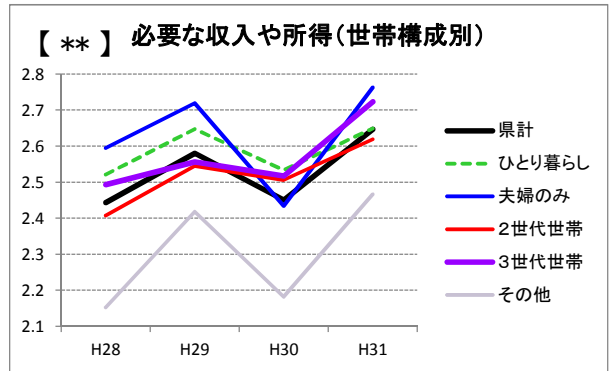
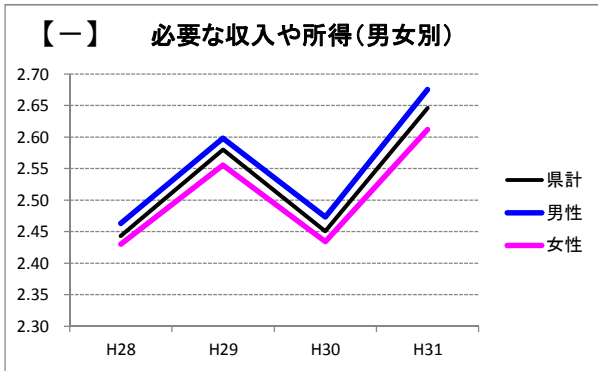
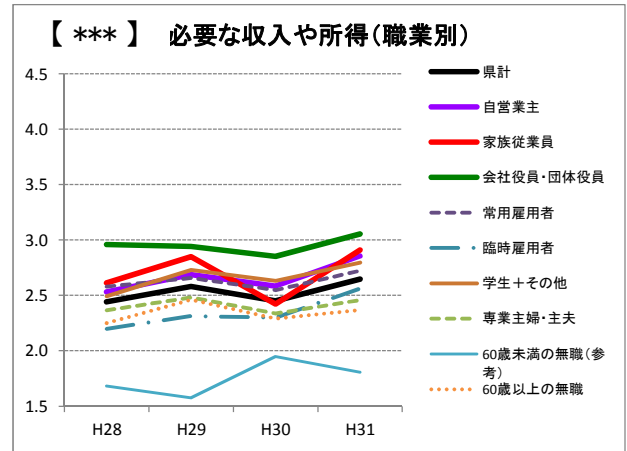
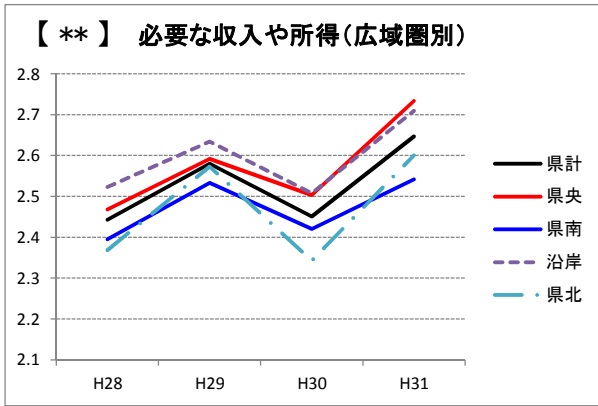
・H31調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、自営業種が高く、専業主婦(主夫)、無職が低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

②必要な収入や所得が得られていると感じますか。

- ・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。
- ・広域圏別では、県央が高く、県南が低かった。職業別では、役員が高く、無職、専業主婦(主夫)が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高かった。子の人数別では、子2人・3人が高く、子4人以上が低かった。
- ・長期的には、H28～H31にかけて上昇している。



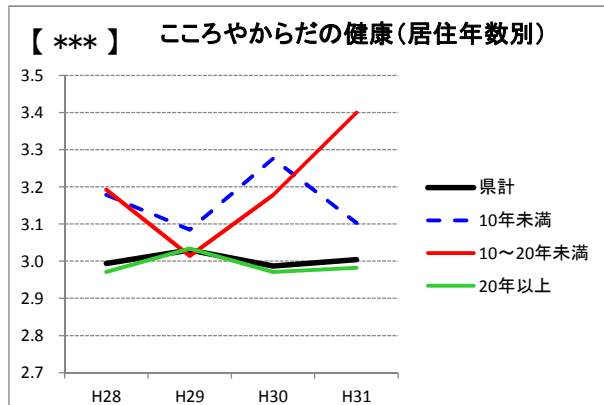
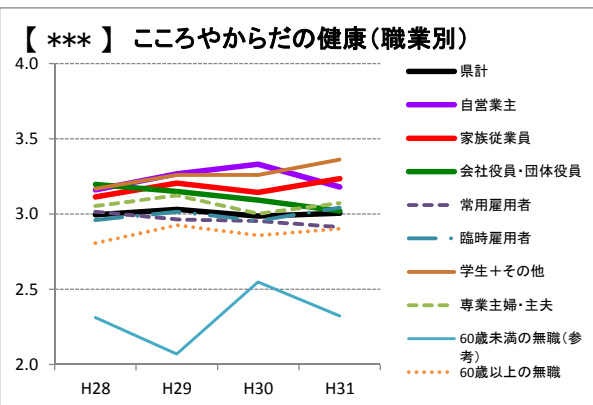
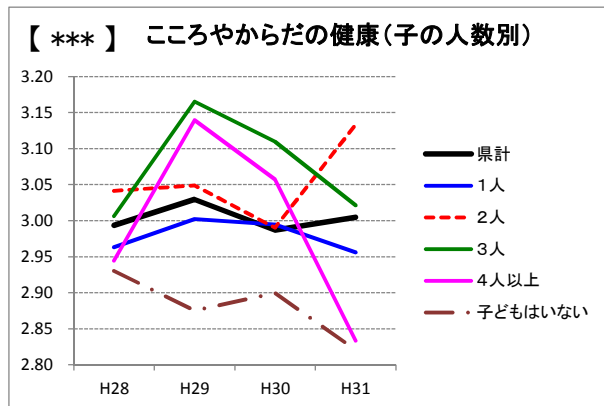
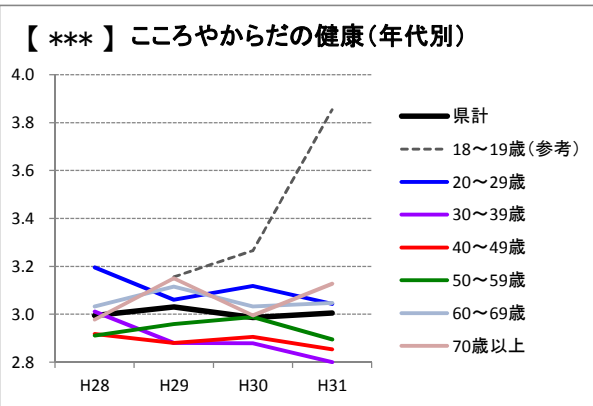
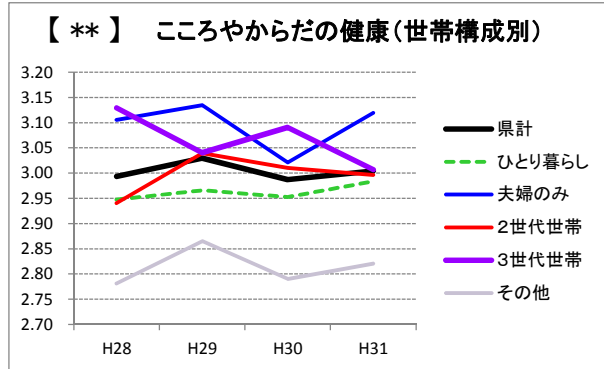
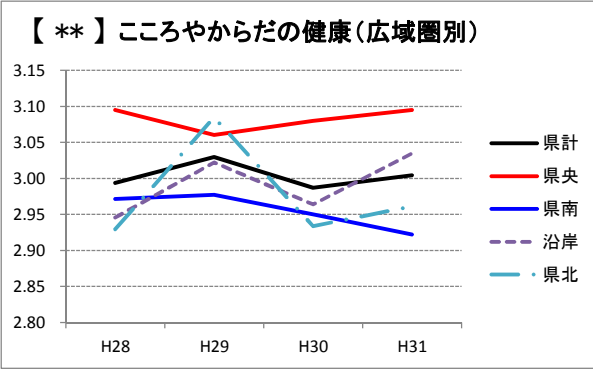
- 凡例■
- グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。
  - 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)
  - 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)
  - 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)
  - 【-】 差が認められない

③ころよからだ健康だと感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。

広域圏別では、県央が高く、県南が低かった。年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生等が高く、無職が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。

・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。



■凡例■

グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)

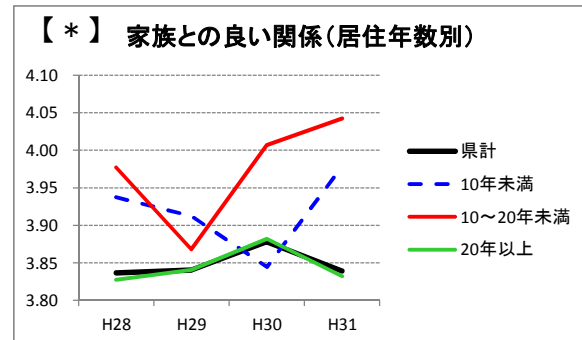
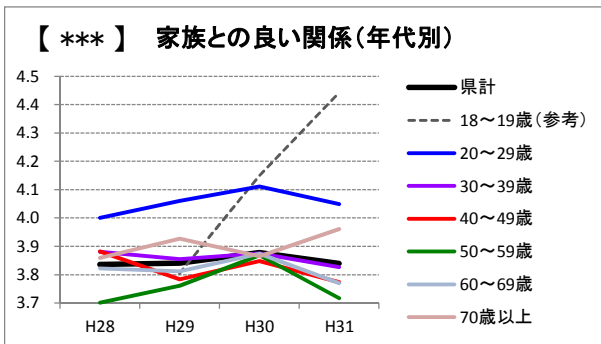
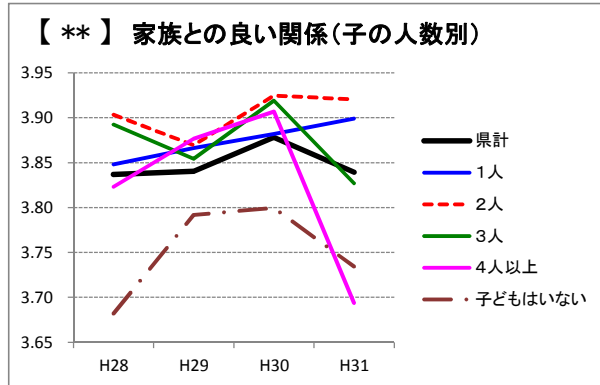
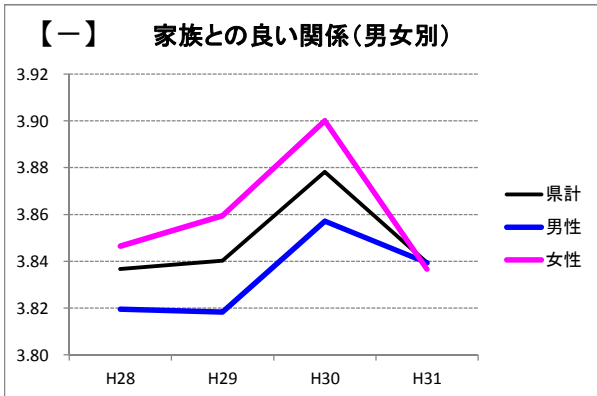
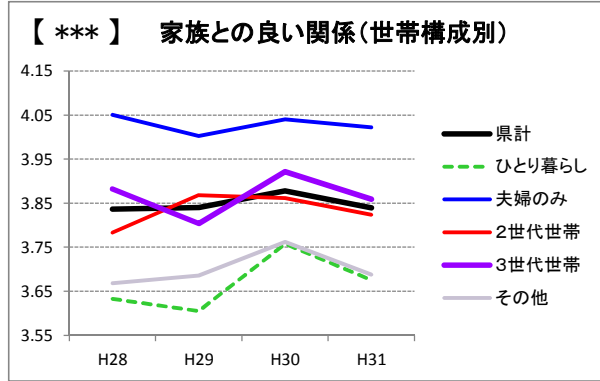
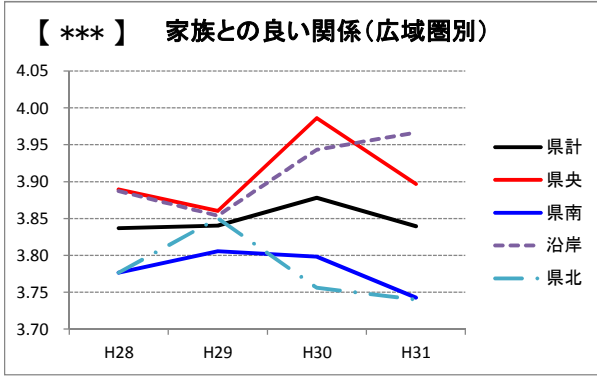
【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)

【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)

【-】差が認められない

④家族と良い関係がとれていると感じますか。

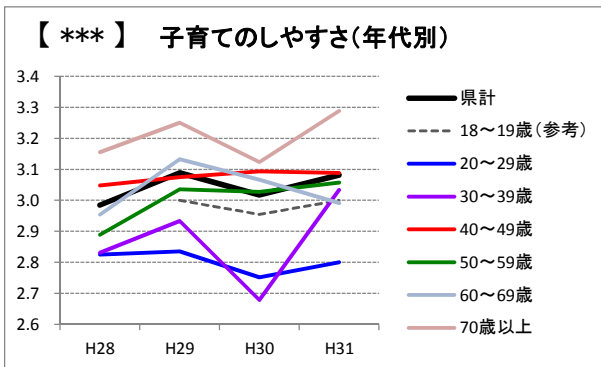
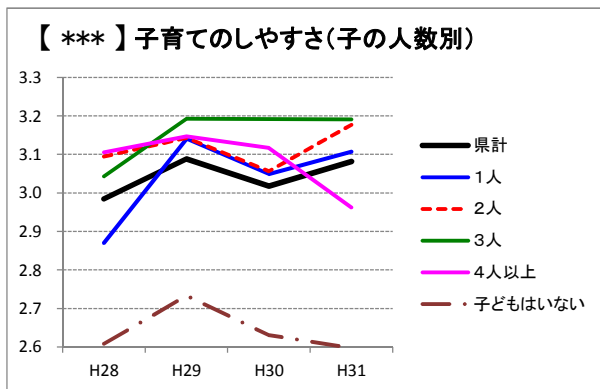
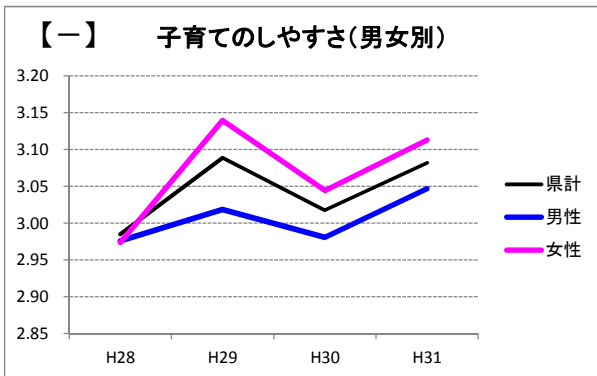
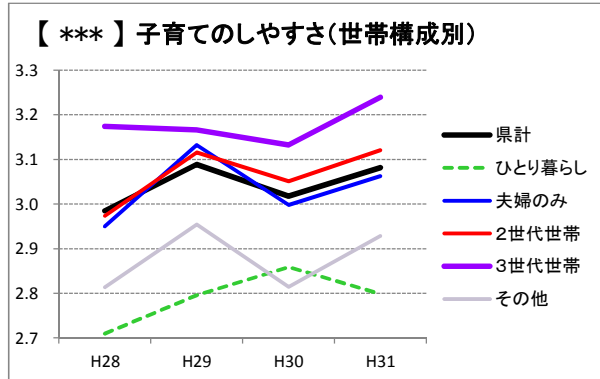
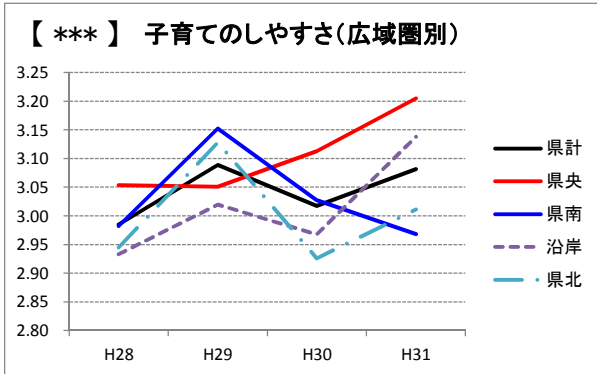
・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、沿岸が高く、県北が低かった。年代別では、20歳代が高く、50歳代が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子2人が高く、子4人以上が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいである。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 [-] 差が認められない

⑤子育てがしやすいと感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県南が低かった。年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇している。



■凡例■

グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)

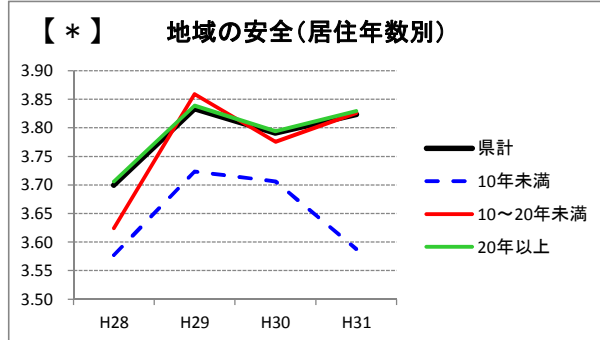
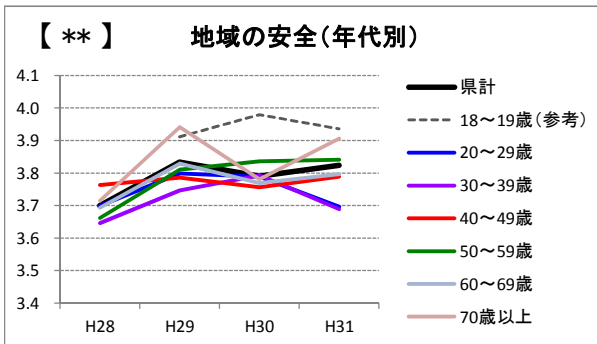
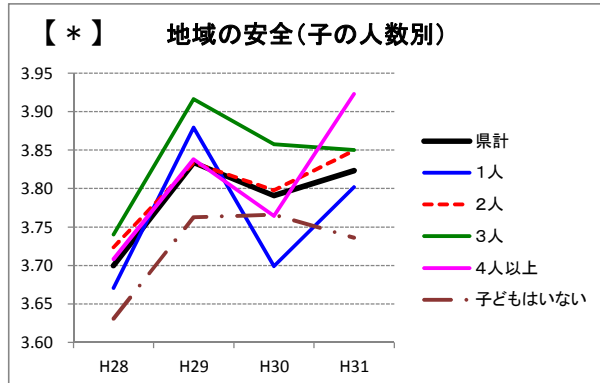
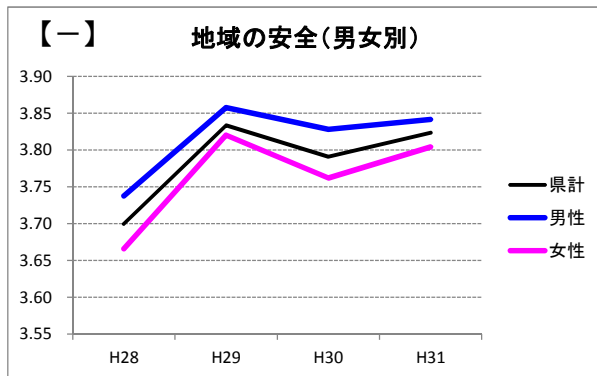
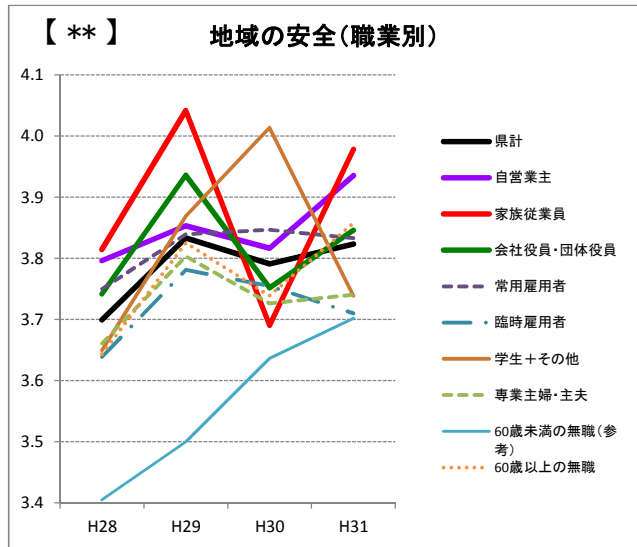
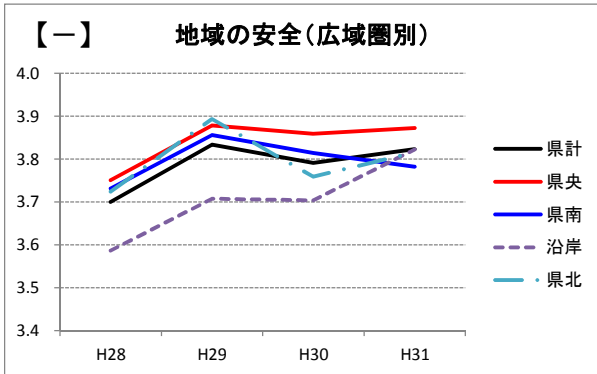
【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)

【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)

【-】差が認められない

⑥お住まいの地域は安全だと感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別で有意な差が認められた。  
 年代別では、70歳以上が高く、20歳代、30歳代が低かった。職業別では、家族従業員が高く、臨時雇用者が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇しているが、短期的(H30からH31)には横ばいである。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

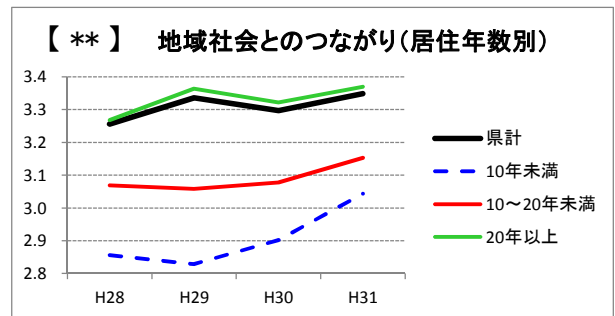
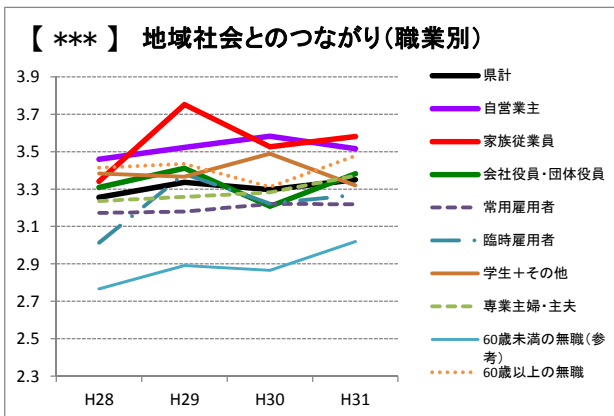
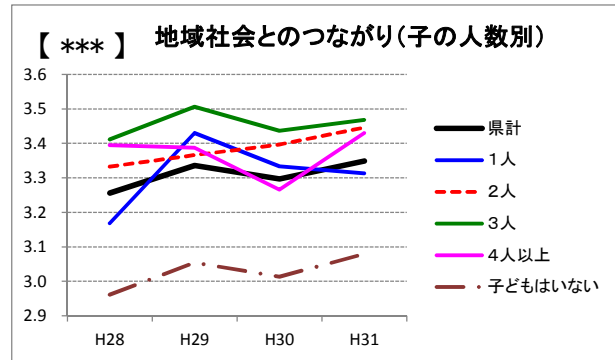
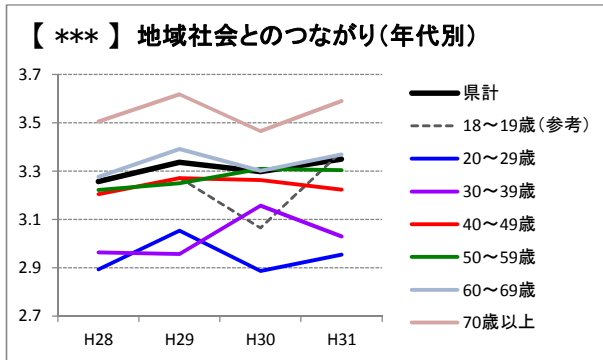
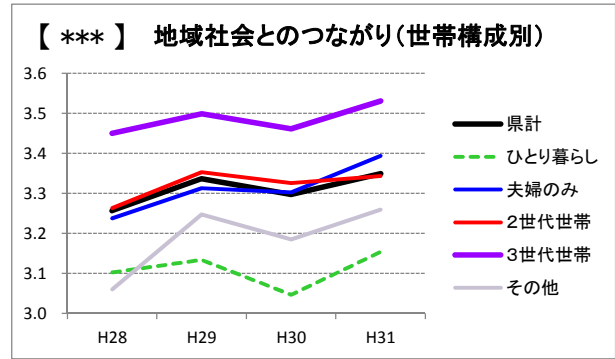
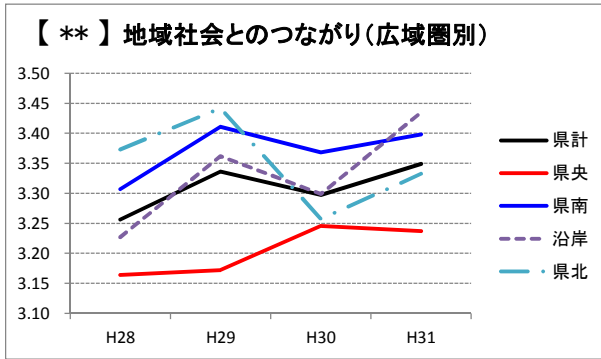


⑦地域社会とのつながりを感じますか。

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。

広域圏別では、沿岸が高く、県央が低かった。年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。職業別では、家族従業員が高く、常用雇用者が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、20年以上が高く、10年未満が低かった。

・長期的には、H28～H31にかけて上昇しており、短期的(H30からH31)には、横ばいである。



■凡例■

グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)

【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)

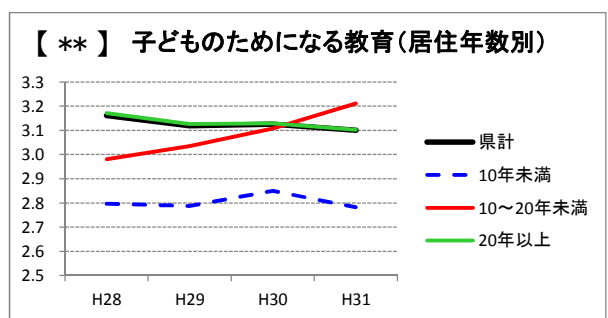
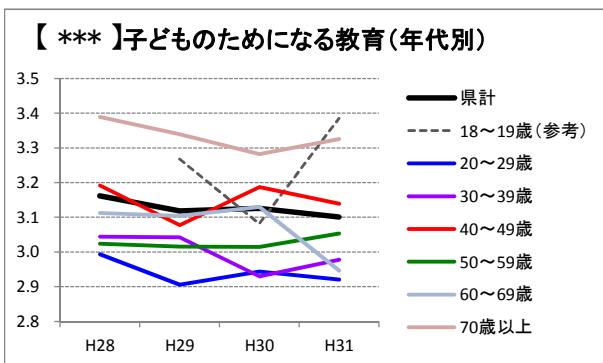
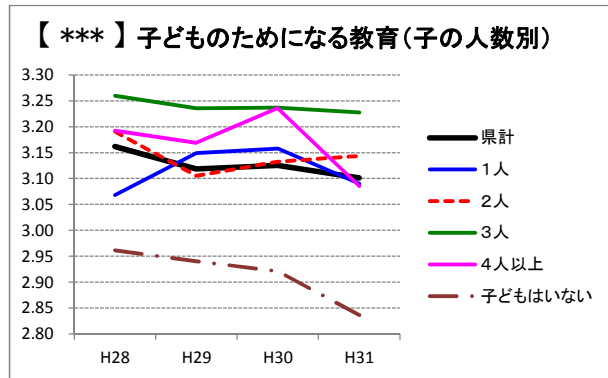
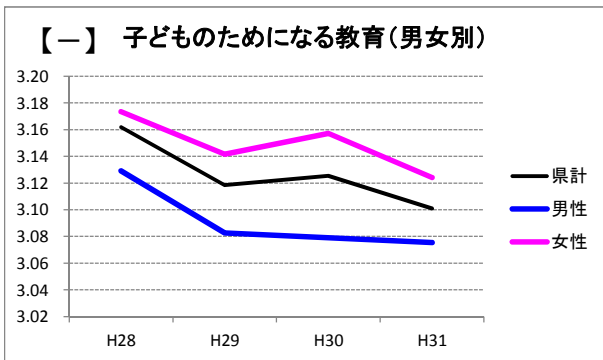
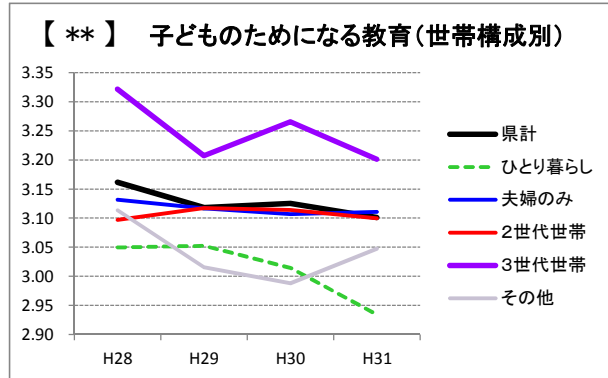
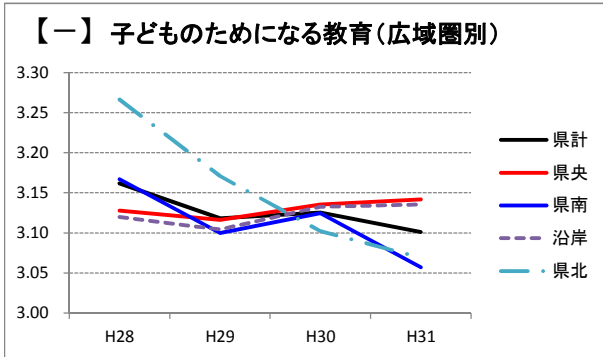
【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)

【-】差が認められない



⑧子どものためになる教育が行われていると感じますか。

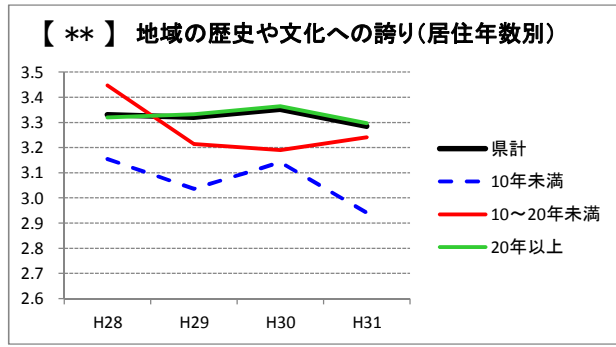
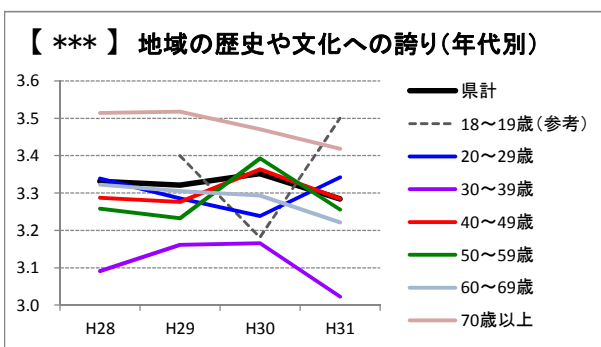
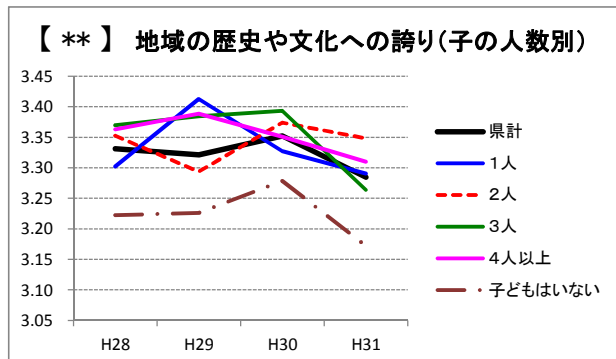
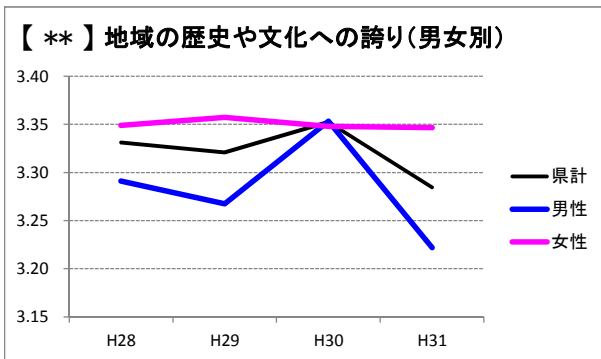
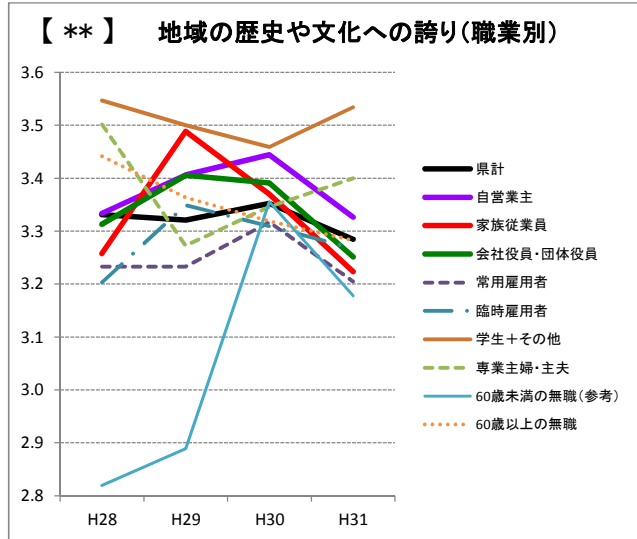
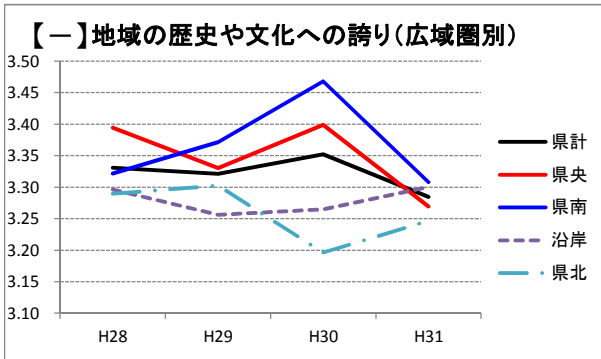
・H31調査結果において、属性別に見ると、年代別、世帯構成別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。  
 年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、10年未満が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて下降しており、短期的(H30からH31)には横ばいである。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

⑨地域の歴史や文化に誇りを感じますか。

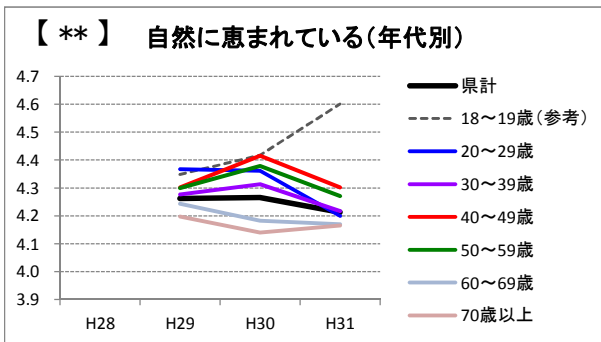
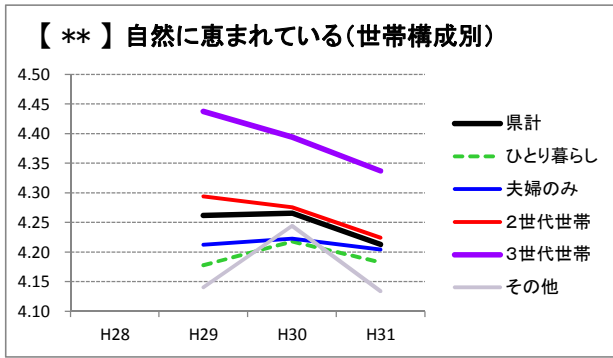
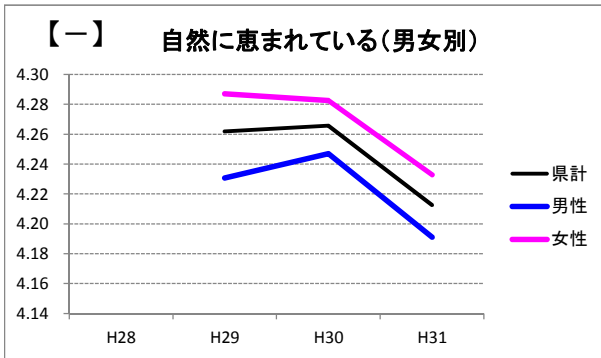
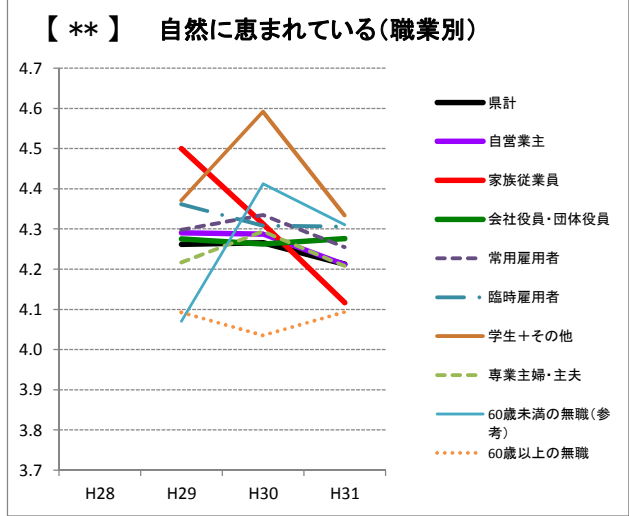
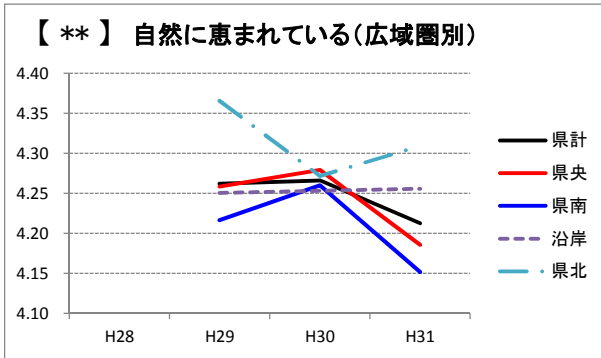
- ・H31調査結果において、属性別に見ると、男女別、年代別、職業別、子の人数別、居住年数別で有意な差が認められた。
- 男女別では、女性が高く、男性が低かった。年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生等が高く、常用雇用者が低かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。居住年数別では、20年以上が高く、10年未満が低かった。
- ・長期的には、H28～H31にかけて横ばいであり、短期的(H30からH31)には低下している。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

⑩自然に恵まれていると感じますか。

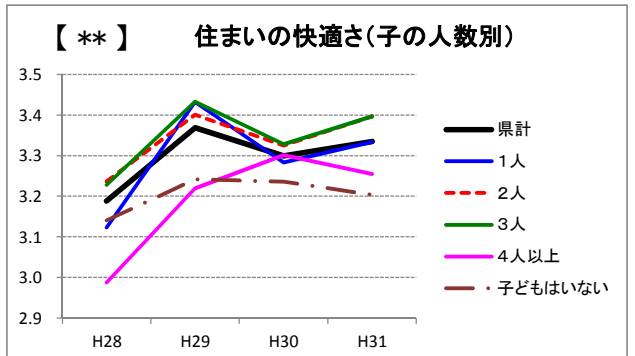
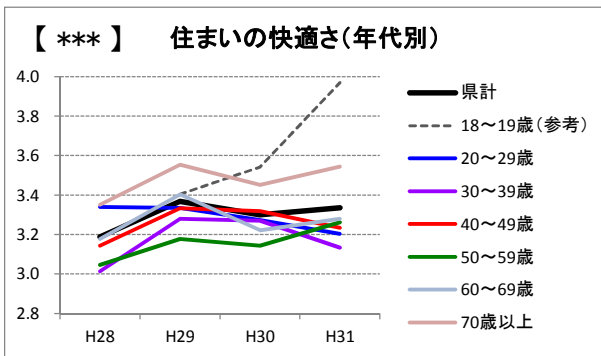
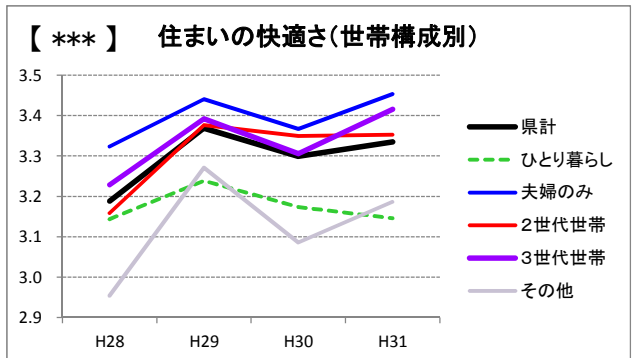
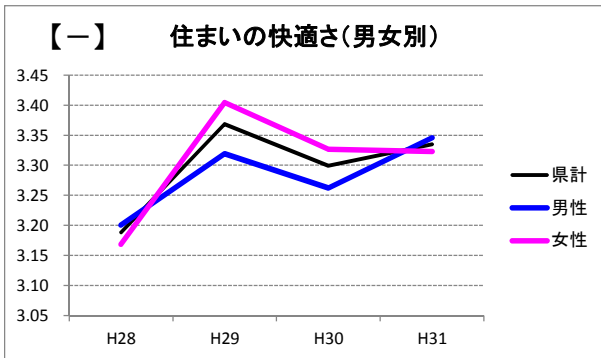
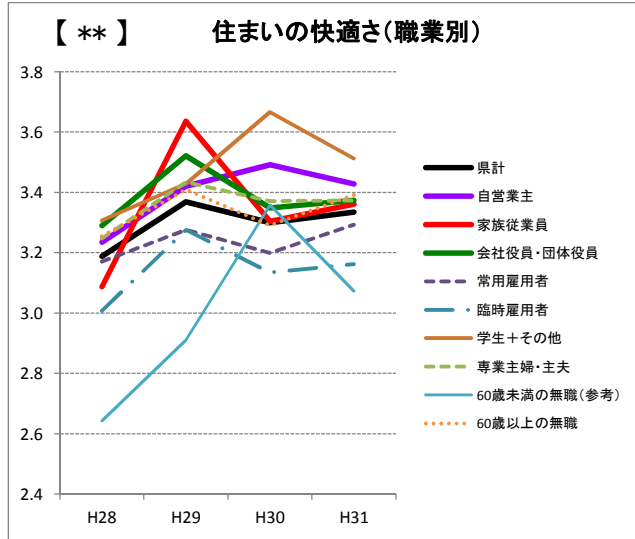
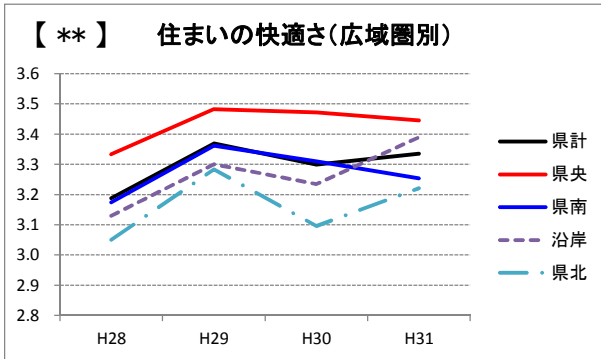
・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県北が高く、県南が低かった、年代別では、40歳代が高く、60歳以上、70歳以上が低かった。職業別では、学生等が高く、無職が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高かった。  
 ・長期的には、H29～H31にかけて横ばいであり、短期的(H30からH31)には低下している。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

⑪住まいに快適さを感じますか

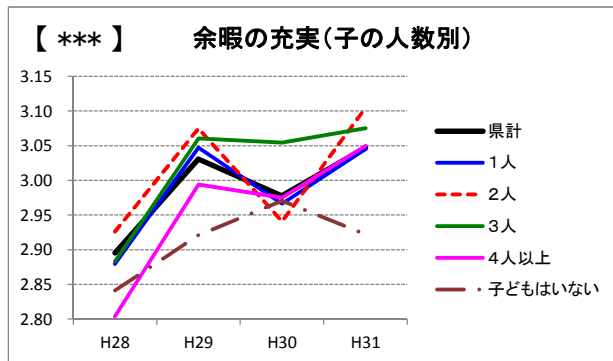
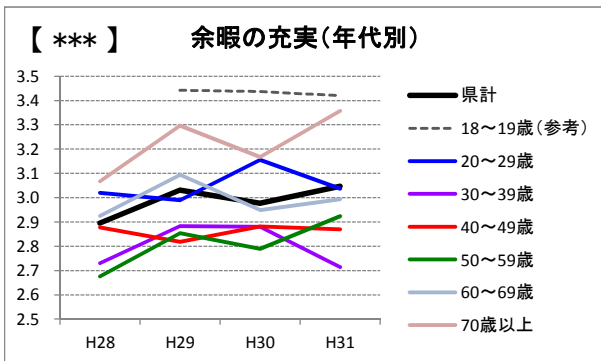
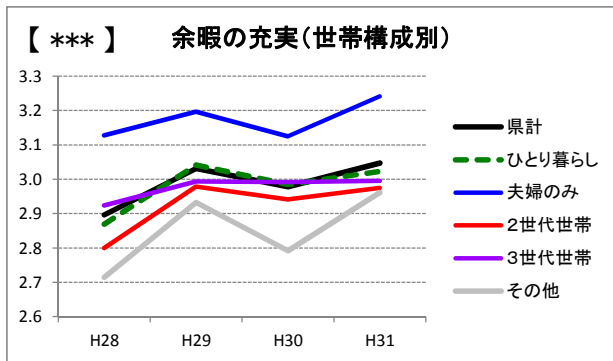
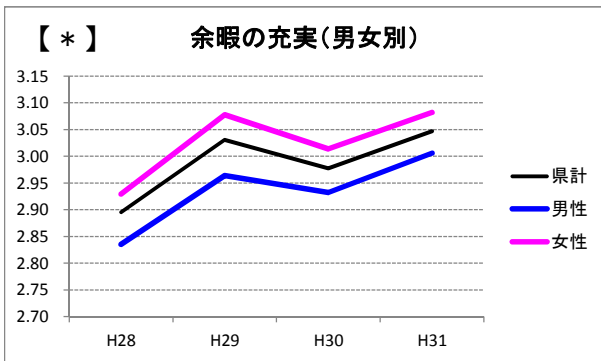
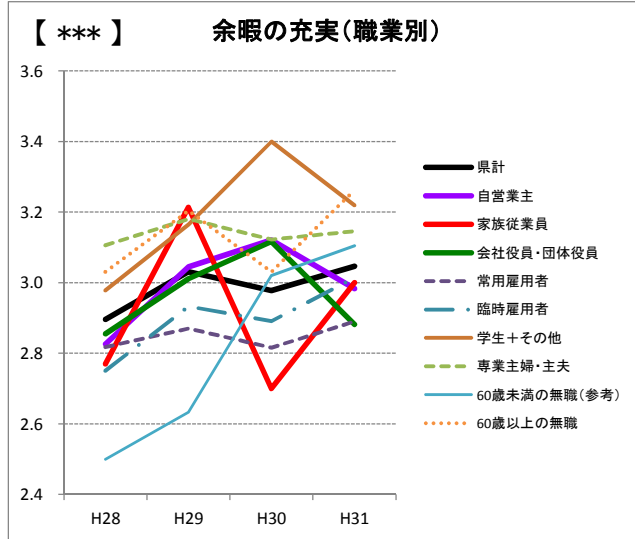
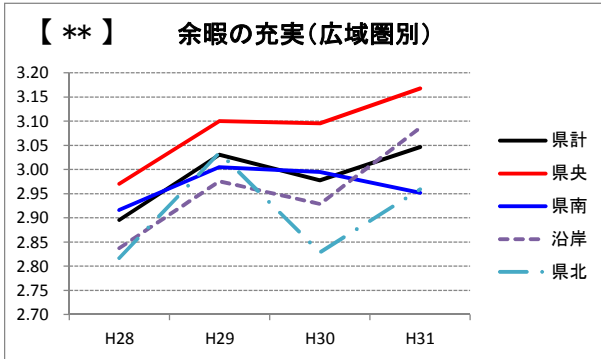
・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県北が低かった、年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生等が高く、臨時雇用者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子3人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇しており、短期的(H30からH31)には横ばいである。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】 5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】 10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】 差が認められない

⑫余暇が充実していると感じますか

・H31調査結果において、属性別に見ると、広域圏別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別で有意な差が認められた。  
 広域圏別では、県央が高く、県南が低かった、年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、無職、学生等が高く、役員、常用雇用者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、その他世帯が低かった。子の人数別では、子2人が高く、子0人が低かった。  
 ・長期的には、H28～H31にかけて上昇している。



■凡例■  
 グラフ左上の\*は、H31調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。  
 【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)  
 【\*】10%水準で差が有意(差が認められない)  
 【-】差が認められない

# 県民意識調査の時系列変化【県計】

## 標本数

### 広域圏

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
県央広域振興圏	1,014	976	905	938
県南広域振興圏	1,065	1,039	983	1,014
沿岸広域振興圏	890	821	788	800
県北広域振興圏	607	586	584	575

### 男女

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
男	1,480	1,450	1,389	1,611
女	1,929	1,907	1,832	1,693

### 年代

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
18～19歳		47	49	38
20～29歳	209	203	189	166
30～39歳	372	330	293	293
40～49歳	497	506	454	429
50～59歳	617	617	521	553
60～69歳	811	838	733	752
70歳以上	904	822	841	986

### 職業

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
自営業主	295	276	249	309
家族従業員	147	149	115	95
会社役員・団体役員	198	190	185	207
常用雇用者	938	965	917	885
臨時雇用者	403	421	346	390
学生＋その他	149	184	153	171
専業主婦(主夫)	435	449	373	340
60歳未満の無職	91	61	57	62
60歳以上の無職	723	647	661	716

### 世帯構成

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
ひとり暮らし	373	337	353	402
夫婦のみ	760	765	702	757
2世代世帯	1,174	1,278	1,125	1,143
3世代世帯	570	502	478	461
その他	450	452	375	410

### 子の数

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
1人	460	444	381	428
2人	1,297	1,251	1,158	1,232
3人	673	711	615	637
4人以上(※)	179	182	134	160
子どもはいない	747	743	745	710

### 居住年数

調査年	H28	H29	H30	H31
県計	3,576	3,422	3,260	3,327
10年未満	104	118	107	101
10～20年未満	138	151	149	125
20年以上	3,142	3,063	2,799	2,961

パネル調査の調査項目（素案）に関する委員意見及び対応案

	委員意見	対応案
	(12 領域別実感の変動要因を推測する質問)	
①	大きな項目自体が質問文になっているが、大きな項目は見出しにして、質問はあくまで文章の中にいれてはどうか。(吉野委員長)	指摘通りに修正。
②	それぞれ実感の程度をきく選択肢が5、4、3、2、1の順になっているが、5から始まると唐突感があるので、1、2、3、4、5の順にしてはどうか。(吉野委員長)	原案のまま。 [理由] 幸福度、満足度、重要度を把握する他の設問に合わせるため。
③	「②そのように回答した理由で、・・・」は「②そのように回答した理由として、・・・」としてはどうか。(吉野委員長)	指摘通りに修正。
④	選択肢を枠でくくってください。 (吉野委員長)	指摘通りに修正。
⑤	設問(1) 学生を意識した選択肢を検討してはどうか。 (「仕事をしていない」とあるが、「(仕事をしていなかった) やめた」という場合と、「(いま学生なので) 仕事はしていない」という意味合いは違ってくるのではないか。)(山田委員)	指摘通りに選択肢を修正。  (修正後) <del>14 仕事をしていない</del> 【削除】 <u>14 専業主婦(主夫)・家事手伝いである</u> 【追加】 <u>15 元々仕事をしていない(学生など)</u> 【追加】 <u>16 以前仕事をしていましたが、今はしていない</u> 【追加】
⑥	設問(3) 仕事以外に、「学業」も入れてはどうか。 (山田委員)	指摘通りに選択肢を修正。  (修正後) 1 睡眠・休養・仕事・ <u>学業</u> ・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス) 2 仕事・ <u>学業</u> におけるストレスの有無 3 仕事・ <u>学業</u> 以外の私生活におけるストレスの有無 4 充実した余暇の有無(仕事・ <u>学業</u> 以外の趣味など)

<p>⑦</p>	<p>設問（４）          選択肢６および７について、いずれも「精神的・経済的負担」となっているが、これは「精神的負担」と「経済的負担」に分けたほうが良いのではないか。（谷藤委員）</p>	<p>・指摘通りに選択肢を修正。          ・プラスとマイナスの要因を考慮した表記に修正。</p> <p>（修正後）  <del>6 自分が家族にかける精神的・経済的負担</del>  <del>7 家族が自分にかける精神的・経済的負担</del>          6 自分が家族に <u>与える精神的影響</u>          7 自分が家族に <u>与える経済的影響</u>          8 家族が自分に <u>与える精神的影響</u>          9 家族が自分に <u>与える経済的影響</u></p>
<p>⑧</p>	<p>設問（５）          ・選択肢として「子育てにかかわっていない」があっても良いのではないか。（谷藤委員）          ・「この分野に関心がない」は人によっては○を付けにくいのではないかと。「いま自分に子どもがいない（からわからない）」といった少々ニュートラルな選択肢があっても良いのではないかと。（山田委員）</p>	<p>指摘通りに選択肢を修正。</p> <p>（修正後）  <del>13 この分野に関心がない【削除】</del>  <u>13 わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていない)【追加】</u></p> <p>※設問（８）も同様に修正</p>
<p>⑨</p>	<p>設問（６）          選択肢として「地域における助け合いの態勢／体制」のような項目は必要ないか。（谷藤委員）</p>	<p>指摘通りに選択肢を追加。</p> <p>（修正後）  <u>2 地域における助け合いの態勢【追加】</u></p>
<p>⑩</p>	<p>設問（９）          基本的に、選択肢自体が「感じる」「やや感じる」と回答した人向けになっている。「あまり感じない」や「感じない」と回答した人向けの選択肢も必要ではないか。（例えば「地域の歴史や文化に関心がない」など）（谷藤委員）</p>	<p>指摘通りに選択肢を追加。</p> <p>（修正後）  <u>9 地域の歴史や文化に関心がない【追加】</u>  <u>10 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない【追加】</u></p>
<p>⑪</p>	<p>設問（１０）          設問（９）同様、選択肢が「感じる」「やや感じる」と回答した人向けになっている。「あまり感じない」「感じない」と回答する人にはどんな選択肢が必要か要検討。単純に「関心がない」があるだけでも違うか？（谷藤委員）</p>	<p>指摘通りに選択肢を追加。</p> <p>（修正後）  <u>8 自然に関心がない【追加】</u></p>



⑫	<p>設問（11）</p> <p>選択肢1は、「住宅の延床面積が広い」と「住宅の延床面積が狭い」に分けたほうが良いのではないか。例えば、老後に独居老人となった場合、家が広すぎてかえって快適と感しないような場合もあり得る。（谷藤委員）</p>	<p>原案のまま。</p> <p>[理由]</p> <p>当該設問は、「住まいの快適さ」の変動要因が「延床面積」なのか、「居住形態」なのか、「安全性」や「利便性」なのか、等の把握を目的としているため。</p>
<b>（本人のイベントに関する質問）</b>		
⑬	<p>質問の本文に「この1年間で経験した <u>と思われる</u> ことについて」とあるが、「と思われる」は不要と思われる。（谷藤委員）</p>	<p>指摘通りに修正。</p>
⑭	<p>選択肢の内容をみるとプラス項目が10、マイナス項目が6、中立が3つと思えるので、マイナス項目をすこし増やしてバランスをとってはどうか。（吉野委員長）</p>	<p>原案のまま。</p> <p>[理由]</p> <p>原案は、プラス項目を10、マイナス項目を9、中立を2つとして設定しているもの。</p>
<b>（属性に関する質問）</b>		
⑮	<p>設問（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTの方への配慮として、「その他」以外の工夫は考えられるか。（谷藤委員）</li> <li>・他の調査では実際にどのような選択肢が設定されているか。（竹村委員）</li> </ul>	<p>他の事例を勘案し、原案のまま。</p> <p><b>【他の調査事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が共に支える社会に関する意識調査(岩手県)…「男性」「女性」「その他」</li> <li>・次期京都市基本計画策定に係る市民アンケート(京都市)…「男」「女」「(自由記載)」</li> <li>・男女共同参画に関する大学生の意識調査(名古屋市)…「女性」「男性」「その他」</li> </ul>
⑯	<p>設問（5）</p> <p>「浪人」の場合への配慮は必要ないか。大学受験浪人の場合は「5」でもよさそうに思えるが、高校受験浪人（中学浪人）の場合は「8」になるのか。例えば「3」を「中学生（高校受験浪人を含む。）」のような表記にするなどしてはどうか。（山田委員）</p>	<p>指摘通りに修正。</p> <p>（修正後）</p> <p>4 高校生 <u>（高校受験浪人を含む。）</u></p> <p>5 高校を卒業し専門学校、短大、大学、大学院に在学 <u>（大学受験浪人を含む。）</u></p>
⑰	<p>設問(6)</p> <p>「現在、一緒に暮らしている方についてお伺いします。」は、一緒に暮らしていることが前提のような文になっているように思える。（吉野委員長）</p>	<p>指摘通りに修正。</p> <p>（修正後）</p> <p>(6) あなたの世帯についてお伺いします。</p>

⑱	<p>設問(6)</p> <p>単身赴任の場合はどのように回答すればいいか。(吉野委員長)</p>	<p>指摘を踏まえ以下のとおり修正。</p> <p>(修正後)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <del>単身である</del>→ <u>ひとり暮らしである</u></li> <li>2 一緒に暮らしている人がいる</li> <li>3 <u>単身赴任である</u>【追加】</li> <li>4 その他 ( )</li> </ol>
---	---	--

(その他)		
⑲	<p>心理学的な分析上問題が無ければ、依頼文に幸福度の統計数値を載せるなど、調査の意図がより伝わりやすくなるような記述をしてはどうか。(若菜委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の趣旨については、調査票の冒頭で丁寧に説明する(内容は別途検討)。</li> <li>・幸福度の統計数値については、回答者に対し先入観を与える懸念を考慮し、掲載しない。</li> </ul>